

64  
167



始





64-1670



商學士 小林行昌著

倉庫論

東京 巖松堂書店發兌

大正  
10.10.11  
内交

倉庫論

小林行昌著



### 倉庫及稅關初版ノ序

商業ニ關スル研究ノ進步ハ、學者ノ蘊蓄ヲ諸般ノ方面ニ吐露セシメ、今日ニ於テハ銀行、保險、海運、鐵道等、諸學ノ開拓ハ略遺憾ナキ程度ニ至リタルモ、獨リ倉庫ト稅關トノ如キハ未ダ斯學ノ一科トシテ觀ルニ足ルヘキ、秩序的學識ノ發表ヲ見ルコト甚寥々タルハ、洵ニ惜ムヘカラスヤ。

倉庫ハ近年幾分カ世間ノ注意ヲ喚起シ、或ハ證券法律論トシ、或ハ各國制度ノ比較論トシテ、一二好著ノ世ニ示サレタルモノ是レナキニアラスト雖モ、是レ尙ホ斯學ノ一資料タルニ過キス、稅關ニ至ツテハ、全ク系統アル商業學の説述之レナキカ如シ、是レ著者カ寡聞自ラ揣ラス、敢テ此新學科ヲ捉ヘテ、大方碩學ノ斧正ヲ乞ハントスル所以ナリ。

我邦ニ於ケル倉庫ノ發達ハ事近年ニ屬スルヲ以テ、之ヲ歐米先進國ノソレニ比シ、其遜色ヲ云爲スルハ固ヨリ酷ナリ、然レトモ現今ノ如ク、倉庫ノ多クカ銀行家ノ附屬業、其擔保物保管所タルニ止マラシムルハ、顧フニ斯業ノ搖籃時代ニ過キス、之ヲ以テ完全ナル金融機關ト爲シ、賣買方便ヲ供シ、其證券ノ運用ヲ圓滿盛大ナラシメ、運輸、代金取立諸般ノ業務ヲ發展セシメ、且ツ一國ノ通過貿易ニモ資ス



ル所アラシムルノ日ハ、蓋シ近キ將來ニハアラサラン、然レトモ倉庫業者及ヒ一般商業社會ノ倉庫ニ期待スル理想ハ、必ラスヤ之ニ在ツテ、現今ノ程度ニアラストセハ、今ノ秋ニ當ツテ經濟法律實務諸般ノ方面ヨリ、本邦ノ斯業ヲ評臨シ、兼テ歐米ニ於ケル慣習研究ノ資料ヲ供スルハ、必ラスシモ無用ノ業ニアラサルヘシ。稅關ヲ國家ノ一機關トシテ、其職務權限ヲ述フルハ、即チ行政法論ニシテ、是レ亦固ヨリ必要タルニ相違ナキモ、商入トシテ及ヒ經濟學者トシテハ、更ニ之ヲ經濟的實務的ニ觀察シ、其手續ノ未ヲモ審ニセサルヘカラス、著者ハ特ニ此點ニ重キヲ措キテ説明シ、自ラ商業學的稅關論トシテ一系統ヲ樹立シ、且ツ多少世ニ裨補アルヘキヲ信スルモノナリ。

明治四十二年四月下浣

著者識

### 倉庫第六版ニ就テ

本書發刊以來版ヲ改ムル毎ニ、常ニ增補訂正ノ勞ヲ惜マザリシモ、單ニ舊版ヲ補足改竄スルニ止リ、嘗テ大斧鉞ヲ加フルニ至ラズ、從テ全體トシテ調和ヲ缺キ、且ツ往々前後矛盾スルガ如キ舒說モ亦之ナキニアラザリキ、是ヲ以テ今回全部ヲ組改ムルニ當リテハ、主トシテ是等ノ缺陷ヲ除キ、且ツ倉庫ノ實狀保管料率等ニ關シテ、成ルベク最近ノ資料ヲ採リ、大體上、アツプ、トウ、デイト、化スルト同時ニ、講堂ニ於ケル教材トシテノ便宜ヲ考慮シ、證券法律論其外、他ノ學科ニ於テ教授シ、若クハ實用ニ關係少キ部分ヲ省キ、以テ紙頁ヲ省クコト、爲セリ、唯公私多端、實際慣習等ニ關シ、剪裁完キヲ得ザリシ所アルハ、自ラ顧ミテ遺憾トスル所ナレドモ、今後改刪ノ機ヲ得バ、本書ニ於ケル是等ノ短所ヲ補フト同時ニ、別ニ舊版ヲ一層増大シタル



參考的ノ著作ヲモ公ニシ、以テ第六版忽卒上梓ノ罪ヲ償ハン  
コトヲ期ス、讀者乞マ之ヲ諒トセヨ。

四

大正十年九月

著者識ス

## 倉庫論目次

第一章 緒論	一
第一節 倉庫ノ意義及種類	一
第二節 倉庫ノ沿革	八
第三節 倉庫ノ利益	三〇
第二章 倉庫ノ業務	三七
第一節 業務ノ種類及會社ノ組織	三七
第二節 貨物ノ保管	三九
第一款 保管ノ意義	三九
第二款 貨物預ケ入手續	四〇
第三款 保管貨物	四四
第四款 保管料及其他ノ費用	四六
第五款 保管期間	五一

倉庫論目次

五



第六款	損害賠償	一六六
第三節	倉庫證券ノ發行	一六九
第一款	倉庫證券ノ性質及條件	一七〇
第二款	倉庫證券ノ分割及滅失	一七一
第三款	倉庫證券ノ裏書讓渡及質入	一七二
第四款	貨物ノ出庫	一七三
第四節	倉荷證券	一七四
第五節	禁流通預證券	一七五
第六節	倉庫ノ賃貸及出保管	一七六
第七節	火災保險	一七七
第八節	代金ノ取立	一七八
第九節	貨物ノ轉送	一七九
第十節	割引ノ周旋	一八〇
第十一節	荷爲替附貨物ノ取扱	一八一

第四章	米券倉庫	一八二
○第一節	米券倉庫ノ意義及特色	一八三
○第二節	米券倉庫ノ業務及其利弊	一八四
第三節	米券倉庫ノ組織及經營	一八五
第四節	米券倉庫ト混合保管	一八六
第四章	英國ノ倉庫業	一八七
第一節	緒説及入庫手續	一八八
第二節	預證券	一八九
第三節	「ウエイト、ノート」及「ロット、ノート」	一九〇
第四節	裏書及質入	一九一
第五章	米國ノ倉庫業	一九二
第六章	佛獨壘其他ノ倉庫業	一九三
第七章	倉庫ノ經營	一九四



第一節 倉庫ノ位置及構造	三三
第一款 倉庫ノ位置	三三
第二款 倉庫ノ構造	三四
第一項 緒言	三四
第二項 我邦ノ倉庫	三四
第三項 倉庫取締規則	三七
第四項 米國ノ倉庫	三八
第三款 積込及積出手續	三四
第一項 我邦ノ米倉出入庫	三四
第二項 米國ノ穀倉出入庫	三六
第二節 倉庫ノ會計	三六
第一款 勘定科目	三九
第二款 帳簿ノ組織	四二
第三款 倉庫カードノ一例	四七
第八章 保稅倉庫	五九
第一節 緒說及保管	五九

第二節 藏置貨物ノ回送庫移及積戻	五九
第三節 輸入稅ノ納附	七一
第四節 倉庫證券ノ發行	七二
第五節 私設保稅倉庫	七六
第六節 假置場	八一
第九章 參考法規	八九
(附) 農業倉庫業法ノ制定ト其批評	三五
(附錄)	
第一 預證券質入證券	
第二 禁流通貨物預證券	
第三 橫濱稅關保稅倉庫預證券	
第四 私設保稅倉庫預證券	

(目次終)



# 倉庫論

商學士 小林行昌 著

## 第一章 緒論

### 第一節 倉庫ノ意義及種類

(一) 倉庫業ノ意義 倉庫業 (Warehousing) トハ、商人カ營業トシテ他人ノ爲メニ物品ヲ保管シ、相當ノ料金ヲ收メテ、其收入ト爲スノ業務、所謂倉庫會社ノ業務、商法第三編第九章ノ倉庫營業ヲ意味スルモノトス。

#### 一、倉庫ハ商人ノ營業ナリ。

倉庫業ハ營業ナルカエヘニ、營業トシテ間斷ナク經營スルヲ要ス、時々他人ノ物品ヲ預ルカ如キハ倉庫業ニアラス、又常ニ他人ノ物品ヲ預ルモ、無報酬ナルトキハ倉庫業ニアラス、然レトモ其經營者ハ個人ナルト、會社ナルト、將又組合ナルトチ間ハサルモノトス。

#### 二、倉庫ハ他人ノ爲メニ物品ヲ保管ス。

第一章 緒論 倉庫ノ意義及種類



商人カ自己ノ物品ヲ保管センカ爲メニ、其私有倉庫ヲ管理スルハ、固ヨリ倉庫營業ニアラス、必ラスヤ他人ノ物品ヲ保管スルヲ要ス、次項種類ノ部ニ私有倉庫ヲ加ヘタルハ、倉庫其モノ、分類ナルカ爲メニテ、便宜上ニ出ツ。

### 三、倉庫ハ物品ヲ保管ス。

倉庫カ保管スルモノハ物品、即チ動産ノ一種ニテ、不動産ヲ保管スルモノハ我邦ノ倉庫業ニニアラス、但シ民法ノ寄託契約ハ廣ク物ヲ保管スルコトヲ認ムルヲ以テ、不動産モ亦保管ノ目的物タルヲ得ヘシ、米國ノ耕地保管(Field Storage)ノ如キハ蓋シ其一例ナリ、尤モ之ハ耕作地其物ヲ保管スルト云フモ、其實耕作地上ノ農産物ヲ保管スルヲ以テ目的トスルモノナリ。

物品申貨幣、有價證券ノ如キ貴重品ヲ保管スルハ、銀行ノ所謂保護預ニシテ、倉庫營業ニ關セサルヲ常トス、但シ保稅倉庫ハ貴重品ヲモ保管ス。

### 四、倉庫ハ必ラスシモ藏置場ヲ要セス。

倉庫ハ普通半ナル建築物ヲ所有シテ、之ニ寄託物ヲ藏置スルヲ常トスルモ、物ノ種類ニ依リテハ、必ラスシモ建物ニ入ルヲ要セサルモノアリ、例ヘハ銅、鐵、材木ノ保管ノ如シ。

### 五、倉庫ハ一般ニ流通證券ヲ發行ス。

倉庫ハ他人ノ物品ヲ保管スルモノナルカ故ニ、必スシモ預證券ノ如キ流通證券ヲ發行スルヲ要セサルモ、近世ノ倉庫ハ一般ニ之ヲ發行シ、法律ハ之ニ物權的效力ヲ附與シテ、賣買、質入ノ便ヲ與フルヲ特色トス、我邦ノ倉庫モ亦預ケ主ノ申込ニ依リテ之ヲ發行スルモノト定ム。

往時商業尚幼稚ニシテ商品ノ數量僅少ニ、取引ノ速度モ亦遲々タリシ時代ニ在ツテハ、商人ハ孰レモ自家ノ倉庫ヲ有シテ商品ヲ貯藏シ、我邦ノ如キハ今日ニ至ルモ、尙ホ其棟數ノ多キヲ以テ榮譽ト爲スノ風アリト雖モ、輒近商業取引大ニ發展シ、貨物ノ聚散頻繁ト爲ルニ從ヒ、商人カ各自

倉庫ヲ備ヘテ、取引毎ニ市場ニ運搬スルカ如キハ、煩勞經費共ニ耐フル所ニアラス、殊ニ都會ノ地ニテ商業殷盛ナル地域ニ在ツテハ、土地ハ年ト共ニ狹隘ヲ加ヘ、地價ハ益々騰貴シテ、一箇ノ倉庫ヲ設クルスラ容易ナラサルカ如キ有様ナルヲ以テ、貨物ノ集散ニ便ニ、且ツ地價ノ比較的低廉ナル部分ヲ選ンテ、相當ノ倉庫ヲ設ケ、廣ク一般商人ノ依頼ニ應シテ商品ヲ保管シ、倉庫證券ノ發行、其他ノ業務ヲ營ム者ヲ生スルニ至レリ、而シテ現今倉庫業ハ銀行業、保險業、運送業等ト同ジク、一個ノ商業機關トシテ重要ノ地位ヲ有シ、其組織經營ノ如何ハ、當ニ倉庫業者其者ノ休戚ニ關スルノミナラス、延テ一國經濟界ノ隆替ニモ關スヘキモノナルヲ以テ、商法ハ特ニ之カ爲メニ數十條ノ規定ヲ設ケ、又商業學ノ一分科トシテモ大ニ研究セラル、ニ至レリ。

(II) 倉庫ノ種類 學者ハ倉庫ヲ區別シテ保稅倉庫(又狹義ノ倉庫)(General Warehouse)及ヒ保稅倉庫(Bonded Warehouse)ノ二種ト爲ス、本書ニ於テ主トシテ說カントスル所ノ倉庫ハ即チ保稅倉庫ニシテ、保稅倉庫トハ主トシテ輸入稅未濟ノ貨物ヲ保管スル倉庫ナリ、兩者共ニ商人ノ貨物ヲ保管シ、保管料ヲ收ムルハ其撰ヲ一ニスルモ、前者ノ目的カ單ニ普通ノ商品ヲ保管シ、輸入稅ノ納付ト何等ノ關係ヲ有セサルニ反シ、後者ハ外國ヨリノ輸入品ニシテ、未タ輸入ノ手續ヲ了セス、隨ツテ更ニ再輸出スヘキヤモ圖ラレサル商品ニ對シ、特別ノ便益ヲ供シ、徐ロニ時機ヲ待テ、之ヲ取引スルコトヲ得セシムルノミナラス、他ニ轉送セシトスルカ如キ場合ニ在テハ、非常ニ簡易ノ方法ニ依ルコトヲ得セシムル等ノ差アリ、而シテ保稅倉庫ニモ亦二種ノ別アリテ、



一ヲ官設保稅倉庫ト云ヒ、他ヲ私設保稅倉庫ト云フ、官設保稅倉庫ハ稅關ニ附屬シテ其ノ一部ヲ成スモノニテ、私設保稅倉庫ハ私人ノ設立ニ係リ、大藏大臣ノ認許ヲ得、其監督ノ下ニ立ツモノナリ、前述ノ如ク、其ニ輸入稅ニ關スル點多キヲ以テ、之ヲ稅關ノ著書ニ讓ル亦不可ナカルヘシト雖モ、予ハ其倉庫ノ一種タルノ故ヲ以テ、之ヲ本書ノ最後ノ章トシテ略說スルコト、セリ。

保管倉庫ハ亦之ヲ一般倉庫及ヒ特別倉庫ノ二種ニ大別スルコトヲ得。  
(甲)一般倉庫 我邦ノ普通倉庫會社カ營ム如ク、廣ク各種ノ物品ヲ保管シ、特ニ保管貨物ヲ或一種類ニ限ラサルモノナリ、歐米ニテハ特別倉庫ノ發達増加スルニ隨ヒ、一般倉庫ハ稍振ハサルノ傾キアリト云フ。

(乙)特別倉庫 特ニ或一種類ノ物品ヲ保管シ、或ハ冷藏庫ノ如ク或特別ノ目的ヲ有スル倉庫ヲ總稱シタルモノニシテ、之ニ次ノ種類アリ。

(尤モ現今我邦ニテハ特別倉庫ト稱スヘキモノ未ダ少ク、米、麵、石油、氷、鹽等ノ外之ナキヲ以テ、次ノ分類及說明ハ主トシテ米國政府ノ報告ニ依ルモノト知ルヘシ。)

(一)冷藏倉庫 (Cold Storage or Refrigerator Warehouse) 肉類、果實、野菜、鵝卵等、腐敗シ易キ商品ヲ保管スルヲ以テ目的トシ、特別ノ構造、設備ヲ有スル冷室ヲ有スルヨリ此名アリ、我邦ニテモ近年東京及大阪ニテ此種ノ倉庫ヲ設立シタルモ、未タ好成績ヲ收ムルコト能ハス、米國ニテハ近年冷藏貨物ノ増加實ニ著シキモノアリ、之ニ連絡シテ陸上ニハ冷藏貨車アリ、海

洋ニハ冷藏船舶アリテ、腐敗貨物ノ保存及ヒ運送ハ、遺憾ナク行ハレツ、アリト云フ。

(二)浮動倉庫 (Floating Warehouse) ハ船舶ニ設備シタル倉庫ニシテ、一船ヨリ他船ニ積替ヘ、又ハ或ル倉庫ヨリ他ノ倉庫ニ庫移スル場合ニ用ヒラル、米國ノ浮動穀物倉庫 (Floating elevator) 我邦ノ海上倉庫ノ如キハ即チ之ニ屬ス。

(三)器具倉庫 專ラ家具又ハ農具ヲ預ル倉庫ニテ、是亦次ノ二別アリ。

A. 家具倉庫 (Household Goods Warehouse) 常用以外ノ家具ハ、火災盜難等ヲ避ケンカ爲メ、之ヲ或場所ニ保管セサルヘカラス、家具倉庫ハ專ラ此目的ノ爲メニ起レルモノニテ、米國ニテハ起源頗ル古ク、且ツ其進歩著大ナルモノアリ、多ク西北部ニ於テ、時々居所ヲ轉スル者多キ地方ニ行ハレツ、アリ。

B. 農具倉庫 (Implement Storage and Transfer House) 農具ノ保管及ヒ運送ヲ營ムモノニテ、農期ノ終ルト共ニ入庫シ、其始ル時期ヲ待チテ出庫ス、農業ノ盛ナル米國ノ如キ地ニ在リテハ、便益少ナカラサルヘシ。

(四)鐵道及埠頭倉庫 (Railway and Wharf Storage) 鐵道會社カ自己ノ倉庫ヲ有シ、託送貨物中一定ノ時期ヲ經テ、尙ホ引取ラサル物ヲ入庫シ、一定ノ保管料ヲ徵收シ、或ハ其所有倉庫ヲ倉庫會社ニ賃貸シテ倉庫業ヲ營マシム、米國ニ於テハ、倉庫ハ鐵道ト最モ親密ノ關係ヲ有シ、其所在地ハ多ク鐵道線路ノ集合點ニ在リト云フ。

(五)物產倉庫 穀類、棉花等或一種類ノ重要商品ニ限り、專門的ニ保管スル倉庫ニテ、其種類次ノ如シ。

A. 穀物倉庫 (Grain Elevator) 主トシテ小麥ヲ保管スル倉庫ニシテ、世界ニ於ケル小麥ハ、一箇年内六、七、八ノ



三ヶ月間ニ於ケル收穫ニ依リテ、其四分ノ三ヲ供給スト云ヘハ、如何ニ多額ノ小麥カ、此種ノ倉庫ニ集ルヤチ想像スルニ難カラサルヘシ、而シテ近來米國ニ於ケル穀物倉庫ハ多ク鐵道會社、又ハ穀物商或ハ穀物仲買人ノ掌裡ニ歸シ、一般公衆ハ哈ント其恩澤ニ浴スル能ハス、鐵道會社又ハ穀物會社ハ全西部ヲ通シテ各主要産地ノ停車場ニ、百石乃至四千石ヲ收容スルニ足ルヘキ大倉庫ヲ有シ、之ヲ仲買人其他ニ貸シ與フルヲ以テ、仲買人等ハ小麥類ヲ買ヒ集ムルニ從テ、之ヲ預ケ入ル、狀況ナリト云フ、我邦ノ農業倉庫モ亦此種類ニ屬ス。

B、棉花倉庫 (Cotton Warehouse) 棉花ノ産出ハ米國東南部ニ多キカユヘニ、棉花倉庫モ亦多ク此地方ニ在リ、而シテ棉花ノ保管ハ壓搾業ニ親縁ナ有シ、鐵道會社モ亦運送上壓搾業ニ關係アルヲ以テ、鐵道會社ハ諸所ニ壓搾所ヲ所

有ス。

C、煙草倉庫 (Tobacco Warehouse) 州所有ノモノアリ、私設ノモノアリ、州立倉庫ハ其起源最モ古ク、検査、保管料等ハ固ヨリ法律(州ノ)ニ依リテ規定セラル、頗ル寛大ナリト云フ。

D、羊毛倉庫 (Wool Warehouse) 米國ハ世界羊毛重要産出國ノ一ナレト、羊毛倉庫ハ割合ニ少シ、是レ袋ニ入レテ自己ノ農舍ニ貯キ、或ハ屋外ニ雨敵ヒテ施シテ放置スル者多キト、倉庫ニ設置スルコト長キニ亘ルトキハ、乾燥ニ過キテ、蟲ノ付ク恐アルカ爲メナリ。

E、齒倉庫 本邦信州、上州、武州地方ニ見ル所ニシテ、專ラ齒ヲ保管スルヲ以テ目的トスルモ、之ヲ擔保トシテ貸出ヲ兼テ行フ者少カラス、或ハ獨立ノ會社ニ屬シ、或ハ製糸業者ノ所有物ナリ、買入先(即チ産地)ニ在ルモノハ、買ヒ集メタル後、乾燥(殺蟄)シテ貯藏シ、漸次生糸製造所ニ送ルモノトス。

(十六) 耕地保管 (Field Storage) 穀物、棉花等ノ農産物カ、尙ホ畑地、農舍ニ在ル場合ニ、其産物ニ付キ保管ノ責ニ任スルモノニテ、之ニ二種アリ、一ハ農産物ノ貯ヘラルヘキ建物ヲ倉庫會社カ借入レテ産物ヲ保管スルモノ、二ハ此建物内ニ住居スル者ヲ會社ノ代理人、或ハ是等財產ノ委任保管者ト爲ス場合はレナリ、孰レモ米國西部及西南部ニ起リタルモノニテ、收穫ヲ見

込ミ金融ヲ附クルニ便アリ。

(七) 散荷保管 (Yard Storage) 鐵、材木ノ如キ、場所ヲ要スルコト多ク、且ツ保管上ノ設備ヲ要スルコト少キ物ニ行ハル、方法ニシテ、貨物ノ所在地、又ハ置カレントスル場所ヲ劃シテ、會社ニ賃貸シ、會社ハ其物品ノ保管ニ任スル仕組ナリ、而シテ此業務ノ主タル目的ハ、亦金融ノ便ヲ得セシムルニ在リテ、會社ハ貸主ト銀行トノ間ニ立チテ融通ノ便ヲ圖ル。

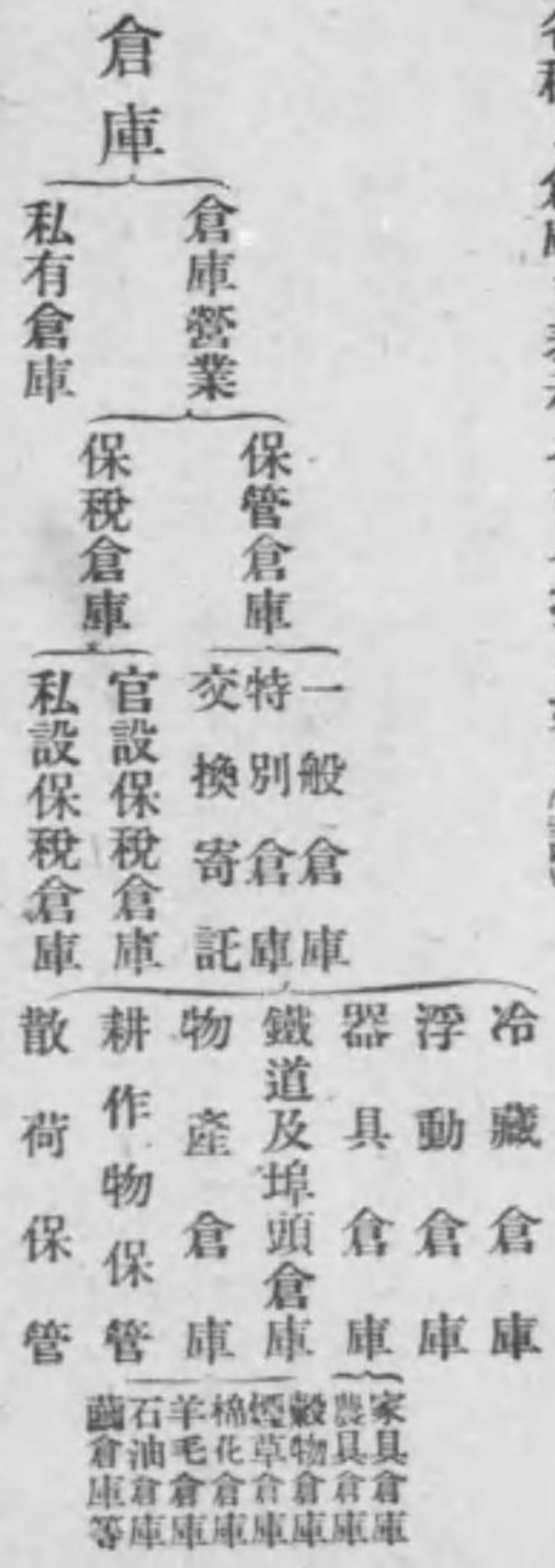
(八) 交換寄託 (Deposit for Exchange) 倉庫カ他人ノ物品ヲ保管スト云ヘハ、銀行カ金錢ヲ預ルト異リ、現物ヲ其マ、保存管理シテ、之ヲ返却セサルヘカラス、本邦ノ倉庫業モ、世界各國ノ倉庫業モ、一般ニ此意味ニ於テ保管スルヲ通則ト爲セトモ、外國ニハ往々同一品質ノ物ハ、各預ケ主ヲ區別シテ藏置セス、之ヲ一箇所ニ混合保存シ、代替物ヲ以テ引渡ヲ爲スモノアリ、所謂混合保管ニシテ例ヘハ米國ノ穀物倉庫及ヒ歐洲ノ石油其他ノ商品倉庫ニ於テ見ルカ如シ、是レ思フニ倉庫業者カ保管ノ場所ト手數トヲ省約センカ爲メニ起リタルモノナランモ、其分類ニシテ一定公平ナランカ、見本取引ノ便モ亦尠カラサルヘシ、我邦ニ於テ現ニ之ヲ行フモノハ各米券倉庫及ヒ大阪倉庫株式會社アルノミ。

(九) 私有倉庫 (Private Warehouse) 倉庫營業ノ勃興スルニ伴ヒ、私有倉庫ノ必要ハ一面ニ於テ大ニ減少セラレタリト雖モ、或特別ノ物品大製造業者ノ如キハ、却テ自己ノ倉庫ヲ備フルヲ便トシ、私有ノ倉庫ヲ建設スル者少カラス、米國ニ於テモ煙草、羊毛、火酒、砂糖其他ノ製造



業者ニハ、私有倉庫ヲ有スル者多ク、我邦ノ繭、石油等ノ倉庫ハ多ク此種ニ屬シ、其他各製造家及商人カ自己ノ倉庫ヲ有スルハ、讀者ノ知ル所ナリ。

上述各種ノ倉庫ヲ表示スレハ次ノ如シ〔註〕



〔註〕倉庫ハ獨逸ノ Lagerhaus、保管倉庫ハ英國ノ Lock Warehouse、又單ニ Docks 云テ、佛國ノ Magasin Général 云々、保稅倉庫ハ英國ノ Bonded Warehouse、佛國ノ Entrepôt ナリ。

### 第二節 倉庫ノ沿革

(一)本邦ニ於ケル沿革 我邦現今ノ倉庫業カ其萌芽ヲ發シタルハ明治十五六年頃ナレトモ、本邦ニ於テモ維新前ヨリ一種ノ倉庫史ヲ有シ、特別ノ發達ヲ見タルカ如シ、史家ノ說ニ依レハ、徳川時代ノ初葉ヨリ流通セル所謂藏預リ切手ナルモノハ、稍現今ノ倉庫證券ニ類スル所アリ、大阪ハ當時最モ富豪多ク、貨物集散ノ中心市場タリシカ故ニ、諸國ノ大名多ク藏屋敷ナルモノヲ此地

ニ設ケ、毎年米穀其他ノ國產ヲ輸送シ、藏元(大名ノ臣下ニテ國產ノ販賣、其他之ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱フ者)若シクハ出人ノ商人ヲシテ之ヲ賣却セシメ、依テ以テ國用又ハ江戸參勤交代ノ費用ヲ辨スルノ習ヒナリシカ、其後切手ヲ以テ此等ノ廻米ヲ諸商人へ賣渡シ、正米ハ切手引替ノ契約ニテ、引渡請求ノ時マテ藏屋敷ニ預リ置クノ方法ヲ立テ、代金ヲ支拂ハ之ヲ入札拂ト爲シ、水火盜難ハ勿論減量マテ、凡テ藏屋敷ニテ保證スルコト、爲シタルカ故ニ、能ク商人間ニ流通シ、遂ニ此ノ種ノ切手ヲ質入又ハ抵當トシテ金融ノ便ヲ圖ル者アルニ至リシト云フ、而シテ藏預リ切手ハ各種ノ貨物ニ對シテ振出サレタルモノナレト、最モ多ク流通セシハ砂糖及米ノ二種ニシテ、砂糖ノ如キハ其仲買組合ニテ入札シ、藏屋敷へ對スル代金ノ支拂ニ對シテハ、連帶ノ責任ヲ負フコト、爲シタルヲ以テ、其流通最モ盛ナリシカ如シ。

藏預リ切手ノ性質ハ略前述ノ如クニテ、其物品ヲ代表シテ賣買轉輸セラル、點、及ヒ質入ニ供セラレタル點等ハ、倉庫證券ニ類スル所ナリト雖モ、藏屋敷ナルモノカ、單ニ諸侯ノ產物販賣所タルニ過キス、藏預リ切手ノ發行モ、販賣方法ノ一形式タルニ止マルニ反シ、現今ノ倉庫會社ハ他人ノ商品ヲ保管シ、倉庫證券ノ發行ヲ以テ主タル業務ト爲シ、其設立ノ目的モ亦保管料ヲ得ルニ在ルヲ以テ、藏屋敷ハ此點ニ於テ現今ノ倉庫會社ト異ナレリ、況ンヤ我邦往時ニ見タル屯倉、義倉ノ類ノ如キ、固ヨリ倉庫業ノ起源ニハアラサルナリ。



アラス、現ニ三菱倉庫ノ如キハ、三菱家一派ノ者カ銀行ノ食堂會議ニ於テ、談偶徳川時代ニ行ハレタル米穀倉庫ノ事ニ及ヒ其便益ノ少カラサルヘキヲ期シテ、試ミニ倉庫營業ヲ開始シタルヲ以テ其起源トシ、其後現今ノ如ク改良ヲ加ヘ、體裁ヲ備フルニ至リタルハ、外國ノ制度ヲモ調査シ商法ノ制定モアリタルニ由ルノミ。

維新後ニ於ケル我邦倉庫會社ノ鼻祖ハ東京深川ニ設ケラレタル倉庫會社ニシテ、明治十五年十一月資本金六萬五千圓ヲ以テ朝吹英二、原善三郎、梅浦精一等ノ諸氏カ設立シ、別ニ金融上ノ便ヲ圖ランカ爲メ、資本金貳拾萬圓ノ均融會社ヲ起セシカ僅々三年ニシテ解散セリ、之ト前後シ同年五月ニ大阪ニ於テ鴻池家ノ者資本金貳拾萬圓ヲ以テ大阪倉庫會社並ニ融通會社ヲ起シ大津及兵庫ニ支店ヲ置キ、又明治十七年ニハ神戸ニ棧橋會社、十八年ニハ大津ニ大津倉庫會社起リ、次テ二十一年東京ニ東京倉庫會社現ハレ、同年六月ニ京都ニ京都倉庫會社ノ設立ヲ見ルニ至レリ、爾後明治二十七年、八年頃マテハ、斯業依然トシテ變化ナカリシカ、日清戰後一般商業ノ振興ト共ニ、各種ノ倉庫會社陸續新設セラレ、大正八年末日ニ至ツテハ、會社組織ノ倉庫業者實ニ五〇一、拂込資本金額約九千萬圓積立金八百九十萬圓ニ上ルヲ見タリ、而シテ、近年全國各地ニ農業倉庫ノ起ルアリ、鹽倉庫、海上倉庫ナト特別ノ倉庫モ設立セラレ、ニ至リタレトモ、之ヲ歐米ノ倉庫業ニ比較スレハ、尙ホ遠ニ幾層ノ下位ニ在リ、我邦斯業ノ前途モ亦遠達ナリト謂フヘシ。

更ニ數字ニ依リテ本邦ニ於ル倉庫業發達ノ跡ヲ尋ヌルニ、明治二十二年ニハ會社ノ數僅ニ七、拂込資本金六萬圓ニ滿タス、二十五年ヨリ二十七、八年頃マテハ漸ク増加ノ傾勢ヲ示シタルモ、尙ホ社數五十二、拂込資本金百參拾萬圓ニ達セサリキ、即チ次ノ如シ。

年度	社數	拂込資本金	年度	社數	拂込資本金
二五	一一	一八一、九〇〇	二七	三八	九四九、八六一
二六	二〇	四九四、八六二	二八	五二	一、二八七、七五〇

然ルニ日清戰後、即チ三十年ニ於テ社數俄然倍加シ、資本金モ亦四百餘萬圓ト爲リ、三十三年ニハ社數二千〇二、資本金六百七拾餘萬圓ト爲リシカ、日露戰役中ハ、却テ減少シ、戰後即チ三十九年ヨリ更ニ發達シタルコト、次表ニ示スカ如シ(記入ナキ年ハ變化少キモノナリ)

年度	社數	拂込資本金	年度	社數	拂込資本金
三〇	一一〇	四、〇〇八、〇八一	四三	二六六	一五、八四九、〇三九
三一	一四七	四、七〇七、一四七	四四	三〇三	一五、九一九、七三四
三二	二〇二	六、七〇四、八一三	大正一	三三九	一五、四三九、七〇二
三三	二四九	六、三四〇、五六七	二	三九一	一七、九六〇、四八八
三四	二二二	五、七〇八、七〇〇	三	三八九	一七、五七二、〇六四
三五	二二五	五、一四四、二五八	四	四〇八	一八、三一三、五一九
三六	二四八	七、八四八、八五二	五	四五五	二一、〇三〇、二二六
三七	二七三	一〇、七〇八、九七一	六	四四六	三一、八五二、八五五
三八	二五九	一一、五三七、三五三	七	五〇一	四九、七一、六二一
三九	二五二	一四、五九〇、二八八	八		

右數字中、三九、四〇兩年度ニ於テ著シク増加シタルハ、一般會社熱ノ高マルニ伴ヒタルト、經濟界股賑ナリシトノ爲メニテ、四一、四二年ニ入りテ社數ノ減少シタルハ、基礎ノ薄弱ナル會社カ、商界不振ノ爲メニ消滅シタルモノト見ルヘク、爾後ノ發達ハ堅實ナルモ、戰後ノ瘡痍尙ホ未タ癒エス、斯業ノ發達モ稍遲々タルノ觀アリ、大正六年以來再ヒ増加シタルハ歐洲大戰ノ影響ニ因リ、企業熱勃興シタル爲メニテ、九年下半年ヨリハ減少スヘシト信ス。



(二)本邦倉庫在庫品ノ大勢 本邦重要倉庫ニ於ケル戰前戰後ニ於ケル貨物出入狀況ヲ觀ルニ、明治四十五年六月末ニ一億二千二百餘萬圓、大正元年十二月末ニ九千四百餘萬圓ト云ヘルカ如ク大體一億圓内外ニ止リ、歐洲戰亂ノ初期タル大正三年十二月ニモ一億二千五百萬圓ニ過キサリシカ、五年十二月末ニハ漸ク大戰ノ影響ヲ受ケ、二億八千萬圓ニ上リ、六年末ハ四億三千五百萬圓、七年六月末ニハ五億四千五百萬圓、八年六月末ニハ六億四千六百萬圓、同年十二月末ニハ七億五千萬圓ニ上リタルカ、九年ニハ財界過度ノ膨脹ヲ示シ、金融ハ極塞の警戒ニ變シ、株式ノ暴落ニ伴ヒテ、諸商品モ低落シ、好況ニ馴レテ思惑的在荷ヲ擁セル商工業者ハ、孰レモ不況來ニ驚キ、各倉庫ニ貨物ヲ寄託スルノ已ムナキニ至レリ、今此間ノ激増ヲ示セハ次ノ如シ。

八年十二月末 七五一、五一八、六二一 九年四月末 一〇八、六七六、二二九  
 九年一月末 七六四、四六八、八六九 同 五月末 一、二六五、二九六、〇七五  
 同 二月末 八二四、〇九四、九一八 同 六月末 一、二七六、二〇四、六六一  
 同 三月末 九三四、六六〇、一九九 同 七月末 一、二八五、二八六、三九八

然レトモ大正四年ノ暮頃ヨリ物價ハ漸ク騰貴シ、九年三月ニ其頂點ニ達シ、爾來俄ニ低落シタルヲ以テ、平時ハ金額ニ依リテ、大體ノ趨勢ヲ窺フコトヲ得レトモ、此ノ如キ波亂ノアリタル時代ニハ、物價ト個數トヲ併セテ比較セサルヘカラス、乃チ物價(日本銀行ノ調査ニ依ル)ヲ加減シテ比較スルニ、大正三年十二月末ヲ一〇〇トスルトキハ、五年十二月末ハ一四四・五ト爲ルヲ以テ、五年末ノ在庫高ハ約一億九千萬圓、六年末ノ指數ハ一八一ナレハ、約一億四千萬圓、即チ三年末

ノ約二倍ニテ、其他モ亦次ノ如シ。

年	月	物價	訂正在庫高
七年	六月	二〇六	二六四、〇〇〇、〇〇〇
八年	六月	二五〇	二五八、〇〇〇、〇〇〇
八年	十二月	三二〇	二三五、〇〇〇、〇〇〇
九年	三月	三五七	二六二、〇〇〇、〇〇〇
九年	六月	二七五	四六四、〇〇〇、〇〇〇
十年	三月	二二二	六三九、一五一、三四四
		訂實	三〇一、五〇〇、〇〇〇

見ルヘシ、八年末ハ一見三年末ニ比シ六倍ノ觀アルモ事實ニテ六年末ト大差ナク、又九年三月モ亦七倍半ニ見ヘテ、實ハ二倍一割、九年六月ノ如キ頂點ノ十倍モ實ハ三・七倍ニ過キサリコトヲ、又十年三月ハ九年六月ニ比シ、宛モ半減シタルノ觀アルモ、僅ニ三割五分減ニ過キサリナリ。更ニ九年一月以來半期ノ個數ヲ見ルニ、次ノ如シ。

年	月	物價	訂正在庫高
九年	一月	二七、八四三、六〇五	三
九年	二月	二七、五一三、八九六	四
九年	三月	二七、六二八、一九一	五
九年	四月	二九、六二五、五四二	六
九年	五月	三三、六〇一、〇二六	
九年	六月	三一、三三四、四四三	

即チ三月ハ一月ニ比シ却テ減少シタルニモ拘ラス金額ハ却テ一億七千萬圓ヲ増加シ、六月ノ五月ニ對スル關係亦然リ、唯個數ノミヲ見レハ、八年八月頃ヨリ九年三月頃マテ約二千六七百萬個ナリシモノ、四月ヨリ漸ク増加シ、其後更ニ減少シタルモノ、如シ。

再ビ金額ヲ見ルトキハ、九年七月末ノ十二億八千五百萬圓ヲ絶頂トシ、爾來漸減ノ傾向ト爲リシカ、其原因ハ(一)物價低落、(二)生産制限、(三)輸入激減等ニシテ、即チ八月ハ十二億四千萬圓、九月ハ十一億圓、十年一月ハ七億八千萬圓、二月七億二千萬圓、三月ハ六億四千萬ノ少額、即チ



戰前ノ六倍(實ハ三倍)ニ過キサレニ至レリ。  
(三)本邦重要倉庫及其在庫品 本邦ノ倉庫營業者ハ其數數百ニ上ルモ、重ナルモノハ八十前後ニ過キス、即チ次ノ如シ。

- 一、東京 東神、濠澤、商榮、帝國、日本、杉村、三菱、渡邊、住友ノ九倉庫
- 二、横浜 船渠、貿易、橫濱新港、商高、橫濱ノ五倉庫
- 三、大阪 濱華、杉村、住友、東神、三菱ノ五倉庫
- 四、神戸 東神、兵庫、住友、川西、三菱ノ五倉庫
- 五、愛知、三重 名古屋、東海、半田、岡崎、四日市、桑名、津ノ八倉庫
- 六、京都 第一、村井、共同、千本、取引所附屬ノ五倉庫
- 七、下關、門司 下關、東神、馬關、三菱ノ四倉庫
- 八、新潟、福井 北越、敦賀中央ノ二倉庫
- 九、長崎 永見、肥塚、平松、中村、高見、松本ノ六倉庫
- 十、静岡 濱松、清水、濱松委託ノ三倉庫
- 十一、函館 辨天、金森、小黒ノ三倉庫
- 十二、小樽 小樽倉庫外二十一倉庫

然レトモ右ハ單ニ會社ノ數ニ止ルヲ以テ、更ニ其規模ノ大小ヲ窺フニ、建坪ノ最モ多キハ神戸ニシテ、四十三年末ニ四萬七千三十七坪(棟數三百七十二)ニシテ、此中三菱倉庫約二萬四千坪、東神倉庫一萬百坪ヲ占ム)アリ、東京之ニ次キ、四十四年末ニ三萬百八十四坪ヲ示シ(棟數三百六

十、三菱倉庫最モ廣シ)大阪モ稍之ニ匹敵シテ、同年末ニ二萬八千三十七坪(棟數三百四十六)ナリキ、橫濱其他ノ統計ハ明カナラサルモ、橫濱以外ハ遙ニ狹小ナルヘキヲ疑ハサルナリ、而シテ三菱倉庫株式會社ノ如キハ神戸、大阪及門司ニ大規模ノ支店ヲ有シ、東神倉庫(三井系)ノ如キモ大阪神戸及門司ニ、之ニ次クノ支店ヲ設ケ、安田合名會社モ嘗テ神戸ト大阪ニ於テ斯業ヲ營ミ、住友亦之ト並ンテ兩港ニ開業シ、鴻池モ亦大阪ニ其系統ノ倉庫ヲ有ス、我邦倉庫業モ亦富豪ニ依テ企畫セラレ、且ツ渠等ニ依テ大勢ヲ左右セラル、モノ、如シ、願フニ是レ、從來ノ歴史ト固定資本額ノ大ナル割合ニ收益率尙ホ少ク、宛モ土地ニ放資スルト相似タルガ如キ「ジミ」ナル營業ナル爲メト、彼等ノ營ム銀行業(是レ蓋シ其重ナル理由ナラン)ノ補助機關タルカ爲メトニ外ナラサルナリ。  
更ニ在庫貨物ノ金高及數量ヨリ觀ルトキハ、大阪ヲ第一トシ、神戸東京之ニ次キ、(但シ個數ハ常ニ東京ヲ第二位トス)橫濱及愛知、三重ハ第三位、其他ハ遙ニ下ルモノ、如シ、今大正九年六月末日ノ在庫高ヲ見ルニ次ノ如シ。

順位	倉庫名	金額	個數
一、大	阪	四七二、七五九、九九〇	九、四二五、二四六
二、神	戸	二八九、〇五六、九七三	六、八五五、九二二
三、東	京	二五九、七〇九、一〇六	四、〇二〇、六八七
四、橫	濱	八〇、三三七、五四五	三、二二七、〇七七

第一章 緒論 倉庫ノ意義及種類



五、三愛	重知	七八、七二四、三九二	五、三愛	重知	二、二八九、三六三
六、關	門	三五、三七〇、七二一	六、關	門	一、八一九、六一一
七、京	都	一九、三八三、七六一	七、京	都	一、四三二、九五九
八、小	樽	九、一三二、〇八二	八、小	樽	一、〇三五、一六五
九、長	野	五、六三四、七五三	九、長	野	一、六五、六六二
十、函	館	三、四一〇、二二二	十、函	館	一、五七、一八七
十一、靜	岡	二、九二三、九五三	十一、靜	岡	一、二三、一三六
十二、長	崎	二、七五、九二一	十二、長	崎	八〇、九四五
十三、青	森	一、八八八、一四三	十三、青	森	八〇、三一六
十四、新	井	七九四、二二五	十四、新	井	五七、六五七
十五、福	澤	一四、三六二、八七四	十五、福	澤	五六三、五一〇
計		一、二七六、二〇四、六六一	計		三一、三三四、四四三

然レトモ、明治四十四年二月末ノ如キハ、(一)大阪(約貳千八百萬圓)、(二)東京(貳千五百萬圓)、(三)神戸(貳千四百萬圓)、(四)横濱(八百四拾萬圓)ノ如キ順序ニテ、翌四十五年二月末モ亦此順序ナリキ、然ルニ其後神戸、大阪ノ俄ニ増加セシハ、主トシテ棉花、綿織物、毛織物、粗製糖、外國米ノ増加率、東京ニ比シ遙ニ大ナルニ由レルカ如シ。

次ニ京濱、阪神等重ナル都市ノ在庫品ハ主トシテ如何ナル種類ニ屬スルヤヲ見ルニ、年度ニ依リ、又年内ノ時期ニ依リ、多少ノ差異ナキ能ハサレトモ、今大正十年三月末日ノ現在調ヲ見ルニ次ノ

如シ。

(一)東京諸倉庫ノ在庫品

(千圓未満四捨五入) 同月合計：一五五、二八四、四六六圓の中

織物	砂糖	金物	紙及原料	藥種及染料塗料	米穀	煙草	絲類
品目 金額	品目 金額	品目 金額	品目 金額	品目 金額	品目 金額	品目 金額	品目 金額
毛織物 三、七二 絹織物 四、八四 雜織物 一、八八七 絹織物 八五九	粗製糖 二、八三 精製糖 四、八五	鐵材 八、九三 金物 七、二九 雜金屬 四、九四九	洋紙 一〇、〇五 和紙 三、七 抄紙 二、三三 原料紙 六八	九〇、三	外國米 四、四 內國米 二、四三 朝鮮米 六四 粳米 二二 麥類 九五 豆類 四四 雜穀 六	葉 六、八三 葉 六、八三 葉 六、八三	毛絲 三、九六 綿絲 一、六四 絹絲 五三 雜絲 四三
合計 三、五、一〇一	合計 三、四、六三	合計 三、三、九七	合計 二、二、六六	合計 九、〇三	合計 八、八三	合計 六、八三	合計 六、五三

此他肥料(二、六二二)麻及製品(一、二二〇)食料品(一、二二五)酒類(九六〇)雜品(一一、三四一)等アリ、之ヲ戰前ニ比較スルニ、大正三年四月ニハ、米穀(一〇、九〇一)砂糖(八、八四四)織物(三、四七九)金物(二、九七三)棉花(一、八二七)紙及原料(一、〇九七)肥料(六七六)絲類(六六九)ノ順序ニテ、合計參千貳拾七萬圓ナリキ、米ノ如キハ、米價騰貴シ、東京ニ米ノ集中セル時期ニ多ク、



砂糖ハ臺灣糖豐作ナルカ、瓜哇糖ノ輸入多キトキハ入庫多シ、又毛織物ノ如キハ、製造會社ガ好況ニシテ、株券ノ價高ク、其信用増進ノ結果當業者ノ金融圓滑ナルトキハ、倉荷證券ニ依リテ貸出ヲ求ムルノ必要少キヨリ、入庫高モ亦隨テ減少スル傾アリ、其他ノ製造品及其原料モ亦然ルカ如シ、但シ不況永クシテ内外市場ニ投資ヲ行フ時期ニ至レハ、在荷モ亦固ヨリ減少スルモノトス。

(二)横濱諸倉庫在庫品 ハ金物、砂糖、米穀、織物、藥種及染料、塗料等ノ多キ點ニ於テ、東京ニ類スルモ、絹絲、機械、油及蠟、食料品ノ多キ點、毛絲、棉花ノ極メテ少キ點(東京モ少ナケレドモ)ニ於テ異レリ、今大正十年二月末ノ重ナル在庫品ヲ見ルニ次ノ如シ。(千圓未満四捨五入)同月合計：八五、一八三、〇八三圓

金物		絲類		機械		藥種及染料塗料		織物		羊毛		油及蠟		食料品	
品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額
金	二、七〇〇	鐵材	二、八八八		八、七七一			毛織物	三、〇三三						
銀	七、一六六	絹絲	五、六六六					綿織物	九三三						
雜金屬	二、〇九九	毛絲	七、七六六					雜織物	八二〇						
合計	三、七〇〇	合計	二、八八八	合計	八、七七一	合計	七、〇三三	合計	一、〇三三	合計	三、〇三三	合計	二、〇三三	合計	二、〇三三

此他米穀(二、一八)麻及麻製品(一、一五二)等アリ、溯テ戰前ノ在庫品ヲ見ルニ大正三年四月末

ニハ米穀(二、九三二)金物(二、一一七)織物(一、五八八)砂糖(一、三三三)麻及麻製品(九四八)肥料(二九二)藥種又染料塗料(三二〇)木材(二二〇)食料品(一九〇)等ノ順序ニテ、合計一千百六十五圓ニ過ギズ、同期ニ於ケル東京在庫品ノ三分ノ一ニ過ギザリシガ、現今ハ半額以上ニ及ブニ至レリ。

(三)大阪諸倉庫ノ在庫品 中重ナルモノハ、織物、金物、紙及其原料、絲類、棉花、肥料、砂糖等ニテ、金額孰レモ著シク多ク、就中綿織物、綿絲及棉花(合計八千萬圓)、鐵材、洋紙ヲ然ルトス、大正十年二月末ノ重ナル在庫品ハ次ノ如シ。(合計：二三八、三三四、三四八圓)

織物		金物		絲類		紙及原料		棉花		砂糖		羊毛		藥種及染料塗料		米穀	
品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額
綿織物	三、九七六	鐵材	三、六六六	綿絲	四、四〇〇	洋紙	八、三三三	印度棉	二、〇三三	粗製糖	二、三三三					朝鮮米	二、九七七
毛織物	一、五七七	雜金屬	一、五七七	毛絲	四、八九九	紙	一、五七七	米	五、六六六	精製糖	二、八八八					外國米	一、三三三
雜織物	一、九三三	製金物	七、一六六	絹絲	一、五九九	紙	一、〇七七	雜棉	二、六六六							內國米	八、三三三
絹織物	三、三三三	雜織物	七、一六六	絹絲	五、九九九	原抄紙	七、三三三	實棉	二、六六六							豆類	二、七七七
合計	五、三九九	合計	四、三九九	合計	三、八八八	合計	三、三三三	合計	八、七七七	合計	二、〇三三	合計	三、〇三三	合計	七、〇三三	合計	一、八八八



此他機械(四、〇〇七)油及蠟類(二、三五七)麻及麻製品(二、〇二五)木材(一、八三八)皮革及製品(一、七七四)雜品(二二、二三九)等アリ、之ヲ戰前ニ比較スルニ、大正三年四月末ニハ砂糖(一一、七三五)棉花(一〇、九〇二)織物(九、三八〇)米穀(三、三七九)金物(三、一二五)紙及原料(一、八一九)絲類(一、三九五)肥料(一、一六三)ノ如キ順序ニテ、合計四千八百四十萬圓ナリキ。

(四)神戸諸倉庫ノ在庫品 中主ナルモノハ羊毛、棉花、金物、米穀、織物等ニテ、羊毛、棉花及外國米ガ著シク多シ、軸木亦多キヲ特色トス、是レ等ノ主タル輸入港ナルガ爲メナリ、今大正十年二月末ノ重ナル在庫品ヲ舉グレバ次ノ如シ。(合計：一三七、三八五、八四三圓)

羊 毛		棉 花		金 物		米 穀		織 物		染料及		肥 料		紙及原料		
品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	品目	金額	
支那棉	三、〇八三	印度棉	三、五九〇	鐵材	八、七二二	外國米	四、九五〇	毛織物	四、七二四	六、八五二	人造	三、三六六	洋紙	二、四三三		
		雜棉	九、一〇〇	金物品	五、九一九	內國米	一、二二三	綿織物	二、三九九	陸產	八三三	和紙	一一			
		實棉	八、四四	雜金銀	二、六六	朝鮮米	六、七	雜織物	一、七三	海產	六〇七	抄紙	一、四四			
		支那棉	七			雜米	三、四	絹織物	六	原抄紙	一、四四					
						豆類	八三									
						雜穀	九八									

合計	三、〇八三	合計	三、八三三	合計	一六、五七七	合計	九、五二二	合計	八、七三三	合計	六、八五二	合計	三、九六六	合計	三、七〇五
----	-------	----	-------	----	--------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------

此他機械(二、二〇二)砂糖(一、五一一)軸木(一、四三四)皮革及製品(一、三四四)等アリ、之ヲ戰前ニ比較スルニ、大正三年四月末ニハ、棉花(二一、一九二)米穀(七、二二三)織物(一、九六三)羊毛(二、五五〇)肥料(一、三七四)金物(一、〇九四)麥粉(一、三四〇)藥種及染料塗料(五四〇)軸木(四九〇)等ノ順序ニシテ合計四千六百萬圓ナリキ。而シテ神戸ハ大正二年六月ノ如キハ四千八百萬圓、大阪四千萬圓、東京貳千八百萬圓ノ如キ順序ニテ元年九月ノ如キモ、神戸三千五百五十萬圓、大阪貳千九百萬圓ナリシガ、大正三年ニ入リテハ、常ニ大阪ニ一堵ヲ輸スルモノ、如シ。

(五)愛知、三重諸倉庫ノ在庫品 中重ナルモノハ十年二月末ニ於テ(一)絲類(七、九五八)、(二)繭(七、三二五)、(三)織物(四、一五六)、(四)米穀(二、七五四)、(五)棉花(二、五五七)、(六)砂糖(一、八五九)、(七)肥料(一、二八六)、(八)金物(一、一五四)等ニテ、合計三千二百二十四萬六千圓ナリキ。

(六)下關、門司諸倉庫ノ在庫品 中重ナルモノハ十年二月末粗製糖(六、九五五)、抄紙原料(一、七〇九)、米穀(一、二七〇)等ニテ、合計約千五百萬圓ナリ。

(七)京都諸倉庫ノ在庫品 中重ナルモノハ、十年二月末ニ於テ、(一)葉蔴(五、六一六)、(二)織物(二、七一八)、(三)米穀(一、〇九三)、(四)藥種及染料塗料(九七六)等ニテ、其他麻及麻製品、洋紙、金物、絲類等ナリ、同月ノ合計ハ千三百六十二萬圓ナリキ。



同年二月末ニ於テ全國ヲ通ジテ多カリシハ、羊毛(五四、四五二)、毛織物(五二、七三七)、毛絲(一九、三四四)、綿絲(二九、九八六)、棉花(五四、二六九)、綿織物(四九、〇三二)、金物(一〇六、三二四)ノ中鐵材五三、〇六三)、砂糖(六〇、一七七)中粗製糖五〇、五二四)、洋紙(三二、八六七)、藥品(三二、八七三)、機械(一六、九四八)、肥料(二〇、五四九)、鹵(二三、五九三)、米穀(三六、五九三)中外米一二、二六七、內國米七、四一八、鮮米五、三七九、豆類六、〇四四)、葉莖(一二、四三五)等ナリキ、之ヲ戰前ニ比較スルニ、大正三年四月末ノ重ナルモノハ、棉花(三一、五四四)、米及豆(二六、五九四)ニテ中、外米、六、七三二、內國米七、八三九、豆類二、〇三三)、粗製糖(二二、九九六)、綿織物(八、六六一)、金物(七、五三四)ニテ中、鐵材四、三五四)肥料(五、九六三)ニテ海産ヲ除ク)、洋紙(二、六八三)等ナリキ。

扱テ全國諸倉庫ノ在庫品ヲ通觀スルニ、例ヘハ各地方ノ農業倉庫、新潟ノ如ク主トシテ米穀肥料ヲ保管スルモノ、若クハ函館ノ如ク食料品ト米穀トヲ主トスルモノ、或ハ信州諏訪倉庫ノ如ク繭及生絲ヲ主トシ、福島縣ノ絹絲倉庫ノ如ク絹絲ノミヲ保管スル、農業又ハ工業専門ノ倉庫ハ暫ク措キ(是等ハ農業又ハ製造家ノ金融機關ト爲ル)前記阪神京濱其他諸倉庫ニ寄託セラル、貨物ハ、總テ商人又ハ製造家ノ機關、殊ニ金融機關又ハ賣買機關ト爲ルモノニテ、神戸、横濱ヲ始メ、關門、長崎諸港ノ如キ主タル貿易港ニ集ル貨物ハ固ヨリ、東京、大阪ノ如キ龐大ノ人口ヲ包容スル都市ニ保管セラル、貨物ト雖モ、一旦其倉庫ニ收メラレテ、更ニ他地方ニ分配セラレ、或ハ其附近ノ

工業原料ト爲ルモノ少カラサルカ如シ、蓋シ其主要貨物タル、外國米、粗製糖、棉花、羊毛、金物、織物、肥料、紙ノ如キハ、倉庫所在地ニ於テ、直接日用ニ消費セラル、モノ少カルベケレバナリ。

輸テ外國貿易ト倉庫トノ關係ヲ窺フニ、輸出品ハ倉庫ニ寄託セラル、モノ極メテ少ク、倉庫ヲ利用スルモノハ輸入品、若クハ內國産品ノ內國消費貨物ニ屬スルモノ、如シ、例ヘハ生絲、絹織物、銅、輸出綿絲等ノ如キ、輸出重要品カ之ヲ利用スルモノ甚稀ナルカ如シ、(大正九年ノ春暴落以來ノ現象ハ例外ナリ)是レ願フニ輸入ハ買方ニシテ、荷爲替金ノ支拂等金繰ノ必要多キモ、輸出ハ賣方ニシテ、荷爲替ノ便アリ、倉庫ニ託シ金融ノ便ヲ求ムルノ必要ナキ爲メニ職由スルモノニシテ、輸出貨物カ積出港ニ在ル時期短少ナルカ如キハ(是レ地方生産者カ輸出時期ニ臨ミテ、地方ヲ發送スルニ由ル、尤モ輸入モ亦其時期ナキニアラサルモ、輸入ノ時期ト、内地消費即チ内地販賣ノ時期トハ同時ニ爲ス能ハサルコト少カラス、殊ニ見越輸入ノ場合ニ於テ然リトス)其補助因タルニ過キサレモノトス、蓋シ輸入貨物ニシテ其賣捌ノ時期ト輸入ノ時期トカ遠カルモ、若シ金繰ノ必要ナケレハ單ニ保管ノミノ爲メ、殊更ニ營業者タル倉庫業者ニ依頼スル必要少カルヘケレハナリ。(保税倉庫ヲ利用スルハ亦主トシテ金繰ノ爲メ也)

今輸入品ノ太宗タル棉花ニ付テ觀察スルニ、其大分部ハ神戸ニ輸入セラレ横濱ハ其五分ノ一ニ過キス、是レ我邦紡績業ノ大分部カ京阪附近ヨリ以西ニ存在スルカ爲メニシテ、棉花ノ分布割合ハ



大阪附近中國筋六割又ハ六割五分、東京二割、名古屋附近一割五分ト云ヘルカ如キ所以ナリ、即チ棉花入庫高ノ神戸、大阪ニ多ク、東京ニ少キ所以ニシテ、(横濱ニ少キハ東京ニ廻ルカ爲メナリ)以テ工業及輸入貿易ト寄託品トノ關係ヲ推知スルコトヲ得ヘシ。

次ニ外國米ヲ見ルニ大正二年ニハ其輸入高神戸千百萬圓、横濱千四百萬圓ト云ヘル割合ナリシモ年度ニ依テ同ノカラス、入庫高ハ阪神ト、京濱トハ略同額ニ在ルモノ、如シ。又毛織物ノ輸入高モ、神戸稍多キモ(大正二年ニ神戸五百六拾萬圓、横濱四百五拾萬圓)是等ハ一方ハ大阪一方ハ東京ニ轉スルモノト見ヘ、東京、大阪ノ在庫品伯仲ノ間ニ在リ(但シ内國産モ寄託セラル、ヲ以テ、完全ニ比較シ難シ)其他銑鐵、鐵板、鐵管ノ如キ双方ニ輸入セラレ、大阪又ハ東京附近ノ鐵工場ニ入りテ、市内若クハ各地ニ分配セララル、爲メニヤ、金物ハ從來兩者在庫品大差ナカリシガ、京濱ノ合計ト大阪トノ在庫高ト伯仲スルニ至レリ、實綿ノ如キハ(肥料ト爲ル)神戸ニ輸入セララル、ノミナルヲ以テ(少額ナレトモ)入庫ハ阪神ニ限ラル、ヲ見ルヘシ。而シテ輸入砂糖ハ現今多ク爪哇ノ原料糖ナレトモ(其輸入ハ主トシテ神戸ナリ)、原料ノ大部分ハ臺灣移入ニ屬シ、寄託ハ大阪又ハ東京ノ倉庫ニ依ルモノ、如シ、又内國米ノ如キハ全國各倉庫ニ寄託セラル、モ東京、大阪ニ多キハ市民消費高ノ多キト、之ニ伴フ取引方法發達ノ爲メ、相場ノ中心タルカ爲メナルヘシ。尙ホ工業トノ關係ヲ見ルニ、全國ヲ通ジ主タル在庫品ハ、米穀、海產物、食料品等ヲ除ケハ、棉花、粗製糖、羊毛、鐵材、抄紙原料、繭、軸木、實綿ノ如キ工業原料ニアラサレハ、織物、絲、

紙、麻又ハ金物製品ノ如キ製成品ニ外ナラサルヲ以テ、工業ノ勃興ト斯業トハ最モ密接ノ關係ヲ有スルモノト知ルヘシ。

更ニ倉庫ハ年内如何ナル時期カ最モ充滿スルヤヲ見ルニ、入庫貨物ノ種類ニ依リテ同シカラス、内國産米穀ガ其出廻期節ニ多ク。輸入品ノ輸入時期ニ多キハ言フヲ俟タサルモ(棉花ノ輸入ハ十二月ヨリ翌年七八月頃マテ盛シニ、輸入米ハ三四月ヨリ六七月ニ多ク、羅紗ハ五、六、七月ニ盛ナルモ、例ヘハ鐵塊ノ如キ、毎月大差ナキモノモ之アリ)之ヲ統計ニ徴スルニ、例年平均(全國)多忙ナルハ三四月頃ヨリ八九月頃マテナル如シ。

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
四十二年	四、八三三	七、三三九	七、六五五	五、八三三	八、七九九	八、五四九	八、五九九	八、三三三	六、九九七	七、八七七	六、六六六	六、七七一
四十三年	六、四〇四	七、九九七	七、九六六	八、八八九	九、七七一	九、五七七	九、二二五	九、〇四三	八、四四三	八、五三三	八、五七一	
四十四年	八、九六六	六、三三三	九、九三三	一〇、七〇〇	一六、〇〇七	二五、〇〇七	二九、六二二	二四、三〇八	九、一八〇	八、〇〇七	六、九九七	七、五五七
大正元年	五、三三〇	七、一三三	八、四七四	一〇、一四二	一七、八四三	二二、三九〇	二二、七四四	二六、五五九	九、八四七	八、八六六	九、四九九	
大正二年	九、六八二	一〇、六八二	二八、四四四	一七、三三三	一四、三三三	一四、五八五	一五、九二二	一四、三三三	一三、八八八	一三、三三三	一三、三三三	一三、三三三

農業倉庫ノ狀況 農業倉庫ノ總棟數ハ、大正九年七月二十五日現在一千八百ニシテ、其建坪六萬七百二十二坪アリ、之ヲ經營主體別ニ分テバ、産業組合六百三十、縣郡及町村ノ農會四十六、町村十五ニシテ、之ヲ前年同期ニ比スレバ、棟數三百六十一、建坪一萬三千二百二十六坪ヲ増加セリ、今大正八年三月末迄ニ事業年度ヲ終了シタルモノ、内、成績報告ヲナセルモノ七十五倉庫



ニ就テ、其重ナル出入高ヲ示セバ次ノ如シ。

品名	入庫	出庫
米	四五九、〇〇〇俵	四二四、〇〇〇俵
麥	一一三、〇〇〇俵	六四、〇〇〇俵
鹽	一八、〇〇〇貫	一八、〇〇〇貫

之ヲ一倉庫當リニスレバ、米麥合計ノ平均取扱數量、入庫七千六百三十三俵、出庫六千六百三十六俵ニ過ギズ、未ダ充分ノ成績ヲ示サザルモ、是レ一ツハ當時農家ノ懐合餘裕多キ爲メ其必要ヲ感ズルコト少カリシト、一方建築費ノ増加シタル爲メナルベク、又爾ノ入庫高少キハ、從來ノ習慣上收穫ヲ待テ直ニ賣渡ス爲メ、並ニ從來専門ノ倉庫ノ之アルガ爲メナルベシ、尙ホ農業倉庫獎勵規則ニ依テ交付セラレタル國庫補助費ハ、六年度七萬五千圓、七年度十五萬圓、八年度二十萬圓ニテ、府縣ニ依リ最低一千圓ヨリ、一萬圓位迄ヲ交付シタリ。

**海上倉庫** 歐米諸港ヨリ本邦へ輸入セラル、貨物中ニハ、更ニ我邦ヨリ東洋、南洋方面ニ轉送セラル、モノ少カラズ、是等貨物ノ多クハ一旦神戸又ハ横濱ニ陸揚入庫ノ上、次ノ船舶ヲ待テ始メテ目的地ニ輸送セラレ、所謂「トランシッブ」ナル二重荷役ヲ爲サザルベカラズ、一方内地各港間ノ轉送貨物及輸出品中ニモ亦之ト同様ノ不便ヲ忍ビ居ルモノ亦少カラザルヲ以テ、大正八年我邦ノ有志ハ、歐米諸國ニ行ハル、海上倉庫制度ヲ我邦ニ設立ノ意義アリ、資本金一千萬圓ヲ以テ、日本海上倉庫株式會社ヲ創設シ、神戸、及兵庫横濱ニ大規模ノ倉庫船ヲ繋留シ、旁曳船業ノ兼營

ヲ見ルニ至レリ。

**鹽倉庫** 鹽ハ倉庫ヲ汚損シ易キ爲メ、普通倉庫業者ハ其保管ヲ難ハサルノ風アルヲ以テ、政府ハ鹽專賣用倉庫ヲ、外鹽移輸入港タル門司、鐵道輸送力缺乏ノ爲メ、配給圓滑ヲ欠キ易キ長野其他ノ山間地方、冬期航運ノ困難ナル伏木、敦賀並ニ漁業鹽其他鹽ノ大需要地タル小樽等十個所ヲ選定シ、大正九年度ニ總敷地三千餘坪ノ倉庫ヲ設立スベク計畫セリ、此收容力ハ約一億斤内外ナルガ、從來ノ計上少クモ三億斤ノ鹽ヲ常備シ置クノ必要アルヲ以テ、尙ホ此外ニ約二倍ノ倉庫ヲ増設スルノ必要アリト云フ。

**常平庫** 政府ハ米價調節ノ策トシテ、大正十年四月米穀法ヲ制定シ、米穀ノ賣買、交換、加工又ハ貯藏ヲ行フコト、セシガ、之ヲ私設倉庫ニ寄託スルトキハ、保管料ニ於テ失フ所少カラザルヲ以テ(豫定ノ二百萬石ヲ貯藏ストセバ、一ヶ年二百六七十萬圓ニ上ル)差當リ、三千萬圓ヲ投ジテ百萬石收容ノ倉庫ヲ建築スルノ計畫ナリト云フ。(十年六月二十五日)

次ニ保税倉庫ノ狀況如何ヲ觀ルニ、官設ニハ横濱、神戸、大阪、門司、長崎、函館各地ニ在リ、私設ニモ濱横、東京、神戸、大阪、長崎、門司、馬關、大里等ノ諸港ニ在リ、京、阪神等ハ孰レモ數箇所ニ及フ、多クハ普通倉庫ノ兼營ナレトモ、亦獨立ノモノモ之ナキニアラス、今明治三十四年以降ノ入庫高ヲ見ルニ次ノ如シ。



年度	入庫高	年度	入庫高	年度	入庫高
三	三、六八〇、〇〇〇	三	三三、四六七、〇〇〇	四	二九、四四一、〇〇〇
四	一、九七一、〇〇〇	四	三九、七七二、〇〇〇	元	六六、八六九、〇〇〇
三	一五、〇七九、〇〇〇	一	四二、六二二、〇〇〇	年	一一五、二八九、〇〇〇
三	一二、八二二、〇〇〇	二	二四、九六五、〇〇〇		
三	二一、八〇六、〇〇〇	三	三〇、二一〇、〇〇〇		

二八

即チ明治三十五年以來漸ク増加シ(多少物價騰貴ノ爲メ金額増加セシナランモ)偶四十二年度ノ如ク、著シク少ナキ年アリシモ、元年ニハ俄然六千七百萬圓ト爲リ、又翌二年ニハ更ニ倍加スルノ盛況ヲ觀ルニ至レリ、而シテ入庫貨物ノ重ナルモノヲ擧クレハ次ノ如シ。

品名	金額	品名	金額	品名	金額
米	四三、六三四、〇〇〇	綿織物	二、四七五、〇〇〇	藥材製藥	七一七、〇〇〇
砂糖	四〇、一五九、〇〇〇	鐵	二、一八八、〇〇〇	皮革類及同製品	四四四、〇〇〇
油類及同製品	八、三一四、〇〇〇	器機類	二、〇三二、〇〇〇	紙類	四三一、〇〇〇
小麥粉	四、〇〇〇、九〇〇	鐵以外之金屬及同製品	一、二五八、〇〇〇		
毛織物	二、六九六、〇〇〇	豆類	一、二〇〇、〇〇〇		

(三)英國ニ於ケル沿革 歐洲ニ於テ始メテ倉庫ヲ設ケタルハ、英國ノ「リヴァプール」ニシテ、今ヲ距ルコト約二百年前即チ千七百〇八年ニ在リ、然レトモ當時ノ「ドック」ノ目的ハ單ニ船積貨物ノ積込及陸揚ヲ便ニスルニ在リテ、一般商品ヲ保管シ、之ニ對シテ預證券ヲ發行スルニ至リ

タルハ、其後ノ案出ニ係レリ、而シテ倫敦ニ於テハ、當時ハ未タ此ノ種ノ設備アルナク、貨物ノ陸揚ハ總テ公設ノ波止場ヲ用ユヘキ親定ナリシカ故ニ、商人ノ不便少カラサリシヲ以テ、時ノ宰相「ピット」ハ率先シテ之レカ設立ヲ勸メ、始メテ「アイル、オヴ、ドック」成ルヲ告ケタリ、是レ即チ倫敦ニ於ケル「ドック」ノ嚆矢ニシテ、爾來商業ノ發達ト共ニ漸次其數ヲ加ヘ、今日ニ於テハ貨物積却ノ機關モ完備シ、鐵道モ縱橫ニ敷設セラレテ非常ノ便利ヲ供スルニ至レリ。而シテ英國ニ於ケル倉庫設立ノ主義ハ、例ノ自由主義ヲ採リ、或ル港ニ限り時ニ特許倉庫ノ存スルコトアリト雖モ、這ハ唯例外ニ屬シ、業務上其他ニ於テ殆ント自由倉庫ニ影響スルコトナキモノトス。

(四)佛國ニ於ケル倉庫 佛國ニ於テ始メテ倉庫ヲ設ケタルハ、千八百四十八年ニシテ、當時同國ノ商業界ハ恐慌ノ爲メニ大ニ紊亂シ、貨物市場ニ停滯シテ金融逼塞シ、製造業者ハ續々工場ヲ閉ツルノ慘狀ヲ呈シタルヲ以テ、政府ハ此困厄ヲ救濟センカ爲メ、其方策ノ一トシテ茲ニ倉庫會社ヲ設立セシムルコト、爲セリ、事情此ノ如クナルヲ以テ、政府ノ倉庫會社ニ對スル監督頗ル嚴密ニシテ、營業者ノ不便甚シキモノアリタルヨリ、國論沸騰、商業會議所ノ改革案ト爲リ、遂ニ千八百五十八年及五十九年ノ改正ト爲リ、其後屢々之ヲ改正シタルモ、積年ノ遺風容易ニ脱スルコト能ハス、今日ト雖モ尙ホ干涉ノ臭味ヲ存シ、到底英國ノ如ク自由ナル能ハサルカ如シ、例ヘハ其設立ニ於テモ認可主義ヲ採リ、倉庫業ヲ營マントスル者ハ、先ツ地方長官ニ請願シ、地方長



官ハ商業會議所又ハ商事裁判所ニ諮問シ、既ニ認許ヲ與ヘタルトキト雖モ、二萬法乃至十萬法ノ保證金ヲ要ストシ、唯商業會議所又ハ市會ヨリ設立ヲ請願シ、私人ニ託シテ其業務ヲ行ハシムル場合ニ限リテ、之ヲ要セスト爲スカ如キ、其適例ナリ。

此他獨逸、白耳義、伊太利、埃地利、露西亞、西班牙、和蘭諸國(註)モ前世紀ノ中葉ヨリ漸ク倉庫ニ關スル條例ヲ設ケ、今日ニ於テハ世界ノ商業地ニシテ、其設立ヲ見サルモノ殆ント之ナキニ至レリ。

〔註〕獨逸ニ於テ倉庫會社ノ始メテ起レルハ千八百七十二年ニシテ、「マインハイム」ノ會社ヲ嚆矢トス、是レ英、和、白等ノ制度ニ倣ヘルモノナリ。白耳義ハ千八百四十六年佛國ノ制度ニ倣ヒ始メテ、倉庫法ヲ制定シ、瑞西モ亦佛國ニ則ツテ之ヲ定メタルモノトス。

### 第三節 倉庫ノ利益

倉庫カ一般商業者ニ與フル便益ハ頗ル多大ニシテ、其利用ノ程度如何ハ、依テ以テ一國商業ノ發達ヲトスルニ足ルヘシ、今其利益ノ重ナルモノヲ考フルニ大凡五アリ、曰ク經費ノ節減、曰ク金融ノ流通、曰ク價格ノ維持、曰ク取引ノ便利、曰ク危險ノ擔保即チ是レナリ、以下序ヲ追フテ之ヲ略說セン。

(一)經費ノ節減 我邦從來ノ慣習ノ如ク、商人各自自家ノ倉庫ヲ設ケテ、ソレソレ商品ヲ貯藏シ

取引毎ニ一々運搬セシムルモノトセンカ、先ツ敷地ハ交通ニ便ナル地ヲ選ハサルヘカラサルカ故ニ、之ニ對シテ多額ノ資本ヲ固定セシメ、建物モ堅牢ニテ火災、盜難其他ニ耐フルモノタルヘキヲ以テ、之ニ對シテモ少カラサル資金ヲ投入セサルヘカラス、其他貨物ノ出入、手入レニ就キテモ相當ノ人員ヲ雇入レテ給料ヲ支拂ヒ、租稅公課ノ負擔ニ任スルノ必要アルノミナラス、商品ノ種類ニ依リ、又賣買ノ期節ニ依リテハ、空シク倉庫ノ全部又ハ一部ヲ空虛ニ爲シ置クコトアリ、然ルニ倉庫會社ニ託スルコト、ナセハ、單ニ僅少ノ保管料ヲ支拂フノミニテ、凡テ前述ノ如キ失費ヲ避ケ、店舗モ簡單ニ使用人モ少ク、資本ノ運用モ充分ナルヲ得テ、資本固定ノ患ヒナキヲ得可シ、サレハ此一事ノミニテモ倉庫ノ利益ハ餘リアリトイフヲ得ヘケン。

(二)金融ノ流通 倉庫ハ以上述ヘタルカ如キ、土藏建設ノ費用、其他ノ資金、及雜費ヲ省減セシムル外、更ニ特筆大書スヘキ一大利益ヲ有ス、即チ銀行業者ト相俟テ、金融上ノ便利ヲ與フルノ點ニシテ、我邦ニテハ倉庫證券ノ流通未タ充分ナラス、却テ現物ヲ銀行ニ質入シ、銀行ヨリ更ニ倉庫ニ預ケ入ル、ノ形式ヲ採リ、約束手形ヲ質入證券ニ代用シテ、以テ資金ヲ借入ル、カ如キ状態(後出)ナルカ故ニ、到底歐米ノ如キ盛大ナル證券ノ流通ヲ見ルニ至ラスト雖モ、英國ノ如キハ倉庫預リ證券ノ轉讓頗ル頻繁ニシテ、之カ爲メニ日々行ハル、所ノ競賣ハ驚ク可キモノアリト云。

商人カ單ニ倉庫ニ對シテ貨物ノ保管ヲ依頼スルニ止マルカ、又ハ借庫トシテ倉庫其物ヲ貸借スル



ニ過キストセンカ、倉庫ノ利益モ亦極メテ簡單ニシテ、前ニ述ヘタル經費ノ節減ト、後ニ述フル危険ノ擔保トノ二者ヲ出テスト雖モ、普通ニ行ハル、カ如ク、預ケ人ノ依頼ニヨリテ倉庫證券ヲ發行シタリトセンカ、倉庫證券ハ預證券及ヒ質入證券ナル二種ノ指圖證券ヨリ成リ、前者ハ以テ賣買ニ使用スヘク、後者ハ以テ擔保ニ供シ得ヘキノミナラス、殊ニ貨物ヲ代表シテ所謂物權的效力ヲ有シ、一片ノ紙片ヲ交付セハ、例ヘハ數十百俵ノ米穀ヲ讓渡スルト同様ノ結果ヲ生スル如キ便宜アルヲ以テ、貨物賣買ノ都度、現物輸送ノ運賃ト手數ヲ省クハ勿論、質人上ノ利益少カラサルナリ、蓋シ現品ノ質入ハ普通銀行業者ノ好マサル所ニシテ、商況利ナラス現品ノ賣却不利ナルカ如キ場合ニ於テハ、商人ハ資金ノ融通ヲ得ンカ爲メ、往々投ケ賣ヲ敢テセサル可ラサルコトアルモ、貨物ハ其儘倉庫ニ置キ、質入證券ヲ以テ銀行其他ヨリ資金ヲ借り入レ、一時ノ急ヲ凌キ、之ヲ取リタル銀行其他ノ質權者ニシテ更ニ資金ノ必要アルトキハ、再ヒ他ニ質入シ、丙、丁、戊ト順次流用スルニ至ラハ、其效ヤ思ヒ半ニ過クルモノアルヘク、金融上恰モ手形割引ト同様ノ便宜ヲ與フヘケレハナリ、又都合ニ依リ、一通ノ倉庫證券ヲ利用シ得ルコト後述ノ如シ。

右ハ倉庫證券ノ發行ニ伴フ普通ノ融通法ナルモ、近來深川三菱倉庫株式會社ハ一便法ヲ按出シ、荷爲替附貨物ノ荷受主ヲシテ荷受ノ資金ナキモ、永ク貨物ヲ處置スル能ハサルカ如キ不便ナカラシムル爲メ、特ニ運送會社ト荷受人トノ間ニ仲介シ、運送業者ノ爲メニ一時庫入シ、更ニ銀行ヨリ資金ヲ融通シ、貨物引換證ヲ活用シ、然ル後荷受人ニ對シ見本抽出ノ便即チ賣主ヲ發見シ、資

金ヲ得ルノ便法ヲ與フト云フ、是レ亦倉庫金融上ニ及ホス利益ノ一ナラン(後出)。

(三)價格ノ維持 商品ノ相場ハ供給夥多ノ爲メニ低落スルコト少カラス、然レトモ實際現存スル物品ノ分量カ直チニ相場ヲ左右スルニ非スシテ、賣ラントスル商品ノ量カ需要ニ比シテ多キ時ハ其相場ヲ下落セシムルナリ、故ニ此ノ如キ時ニ際シ、荷主ニシテ資金ノ餘裕アリ、強腰ニ構ヘテ猥リニ投資ヲ試ミサル時ハ、能ク商品ノ市價ヲ維持スルヲ得ヘシ、倉庫ハ又此便益ヲモ供スルモノニテ、供給夥多ノ時期ニ於テハ之ヲ倉庫ニ託シ、且ツ證券ニ依リテ資金ヲ融通シ、徐ロニ需要ノ起ルヲ持ツテ之ヲ賣却スルコトヲ得ヘシ。米麥ノ如キ供給ノ時期一定セサルモノハ、殊ニ此利益ヲ受クルコト大ナルモノアラン、交通業ノ發達カ距離ニ因ル物價ノ差ヲ平均セシムルカ如ク、倉庫業ノ進歩ハ、時期ニ因ル物價ノ差ヲ補填セシムルノ效アルモノト謂フヘシ。

(四)取引ノ便利 右ノ如ク倉庫ノ發行スル證券ハ其流通自在ニシテ、直接現物ヲ運送受授スルノ勞ナクシテ、安全且ツ迅速ニ賣買セシムルカ故ニ、此點ニ於ケル取引上ノ便利既ニ多大ナルノミナラス、倉庫ハ、同種ノ商品ヲ多量ニ集收シ、而モ産地、品位ハ買手ノ選擇ニ任スルカ如キ便宜アルヲ以テ、製造業者輸入商等ニ對シテハ好販賣所タリ、又、卸、小賣ノ商人ニ對シテハ頗ル便利ナル仕入地タルノ觀アリ、現ニ英國倉庫會社ノ公賣場(Public Sales Room)ニ於テハ寄託主ノ依頼ニ應シ、時々預證券ノ競賣ヲ行ヒ、其一特色トシテ有名ナルモノナルカ、此方法ヲ始メタルヨリ、商人其他一般ノ消費者ニテ此處ニ集ル者少カラス、延イテ倉庫業ノ繁榮ヲ加ヘタルコト



著シキモノアリト云フ。

(五)危險ノ擔保 商人カ各自自家ノ倉庫ニ商品ヲ保管シ居ルトキハ、其危險負擔ハ素ヨリ自己ノ頭上ニ在リテ、盜難其他雇人ノ怠慢過失等ヨリ生ズル損害モ、亦自ラ負擔セサルヘカス、隨テ注意監督上居常ノ心勞云フヘカラサルモノアルニ反シ、之ヲ倉庫ニ依託スルトキハ、天災、事變其他全ク已ヲ得サル事由ニ基クモノ、若クハ氣候ノ變遷、貨物ノ性質、荷造ノ不良等ニ因ルモノ、外、倉庫ハ充分ノ責任ヲ負フテ保管ノ義務ヲ盡スカ故ニ、此點ニ於テモ預ケ主ノ利益少カラス、又火災保險ノ如キモ、商人各自附ケ得ラレサルニアラサルモ、自ラ保險會社ト交渉スルハ面倒ナルヲ以テ、不知不識ノ間ニ之ヲ附スルヲ意リ、爲メニ意外ノ損失ヲ招クコト珍シカラス、然ルニ倉庫ハ多ク保險ニ附スルノ習慣ニテ、且ツ一經メニ保險會社ヘ依頼スルカ故ニ、保險料モ亦割安ナル等ノ利アルヘシ。

一般倉庫ハ單ニ貨物ノ保管ヲ爲スニ止リ、我邦ノ倉庫ノ如キモ、貨物ノ性質、氣候ノ變遷ニ因ル損害ハ、賠償ノ責ニ任セサルモ、彼ノ冷蔵倉庫ノ如キハ、貨物ノ腐敗滅損等ヲ防ク保存行爲ヲモ營ムモノニテ、是亦倉庫業ノ一新利益ナルヘシ。

右ハ保管倉庫ノ重ナル利益ナルカ、此他附隨ノ業務ニ伴フ利益ニシテ亦輕脫スヘカラサルモノアリ、例ヘハ代金取立トテ、預ケ主ニ代リ庫入貨物ノ賣却代金ヲ取立テ、且ツ現物受渡ノ勞ヲ取ルモノ、又貨物ノ轉送トテ庫入貨物ヲ遠隔ノ地ニ賣却シタルトキ、荷主ニ代リテ入庫ノマ、送達スルモノ、其外割引ノ周旋等ノ如シ、殊ニ貨物ノ轉送ノ如キハ、米國ニ於テハ寧ロ主要業務ト見ルヘキモノニテ、鐵道、船舶トノ連絡實ニ至便ナリト云フ。

(倉庫ノ弊害) 倉庫ハ以上ノ如ク種々ノ利益ヲ有スルカ故ニ、之カ利用宜シキヲ得ハ、以テ一國商業ノ發達ニ貢獻スル所尠少ニ止マラサルヘキモ、利弊相伴フハ數ノ免レサル所ニシテ、往々之ヲ害用シ、弊賣ヲ醸シタルコトアリ、即チ空荷證券ノ發行ニシテ現品ノナキモノニ對シ、恰モ之レアルカ如ク裝フテ倉庫證券ヲ發行シテ資金ノ融通ヲ得ルコト、猶ホ空手形ノ如ク爲スノ點ニシテ、現ニ我邦ニ於テモ、先年兵庫倉庫ハ此種ノ惡策ヲ弄シテ大失敗ヲ露ハシ、延イテ海外取引先ノ信用ヲ墜シタルコトアリ、又函館ノ某倉庫モ空證券ノ發行ニ關シ紛擾ヲ極メタリト聞ク、抑モ倉庫ハ信用ヲ基礎トスル者ニシテ、殊ニ倉庫證券ノ流通ノ如キハ、全ク信用ニ依リテ行ハレ、一朝之ニ疑ヲ挾ムニ至ランカ遂ニ之ヲ受授スル者ナク、隨テ倉庫ノ利益ハ大部分失ハル、コト、ナラン、商業信用ノ發達尙ホ幼稚ナル我邦ノ如キ國柄ニ在ツテハ、右ノ如キ失態ヲ生ズル、或ハ自然ノ勢ヒナランカナレトモ、退イテ我國倉庫業ノ狀況ヲ窺フニ、一般商人ハ未タ證券ノ利用ヲ知ラス、倉庫事業ハ尙ホ其發程ニ在ルノ秋ニ當リ、假令一二ニテモ此ノ如キ事實ヲ耳ニスルハ惜シム可キ事共ナリ。

米國某倉庫業者ノ如キモ、倉庫證券ノ危險ハ(一)貨物ニ關スル記載カ虛偽又ハ不完全ナルコト、(二)倉庫カ保管貨物ヲ、自ラ利用スルコト(三)相當ノ注意ヲ拂ハサルコトノ三點ニ在リトシ、是



等ノ場合ニ於テハ、倉庫ノ貨物ニ對スル全部又ハ一部ノ財產權ヲ失フヤモ圖リ難ク、唯損害賠償ノ權利ヲ殘スニ過キサルモノト爲シ、更ニ倉庫業者ノ誠實ナルコト、其營業ニ堪能ナルコト、及金錢上ノ責任ヲ感スルコトハ、當ニ倉庫ノ顧客ヲ誘引スルノ效アルノミナラス、尙商業社會及一般金融社會ヲシテ、其倉庫證券ヲ信用セシムルノ利益アリト爲セリ。

米國ニテハ往々自己ノ私有倉庫ニ保管セル貨物ニ對シ、倉庫證券ヲ發行スル者アルモ、此ノ如キハ單純ナル保管證書ナレハ、貸主又ハ買主ニ云爲セラレサル間ハ、貨物ヲ請求シ得ヘキモ、發行者可破産スルカ、貸主又ハ買主カ之ニ對シテ權利ヲ主張スルトキハ、證書所持人ハ何等ノ財產權ヲモ有スルコト能ハサルヘシ、又米國ニハ商人又ハ製造會社カ、其商品又ハ製造品ヲ保管シ取扱ハシムル目的ヲ以テ、別ニ倉庫會社ヲ設立シタルモノアリ、此種ノ倉庫中ニハ往々其支配人ヲシテ貨物ナキ證券ヲ發行セシメ、又ハ證券ナキニ出庫セシムルコトナリ、又或ハ倉庫會社自ラ商賣ヲ試ミ、入庫貨物少キトキハ、一般市場ニ於テ或商品ヲ買入レ之ヲ入庫シテ、他地方ノ銀行ヨリ資金ヲ仰クカ如キモノモ之アリト云フ。

〔註〕倉庫證券ハ寄託契約ヲ根據トスレバ、寄託契約ニシテ存在セザルカ、又ハ無効ナルトキハ、其證券モ亦當然無効ナラサルヘカラス、隨テ空證券ノ所持人ハ倉庫ニ對シテハ、唯其故意過失アル場合ニ於テ、之ニ損害賠償ヲ爲シ得ルノミニ止ル。

## 第二章 倉庫ノ業務

### 第一節 業務ノ種類及會社ノ組織

倉庫ノ行フ業務ハ國ニヨリ地方ニヨリ、將又會社ニヨリ、多少ノ差異アルヲ免レスト雖モ、茲ニハ大體我邦ノ重ナル會社カ現ニ取扱フ所ニ依リテ説明シ、外國ノ倉庫業ハ後章其節ニ至リテ述フルコト、スヘシ、今其重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ。

- 一、貨物ノ保管
- 二、倉庫證券ノ發行
- 三、倉庫ノ貸貸
- 四、火災保險
- 五、代金取立
- 六、貨物ノ轉送
- 七、割引ノ周旋

右ノ中貨物ノ保管及ヒ倉庫證券ノ發行ハ學者ノ所謂主要業務ト稱スルモノニシテ、此二者ヲ行フ者ハ現今ノ觀念ニ於ケル倉庫業者タルヲ妨ケス、第三以下ハ所謂附隨業務ナルモノニシテ、一般商業ノ發達ニ伴フテ、漸次倉庫業者ノ營業範圍ニ入りタルモノナリ、今參考ノ爲メニ三菱倉庫會社ノ營業規則ヲ見ルニ、其總則中

- 第一條 當會社ノ倉庫營業課目ハ左ノ如シ
  - 一、普通倉庫營業
  - 二、保税倉庫營業
  - 三、倉庫ノ貸貸
  - 四、受寄物ノ委託販賣及ヒ代金ノ取立

第二章 倉庫ノ業務 業務ノ種類及會社ノ組織



五、當會社各營業所間ニ於ケル受寄物ノ轉送  
六、前各項ニ附帶スル諸般ノ業務

トアリ、此項目中ニ於テ證券發行並ニ火災保險ヲ省キタルカ如キ觀アルハ、一ハ保管ニ伴フモノト認メ、他ハ別ニ列記スルノ要ナキモノト爲シタルカ爲メナラン、而シテ第二ニ私設保税倉庫ナル目ヲ置キタルハ、現今同社ハ特ニ認許ヲ受ケテ、斯業ヲ營ミツ、アルカ爲メナリ。  
以下各種ノ業務ヲ説明スルニ當リ、先ツ倉庫ノ組織ヲ述フヘシ。  
我邦ニ於テ倉庫業ヲ營ム者ハ多クハ株式會社ニシテ、事實上個人ノ資本ヲ以テ成立スルモノト雖モ、荷主ノ信用若クハ意ヲ迎ヘンカ爲メニ、殊更ニ形式上之ヲ株式組織ト爲シタルカ如キモアリ、尤モ舊三井倉庫ノ如キ合名組織ノモノ、又ハ澁澤、中村倉庫部ノ如キ個人ノモノモアレハ、一概ニハ言ヒ難シ、支店ハ三菱倉庫株式會社ノ如ク大阪、神戸等樞要ノ商業地ニ有スルモノアレハ、又全ク之ナキモアリテ一樣ナラス、内部ノ組織ハ例ニ依テ社長、取締役、監査役等ノ全體ヲ總括スルアリ、次ニ支配人、副支配人ヲ置キ、係ハ入庫係ヲ始メトシテ出庫係、庶務係(會計、統計等ノ事務ヲ取扱フ)用度係、及貨物係(又倉庫係、現場係ト云ヒ、倉庫及貨物ノ出入ヲ監督ス)等ニ分チ、ソレソレ分業ニ依ルコト、他ノ業務ニ於ケルカ如シ、倉庫業カ倉庫ノ敷地、建物等ニ要スル所ハ廣大ナルヘキヤ當然ナルモ、業務ノ性質上、人夫以外ノ係員ハ比較的多カラサルカ如シ、尙ホ此等ノ點ハ後章倉庫ノ經營編ニ於テ詳説スヘシ。

### 第二節 貨物ノ保管

#### 第一款 保管ノ意義

(一)寄託 俗ニ物ヲ預カルト云フニ種々ノ意義アリ、銀行カ金ヲ預カルト云フハ、名ハ預カルト云ヘト其實金錢ヲ借入ル、ニ齊ジク、法律上消費貸借ノ規定ヲ準用ス、銀行ハ預リタル金貨トカ、紙幣トカ、其現物ヲ返スノ義務ナク、單ニ同一金額ヲ返却スレハ足ル(利息ハ別問題)モノナレハナリ、之ニ反シテ倉庫會社カ物ヲ預ルハ右ト全然趣ヲ異ニシ、預リタル現物ヲ引渡スヘキ義務アルコト猶ホ普通人カ他人ノ物ヲ預リタル場合ノ如ク、唯異リタルトコロハ、普通人ノ預リタルヨリ少シク重キ責任ヲ負フニ在ルノミ、法律上ノ寄託ナルモノ即チ是レナリ。  
(交換寄託ハ例外ナリ(七頁)又銀行ノ預金ヲ民法上ノ不規則寄託トスルモ、是亦消費貸借ノ規定ヲ準用スルモノナルヲ以テ事實上消費貸借ニ等シ)  
寄託トハ當事者ノ一方カ其受取リタル或物ヲ、相手方ノ爲メニ保管スルコトヲ約スル契約ニシテ之ニ報酬ヲ受クルモノ(有償)ト、受ケサルモノ(無償)トノ別、及ヒ商業上ノモノト、商業以外ノモノ(民事上ノ寄託)トノ別アリ、即チ

民事寄託 有償...原則...普通ノ注意  
無償...例外...善良ノ注意  
商事寄託 有償...原則...善良ノ注意  
無償...例外...善良ノ注意

第二章 倉庫ノ業務 貨物ノ保管 保管ノ意義



民事上ノ寄託、例へハ友人ノ物ヲ預リタルカ如キ場合ニ於テハ、別ニ報酬ヲ出ス約束ナキ以上ハ、之ヲ請求スル權利ナケレト、商業上ニ於テハ、營業ノ範圍内ニ於テ、預リタルモノ、例へハ販賣ヲ依頼センカ爲メ積送シ來レル物ノ如キハ、之カ保管料ヲ請求シ得ルノ權利アルモノトス。

又民事上ノ寄託ニテ無償ナルモノハ、自分ノ物ニ對スルト同様ノ注意ヲ以テ保管スレハ可ナルモ、商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ、假令報酬ヲ受ケサルトキト雖モ、所謂善良ナル管理者ノ注意(又良家父ノ注意、若クハ抽象的注意ナト、云フ)ヲ爲スヲ要ス、商事有償寄託ヲ本業トスル倉庫會社ノ注意ノ程度モ、亦固ヨリ斯ノ如クナラサルヘカラサルヤ明カナリ。

(二)注意ノ程度 茲ニ善良ナル管理者ノ注意ト云フハ畢竟程度問題ナレトモ、ソノ理想トスル所ハ、自己ヲ標準トセス、一般人ヲ標準トシタル精密ノ注意ニシテ、例へハ若シ自己ノ物ニ對スルト同一程度ノ注意ニテ足レリトセンカ、受寄者生來粗漏ナルトキハ、自己ノ力ノ及フタケノ注意ヲ與フレハ、ソレ以上ノ責任ナシト雖モ、善良ナル管理者ノ注意ト云フトキハ、必ラスヤ通常人ノ爲スヘキ精密ノ注意タルヲ要スルカ如シ。

倉庫ハ他人ノ貨物ヲ保存管理スルヲ業トスルモノナルヲ以テ、原則トシテハ此目的ニ適應スル建築物ヲ有セサルヘカラスト雖モ、我商法ハ單ニ注意ノ程度ヲ定メテ「善良ナル管理者ノ注意」ト爲スニ止マリ、建物ニ關シテハ、何等ノ制限ヲ加ヘサルヲ以テ、苟モ此程度ノ注意ヲ加フルコトヲ得ルニ於テハ、如何ナル種類ノ建物ニテモ、如何ナル構造設備ヲ以テスルモ、毫モ妨ケナキノ理

ナリ、唯東京府ニ於テハ、去三十八年「ベスト」豫防ノ爲メ發布セル倉庫取締規則(警視廳令第四十號)ナルモノアリテ、綿密ニ建築法ヲ制限スルヲ以テ、此規定ニ準據セサルヘカラス、又保税倉庫ニ就テハ、保税倉庫法施行細則(卷末「參考法規」參照)、第三章第二十四條、第二十八條乃至第三十二條、第三十六條、第四十條、第四十一條及ヒ第五十五條ニ依ル建物、設備ヲ爲スヘキノミ。而シテ保税倉庫ニ就テハ、歐米各國多少ノ制限ヲ加フルヲ常トシ、殊ニ英國ノ如キハ最モ精密ヲ極ムト雖モ、一般倉庫ニ關シテハ、亦單ニ注意ノ程度ヲ定メ、之ヲ各人ノ任意ト爲スモノ多キカ如シ。米國ハ州ニ依リ倉庫法及判決例ヲ異ニスル國柄ナルカ、今之ニ關スル二三ノ例ヲ示セハ次ノ如シ。

(一)Mississippi 州……ニ於テハ倉庫業者ノ貨物保管ニ對スル責任ヲ、相當且普通ノ程度ニテ足リ、一般人カ自己ノ私事ニ對シテ加フル如キモノニテ可ナリトシ、更ニ倉庫ノ建築法ニ就テモ、アラユル出來事ニ耐ユルヲ要セス、單ニ普通ノ出來事ニ對シテ安全ナレハ充分ナリト爲セリ。

(It is only required of a warehouseman that he should exercise reasonable and ordinary diligence in the keeping and preservation of articles intrusted to him, such as man exercise in their own private affairs.

A warehouseman is not required by law to construct his buildings secure from all possible contingencies, but they are sufficient if reasonably and ordinarily safe against ordinary and



common occurrences.)

(一) Tennessee 州……ニ於テハ、「普通ノ注意」ヲ解シテ、佳良且ツ適材ノ倉庫業者カ類似ノ場合ニ示スヘキ注意、若クハ自己ノ業務ニ經驗アリ且ツ忠實ナル商人カ、其業務ヲ行フニ常ニ示スヘキ注意ナリトシ、倉庫ハ適當ノ建物ナルヲ要スルモ、必ラスシモ耐火性ナルヲ要セス、且ツ倉庫業者ノ負擔スル危險ノ程度ニ適應スル方法ヲ以テ、此建物ヲ監視セサルヘカラスト爲ス。

(二) New York 州……ハ、大體「ミスツビイ」州ニ等シク、注意ノ程度ハ普通ノ注意ニテ足り、如何ナル不注意カ普通ノ懈怠ト爲ルヤハ、畢竟事實問題ナリトシ、舉證ノ責任ハ亦我法律ノ如ク倉庫業者ニ在リト爲セリ（但シ倉庫ニ貨物ヲ引渡シ毀損状態ニテ之ヲ受取り、若クハ貨物ヲ喪失シタル場合ナリ）

我商法ハ倉庫ニ命スルニ、善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スヘキコトヲ以テスルモ、此規定ハ單ニ保管業者タル倉庫ノ責任ニ關スル規定ニ過キスシテ、公益的規定ニアラサルヲ以テ、豫メ特約ヲ以テ、此程度ノ注意ヲ爲サ、ルモ可ナル旨、例ヘハ輕過失ニ因ル火災ヨリ蒙レル損害ハ倉庫之ヲ賠償セスト定ムルモ、固ヨリ有效ナルモノトス、蓋シカ、ル契約ハ公ノ秩序又ハ善良ナル風俗ヲ害スルモノニアラサレハ也（四十四年七月七日函館控訴院判決例）但シ故意又ハ重過失ニ由ル損害ハ、豫メ特約ヲ以テスルモ、之ヲ免ル、コトヲ得サルモノトス（二十六年四月、及二十七年十一月大審院判決例）

(三) 保管 寄託ハ「預ケル」方ノ側ヨリ觀タル言葉ニテ、寄託ヲ受クル者、即チ受寄者（例ヘハ倉庫）ノ側ヨリ觀レハ、寄託ヲ受ケテ保管スルヲ目的トス、保管ハ蓋シ保存管理ノ行爲ナリ、商法第三百五十七條ハ倉庫營業ノ定義ヲ下シテ曰ク、倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フト。

右ハ保管ノ法律上ノ意義ニシテ本節倉庫業ノ一部タル保管モ、亦此意義ノ保管ニ外ナラス、即チ倉庫ノ根本ノ業務ニシテ、商人其他ノ依頼ヲ受ケテ、或ル種ノ貨物ヲ預リ、一定ノ保管料ヲ申受ケ、預ケ主ノ請求ニ依リテ出庫スルモノナリ（交換寄託ノ例外アルコト、既述ノ如シ、七頁）而シテ倉庫證券ハ、後ニ述フルカ如ク、預ケ主ノ求メニ依リテ發行スルモノニテ保管アレハ必ラス倉庫證券アリト云フニアラサルヲ以テ、保管ハ其レ自身獨立ノ業務タルナリ、今少シク其實際手續ヲ述ヘ、次ニ保管物、保管料等ニ及ハン。

### 第二款 貨物預ケ入手續

預ケ主ハ倉庫會社ノ御客ニシテ、御客多クレハ、收入モ又隨テ多キカ故ニ、倉庫カ依頼人ノ多キヲ望ムハ固ヨリ當然ナルモ、此等得意先ハ單ニ寄託、保管ノ關係ノミニ止マラス、爾後種々ノ信用關係ヲ生スルモノナルヲ以テ、物品サヘ持參セハ、何人ニテモ預カルト云フモノニアラス、其界限ニ名アル商人ノ外ハ、倉庫ハ之ヲ承諾スル前、多少其財産、商賣振等ヲ探知スルヲ常トス、



又預ケ主ノ側ヨリ云フモ、自己ノ貴重ナル財産ヲ委託スル所ナルカ故ニ倉庫ノ資本金、積立金、建物其他ノ堅固ナルヤ否ヤ等ハ勿論、正役ノ信用營業振、利益配當ノ割合等ヲ調査シ、單ニ保管料ノ低廉ナル點ノミニ眩惑セラレ、危險ナル倉庫ニ託スルカ如キコトナキヲ要ス。

扱今實際預ケ主ノ預ケ入手續ヲ見ルニ、會社ハスヘテ必要ノ書式ヲ備ヘ置クカ故ニ、預ケ主ハ先ツ會社ヨリ右ノ如キ申込書(寄託申込書又保管預ケ申込書トモ云フ)ヲ乞ヒ受ケ、相當欄ニ貨物ノ種類、品質、數量、荷造ノ種類、個數並ニ記號其他價格、寄託期間、住所及ヒ氏名又ハ商號等必要ノ事項ヲ記載シテ會社ニ差出スヘシ。

### 寄託申込書

一米穀 肥後米壹百俵		保管場所 深川區一色町	
記號 矣	荷造 俵入	保管料 一俵一ヶ月二付金六錢	評價總 金壹千圓也
數量 總 千六百二十貫	平均 十六貫二百目	價單 金拾圓也	要 摘
入庫日 大正十年四月十六日	保管期間 大正十年六月十六日迄		

右 寄託 候也

大正十年四月十六日

三菱倉庫株式會社 御 中

深川區練町二丁目一 地  
石山 堅造 印



右雛形ノ中摘要欄ハ、會社ニシテ若シ原則トシテ火災保險ヲ附スル定メナルカ如キ場合ニ、之ヲ要セサルトキニ其旨ヲ記入スル爲メナリ、會社ハ通例此種ノ申込書ニ依ラシムルノ習ヒナルモ場合ニヨリテハ口頭ノ申込ヲ承諾スルコトモアルヘシ、孰レニシテモ會社カ申込ヲ承諾シタルトキハ、直ニ庫入スヘキ倉庫及入庫時日ヲ指定シ、愈貨物到着ノ上ハ、貨物係ノ役員ハ預ケ主又ハ其代理人ト立合ノ上、申込書ニ依リ荷造ノ種類、個數並ニ記號ヲ検査シタル後、原狀ノママ之ヲ庫入スヘシ、尤モ會社ハ貨物ノ種類、品質、數量ニ就テハ、荷物開閉ノ爲メ、其品質、價格等ニ影響ヲ及ホスノ恐ナキモノニ限り、相當ノ検査ヲ施シ、又預ケ主カ相當ノ手数料ヲ出シテ依頼スルトキハ、精密ニ内容ヲ検査シテ之ヲ證明スルコトアルヘシ、而シテ斯ク預ケ入ノ手續ヲ了シタル後、預ケ主ヨリ何物ヲモ請求セサルトキハ、單ニ會社ノ帳簿ニ記録シ置クニ止マルモ、預ケ主ヨリ請求スルトキハ、例ノ預證券及質入證券又ハ倉荷證券其他單純ナル貨物預證書（又禁流通貨物預證書、別扱貨物預證、禁流通預證書等ノ名アリテ一定セス）若クハ保管貨物通帳ヲ發行スヘシ。

### 第三款 保管貨物

商法ハ倉庫ノ保管スヘキ貨物ノ種類性質等ニ關シテ何等ノ制限ヲ加ヘス、單ニ「他人ノ物品ヲ保管スル……」トノミ規定セルカ故ニ、如何ナル貨物ト雖モ保管シ得ルカ如キモ、倉庫營業ノ性質上、商品ニアラサルモノ、例ヘハ日用ノ衣類、家具、什器ノ如キモノハ之ヲ保管セス（歐米ニ於ケル

其向キノ特別倉庫ハ之ヲ保管ス）又倉庫ハ他人ノ貨物ヲ現狀ノママ、安全ニ保存管理スヘキモノナルコト、前述ノ如クナルカ故ニ、貨物ノ性質上保管ニ適セサルモノ、例ヘハ腐敗若クハ變性シ易キモノ、爆發物ノ如キ危險ナルモノ、惡臭ヲ放ツモノ等ハ、冷蔵庫、石油倉庫等ノ外、之ヲ保管セス、若夫公債、株券等ノ如キ有價證券、金銀、寶玉其他ノ貴重品又ハ、貨幣等ノ如ク、容積ニ比シテ價格甚大ナルモノハ、近頃興業銀行、第一銀行、正金銀行等ニ於テ開始シタル特別保護預ノ目的トスル所ニシテ、固ヨリ倉庫業者ノ受寄スル限リニアラサルナリ、今我邦倉庫業者ノ保管スル貨物ノ種類如何ト見ルニ、倉庫ノ所在地ト其種類ニヨリテ一様ナラス、或ハ信州地方ノ如ク爾爾專門ノ倉庫、其他石油、米等一種ノ物品ニ限リテ預ルモノアレハ、或ハ某倉庫ノ如ク、概括的ニ保管スヘキ物品ヲ定メ「損敗若クハ危險ノ虞アルモノ」ハ保管セス、危險物ト雖モ特別倉庫ヲ設ケテ保管スルコトアルヘシト爲スモアリ、又米穀、砂糖以下十種内外ノ商品ニ限リテ保管シ、其他ハ都合上保管ス、ナト、定ムルモアリ、粟スルニ保管貨物ノ種類ハ區々ニシテ一定セスト雖モ、實際本邦普通ノ保管貨物ハ、多ク米、麥其他穀類、砂糖、棉花、織物、絲類、葉菜、紙類、麥粉、食料品、羊毛、鐵材、金物製品、雜金屬、染料塗料及藥品、油及蠟等ナルカ如シ。

右ハ一般倉庫ニ就テ其保管貨物ヲ述ヘタルモノナレト、米國ノ家具倉庫カ家具ノミヲ保管シ、又冷蔵庫庫カ特別ノ設備ヲ作リテ（空氣ヲ冷却、乾燥、新鮮ナラシムル等ノ設備）腐敗シ易キ物品、例ヘハ肉類、果實、野菜等ヲ保管スルハ勿論ナリトス。



## 第四款 保管料及其他ノ費用

(一)保管料ノ性質 保管料ハ貨物保管ノ報酬ニシテ、倉庫營業ノ主タル目的ナリ。

而シテ普通ノ場合ニ於テハ、倉庫ノ使用料、及保管ノ責任ニ對ハル報酬等ヨリ成立スルモ、現今ハ特ニ不要ノ旨ヲ述ヘサレハ、火災保險料ヲ包含セシムルモノ珍シカラス、又貨物取扱料ノ如キハ、之レヲ込メタルモノナキニアラネト、倉庫構内ニ於ケル貨物ノ出入、運搬等ノ爲メニ使役スル仲仕人夫ハ、總テ其會社附屬ノ者ニ限リ、貨物入庫ノ際、別ニ之ヲ受取ルモノアリ、孰レニセヨ倉庫カ保管料、出入賃、又ハ看賃トシテ請求スルモノハ、豫メ一定ノ表ト爲シ置クカ故ニ、此表ニ依リテ仕拂フモノナレト、保管ニ伴フ其他ノ從タル費用例ヘハ供託競賣等ノ處分費、運賃其他ノ立替金、手数料等ハ其都度實費ヲ申受クルノ定メナリトス。

(二)保管料及諸費用支拂ノ時期 保管料其他ノ費用ヲ請求シ得ル時期ニ關シテ、少シク注意ヲ要スルハ、商法第三百七十七條ノ規定ナリ同條ニ曰ク

倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ、保管料及立替金、其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス、但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ、割合ニ應ジテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得

ト、是レ蓋シ民法カ保管ニ必要ナル費ニ關シテハ(保管ノ報酬即チ保管料ハ民法ニ於テモ固ヨリ後拂ナリ)受寄者ヲシテ其都度前拂ヲ請求シ得ルコトト爲シタルカ爲メニテ、其理由トスル所ハ、

若シ商事ノ寄託ニ於テ、前若クハ中途ニモ請求シ得ルモノトセハ、預證券ニ依リテ貨物ヲ轉讓セシメ、其現在所有者ノ知レサルカ如キ場合ニハ、寄託物ヲ競賣シテモ其支拂ニ充ツルコトヲ許サルヘカラス、斯クテハ貨物所有者ノ知ラサル間ニ、現物ノ數量減少シ居ルト云フカ如キ奇觀ヲ呈シ、取引上ノ不便少カラサルノミナラス、法律ハ報酬、立替金等ノ債權ニ對シテハ、倉庫業者ニ留置權ヲ與ヘ、其效果トシテ優先ノ辨濟ヲ得セシメタルヲ以テ、受寄物出庫ノ時ニ受取ラシムモ、毫モ損失ヲ與フルノ虞ナシ、唯一部出庫ノ場合ハ、前述ノ如キ弊害ナキ故、其割合ニ應ジテ支拂ハシムルハ當然ナリト云フニ在リ、然ルニ我邦倉庫ノ營業規則ニ依レハ供託、處分保存其他之ニ類スル臨時ノ費用ハ、出庫ノ際引取人ヨリ申受クルモ、運賃其他ノ立替金及手数料、検査料等ハ即其時依頼人ヨリ支拂ハシメ、或ハ豫メ寄託主又ハ預證券所持人等ト契約ヲ結ヒ、保管料其他諸般ノ費用ヲ毎月末ニ(時ニ隨時)寄託主又ハ證券所持人ヲシテ支拂ハシムルコトト爲スモノアリテ、毫モ不都合ナシト云フ、畢竟我邦ニ於ケル證券ノ流通未タ發達セス、所持人ノ知レサルカ如キ場合稀ナルト、倉庫ノ便宜トニ因ルモノニテ、隨テ此規定ハ、營業規則等ニ於テ支拂時期ヲ定メサル場合ニ於ケル、倉庫ノ權利ヲ定メタルモノト爲ルナリ。

(三)保管料ノ定メ方 保管料ヲ定ムル標準ハ、専ラ保管貨物ノ容積ノ大小ニ依ルヲ可トスヘキカ如クナルモ、同一容積ノモノニアモ、價格ノ大小ニ依リテ保管ノ責任ヲ異ニスルヲ以テ、價格ノ大小モ亦其標準ノ一ト爲スヘシトノ理由ニ因リ、我邦ノ保管料ヲ此點ヨリ區別スルトキハ次ノ



三種ト爲スヲ得ヘシ。

(第一)從價保管料 トハ貨物ノ數量ニ依リ、一箇月若干ト爲スモノニテ、穀類、棉花、毛絲、羊毛、昆布等ニ之アリ、是亦數量ノ種類ニ依リテ次ノ三種ニ細別スルコトヲ得。

(a)容積保管料 トハ容積ニ依ルモノニテ例ヘハ一石(穀物及種子)、一才(毛絲及麻絲、木綿以外ノ織物、鏡用玻璃等)ニ付キ若干ト爲スカ如シ。

(b)重量保管料 トハ重量ニ依ルモノニテ、例ヘハ百斤(砂糖、羊毛、銅鐵線ノ類)拾貫目(糠、長切昆布等)、百封度(マニラローブ)若クハ一噸(鐵板及鐵條等)ニ付キ若干トスルノ類ナリ。

(c)個數保管料 トハ例ヘハ一俵(米)、一枚(大豆粕)、一本(花莖)、一個(肥料、綿絲等)百把(軸木)ニ付キ若干ト爲スカ如シ、現今ハ多クハ是レナリ。

(第二)從價保管料 ハ專ラ貨物ノ見積價格(普通保險價格ヲ採ル)ノ若干歩合ト爲スモノニテ、例ヘハ神戸ニテ、寫真用紙其他高價ノ紙類ヲ從價萬分ノ十五ト爲セルカ如シ。

從來京濱ニハ日歩保管料ナルモノアリ、即チ貨物ノ價格百圓ニ付キ一日若干錢ト爲スモノニテ、例ヘハ

孟買綿綿	日歩八厘以上	支那綿	壹錢四厘以上
綿絲	七厘以上	羅紗	六厘以上
和洋葉黃	八厘以上	精製糖	八厘以上

ノ如ク爲セシカ、是亦從價率ニ外ナラサルナリ(大正二年一月現制度ニ改ム)

(第三)折衷保管料 ハ主トシテ從量率ヲ採リ、之ニ從價率ヲ加味セルモノヲ云フ、是亦三種ノ別アリ。

(a)各種ノ物品ニ對スル、一定ノ從量率表ヲ定メ、之ニ依リテ算出セル保管料(保險價格ノ若干歩合(例ヘハ千分ノ一、萬分ノ十五等)ヲ加フルモノニテ、從來ヨリ大阪ニ行ハレ、現今京濱聯合諸倉庫ノ採用セル制度ナリ。

(b)各種ノ物品ニ對スル一定ノ從量率ヲ定メ、更ニ保管貨物一個ノ價若干圓(例ヘハ參百圓)ヲ超ユルトキハ、其超過金額ニ對シ百圓ニ付キ若干錢(例ヘハ四錢)ヲ附加シテ之ヲ一箇月ノ保管料ト爲スモノ(神戸)

(c)大體百圓ニ付キ一日若干錢又ハ若干厘ト云ヘル日歩ヲ定メ、唯米麥、雜穀ニ限リ百俵(又ハ百袋)一箇月何圓何拾錢ト爲セシ、大正元年末マテノ京濱諸倉庫ノ保管料ノ如キモ、表ノ組織上ヨリ觀ルトキハ亦折衷主義ヲ採レルモノナリ(但日歩ノモノ大多數ナルヲ以テ、又第二種ニ屬スルモノト見ルモ可ナリ)

更ニ期間ノ單位ニ依リテ區別スルトキハ、月極ノモノト日歩トノ二種ニ區別スルコトヲ得、月極トハ一箇月若干ト爲スモノニテ、現今普通ニ用ヒラルル制度ナリ、之ニモ京濱諸倉庫ノ如ク、一曆月ヲ一日ヨリ十日マテ、十一日ヨリ二十日マテ、二十一日ヨリ月末マテノ三期ニ分チ、此一期



ヲ單位トシテ徵收スルモノト、阪神地方ノ如ク、一曆月ヲ十五日マテト十五日後トノ二期ニ分チ、亦此一期ヲ單位ト爲スモノトノ別アリ、日歩ハ前述ノ如ク一日百圓ニ付キ若干ト爲スモノニテ、在庫積數ニ依リテ保管料ヲ算出スルモノナレト、現今之ニ依ルモノ稀ナリトス。翻テ歐米諸國ノ制度ヲ窺フニ、國ニ依リテ區々ナレトモ、總テ純然タル從量率ヲ用ヒ、我邦ノ如ク從價及從量ノ折衷法ヲ用ユルモノ之アルヲ見ス、純然タル從價率ニ至ツテハ、其例極メテ稀ナリ。而シテ其從量率ハ如何ナル單位ヲ採ルヤ、又其制度如何ヲ見ルニ重ナルモノハ次ノ如シ。

(一)米國ノ保管料 ハ地方ニ依リ倉庫ノ種類ニ依リテ同シカラスト雖モ、之カ單位ハ一捆(Per Package)一箱(Per case)「バレル」(Per barrel)一卷(Par coil)等、總テ數量就中個數ヲ採ルモノ、如シ。而シテ期間ノ單位ニハ一週間、十日、十五日、二十日等之ナキニアラサルモ、最モ多キハ一箇月若干仙ト爲スモノニテ、斯ク定メタル場合ニハ、月末前ニ出庫スルモ、一箇月分ヲ徵收シ、或ハ初メノ月以後ハ半箇月未滿ハ無料、半箇月以上ハ一箇月分ヲ徵收シ、又十日、十五日等ヲ單位トスルトキハ、或ハ一期ニ滿タサル場合モ一期分ヲ徵收シ、或ハ實際ノ在庫日數ニ依リテ計算ス。

保管料ノ割合ハ總テ仙(Cent)ヲ以テ稱ヘ、期間ノ長短ニ拘ラス、均一率ヲ徵收スルモノ多キモ、初メノ月ハ貳拾仙、其次ヨリハ拾五仙(織物類)ト定メ、若クハ某穀物倉庫ノ如ク、九月ヨリ始メ、最初ノ十五日ハ出入庫貨共、一「ブッシュェル」ニ付キ壹仙、ソレヨリ十一月十四日マテハ、

每十五日ニ付キ半仙、十一月十五日ヨリ翌年五月十五日マテハ四仙以下ト云ヘル如ク、遞減法ヲ採ルモノアリ。

保管料支拂ノ時期ハ、貨物出庫ノ都度現金ニテ支拂フモノアレハ(Cash storage)又ハ帳簿ニ記入シ置キ、後日精算スルモノモ(Storage on account)少カラス、懸拂ノモノハ多ク實際ノ在庫日數ニ依リテ積數(數量)ノ期數ヲ掛ケタルモノヲ算出シテ計算スルヲ常トス。

(二)英國ノ保管料 英國ニテモ亦單位ヲ數量ニ限リ、例ヘハ一噸(砂糖)、一樽(酒類)百「ブッシュェル」(小麥其他ノ穀類)等ニ付キ、志、片ヲ以テ表ハスヲ常トス、期間ハ殆ント一週間ト定マレルモノ、如シ。

(三)佛蘭西ノ保管料 佛蘭西ノ定メ方モ亦多ク數量ニ依リ、例ヘハ百基、千基(佛一噸)、若クハ「ヘクトリットル」、一個等ヲ標準トスルモ、往々價格干法ニ付キ若干ト定メタルモノ之ナキニアラス、金額ハ法又ハ參ニテ、期間ノ單位ハ普通一箇月ナリ。

(四)獨逸ノ保管料 ハ亦一箇月ニ付キ、個數又ハ其他ノ數量ニ付キ、若干布トス、例ヘハ次ノ如シ(但シ保稅ノモノ也)

苹果	一箱…參布	東印度一俵…拾五布	綿實、綿
	一樽…拾布	棉花	千基…五拾布
		合衆國一俵…貳拾五布	粕及粉
麥酒	一箱…拾布	カ、オ及珈琲	一袋…五布
		椰子實	百基…八布



穀類	重キ	袋入	千基…四拾布
	バラ	同	…五拾布
	輕キ	袋入	千基…五拾布
	バラ	同	…六拾布

(五)印度ノ保管料 ハ英國ノ如ク一週間ヲ單位トシ、數量ハ一噸ヲ單位トスルモノ多キモ、其他俵、梱、立方呎等アリ、例ヘハ

穀物、一噸 棉花(袋入)一俵 セメント、一噸 古新聞紙(袋入)一立方呎  
倉庫賃…四錢 貳錢 六錢 貳錢

出入賃…貳拾錢 六錢 參拾貳錢 貳錢

(六)濠洲ノ保管料 モ亦英國ノ如ク一週間單位ニテ、一噸、一本、一樽、一箱、等ニ付キ若干志及片トス。

(四)保管料定メ方ノ長短 右ノ如ク保管料ヲ定ムル方法ニ種々アレトモ、孰レニ依ルヲ可トスヘキカ、少シク之ヲ論評スヘシ。

抑モ料率ニハ保險料ノ如ク純然タル從價率ヲ採ルヘク、又實際上之ヲ採リツツアルモノアリ、又運賃ノ如ク元來數量本位ナルヘクシテ、之ニ從價率ヲ加味シ(或ハ全ク從價何分ノ干トセル貨物アリ)タルモノアリ、又租稅、手數料ノ如ク目的物ニ依リ從價、從量孰レカヲ用ユルモノアレハ、

租稅中ニテモ關稅ノ如ク、本來從價率タルヘクシテ、實際ノ便宜上、從量率ヲ割出シ、主トシテ之ニ依ラシムルモノモ之アリトス。

今保管料ノ場合ヲ考フルニ、右各種ノ中最モ近キハ運賃ナレトモ、倉庫ハ運送人ノ如ク貨物ヲ輸送スルヲ主タル業務ト爲スモノニアラス、之ヲ安全ニ保存シ管理スルヲ以テ本領ト爲シ、保管料ハ此報酬トシテ徵收スルモノナルヲ以テ、最モ保管ノ費用、勞苦、危險アルモノニ對シ、多額ノ料金ヲ賦課スヘキハ洵ニ賭易キノ理ナリ、即チ、保管ノ場所、空間ヲ多ク占領シ、取扱ノ手數ヲ要シ、危險多キモノニ對シテハ、是等ノ少キモノニ對シテ、多クノ報酬ヲ要求スヘキ筈ナルヲ以テ、數量本位ニ依ルヘキモノ、就中容積本位ニ依ルヘキモノナルヤ多言ヲ要セサルナリ、世界各國力爭テ從量率ヲ採用セルハ蓋シ所以アリト謂フヘシ。我邦ノ諸倉庫ノ如キモ、固ヨリ計算ノ基礎ヲ數量殊ニ容積ニ採リテ、各種ノ割合ヲ算出セルモノナルコト、後ニ述フル所ノ如シト雖モ、或ハ舊制度ノ如ク日歩ヲ用ヒ(是亦算出ノ基礎ニ數量ニアレト、時價ニ依リテ、實際ノ負擔ヲ異ニスルコト、爲ルヲ以テ、從價率ヲ加味セルモノナリ)或ハ現制度ノ如ク從價若干歩合ヲ加フルハ、純然タル從量率ヲ不公平ナリト爲シ、幾分ノ從價率ヲ加味スルヲ正當ナリト觀ルカ爲メニテ、齊シク一俵ノ砂糖ニテモ(同一容積、重量ノモノト假定ス)拾圓ノモノト拾五圓ノモノトハ、保管ノ責任ヲ異ニシ、同一ノ米ニテモ、石拾貳圓ノ場合ト、貳拾圓ノ場合トハ、責任ノ程度ニ於テ差異ナカルヘカラスト云フニ在リ、一應尤ナル理由ニシテ、竟畢損害賠償金額ノ多寡ニ歸スル理由ナ



レトモ、退イテ考フルニ、各種損害ノ中、火災ニ起因スルモノハ、火災保險ヲ附シ、其料金ヲ保管料中ニ加ヘ、其責任ヲ保險會社ニ轉嫁セシムル今日ノ制度ニ於テハ、此損害ヲ考慮スルノ必要ナク、又(一)天災、事變、強盜、其他抗拒スヘカラサル災厄ニ由ル損害(二)氣候ノ變遷、防疫、鼠喰、蟲入、其他寄託物自身ノ性質若クハ瑕疵、荷造ノ不完全等ニ由ル損害(三)火災保險ヲ附セサル場合ニモ、倉庫ノ普通ノ過失ニ因ル火災ノ損害等ハ、總テ除外スル倉庫多ク、歸スル所竊盜、毀損、雨漏等ノ損害ニテ、倉庫ノ過失ニ由ル場合ノミ、賠償ノ責任アルコト、爲リ、實際家ノ説ヲ聽クニ、賠償スル場合ハ比較的少シト云ヘハ、價格ニ依リテ料率ヲ左右スル理由ハ、事實上極メテ薄弱ナリト云ハサルヘカラス。

從價率ヲ擁護スル第二ノ理由トシテ、「價格大ナルモノハ、料金ヲ負擔スル能力大ナルカ故ニ、價格ニ依テ料率ヲ異ニスルハ正當ナリ」ト云フ者アリ、然レトモ保管料ハ報酬ナルカ故ニ、租税ノ如ク負擔能力ニ比例セシムヘキモノニアラス「米カ一俵七圓ノトキハ、五圓ノトキヨリ保管料カ高シ」ト云ハ、誰カ其沒條理ニ驚カサラン。然リ理論上負擔力ヲ云爲シテ料率ヲ高下スルハ寔ニ謂レナシト雖モ、更ニ營利事業タル倉庫業ノ方面ヨリ觀ルトキハ、第一ノ理由ヲ名目トシテ、價格貴キモノニ重課スルハ、寄託主ノ感スル所少クシテ、收益ヲ多カラシムルノ利益アリ、寄託主モ亦些少ノ割合ノ増額ハ之ヲ甘受スルニ吝ナラサルヘキナリ、之ヲ要スルニ、從價率ヲ加味スルノ制度ハ、主トシテ營業上ノ便益ニ基クモノナリト謂フヲ得ヘシ。

保管料ニ從量率ヲ採ル理由ハ、既ニ述ヘタル如クナルカ、更ニ實際上ノ利益ハ數量就中個數、俵數ノ如キハ容易ニ之ヲ知ルヲ得テ料率ノ適用ニ誤リナク、料率ニシテ改定セラレサル間ハ、寄託者ハ容易ニ保管料ノ金額ヲ知ルヲ得ルノ利益アリ、諸掛ノ豫算上便益少カラサルニ反シ、現今ノ如キ折衷法ニ依ルルハ、料率ハ表面上一定セル如クニテ、其實變動常ナキ價格ノ萬分ノ若干ヲ加フルヲ以テ、事實上ノ料率ハ、價格ノ變動ト共ニ絶エス變化シツ、アルノ理ニテ、當業者モ寄託主モ不便少カラサルヘシ、唯實際ニ於テハ入庫ノ際ニ於ケル保險價格ヲ以テ見積價格ト爲スカ故ニ、此弊少キヲ得ルモ、是レ既ニ從價率ヲ加味スルノ精神ニ反スルモノニシテ、假リニ此方法ヲ認容スルモ、保險價格ナルモノハ、保險會社ノ任意ニ定ムルモノナルヲ以テ、極メテ不精確、獨斷的ナルノ缺點アリ、且ツ入庫者ハ、入庫ノ場合ニ至ラサレハ、自己ノ寄託セントスル貨物ノ保管料カ果シテ幾何ナルヤヲ、精密ニ計算スルコト能ハザルノ不利益ハ、尙ホ依然トシテ存在スルモノトス。是故ニ假リニ從價主義ヲ加味スルヲ可ナリトスルモ、豫メ此意義ニ於ケル料率ヲ作成シ、同一種ノ貨物ノ中等差ノアルモノハ、之ヲ數種ニ分チテ料率ヲ定ムルコト、尙ホ關稅ノ從量税ノ如ク爲スヲ便トスヘシ。

今二、三年ノ料率表ヲ觀ルニ、砂糖ノ中精製糖ハ每百斤(一俵)壹錢九厘ニシテ、粗製糖ハ同百斤貳錢ノ割合ナリキ、此一厘ノ差ハ精製糖ノ取扱容易ナル爲メナルヘキカ故ニ、假ニ百斤ノ見積價格ヲ

精製糖 貳拾圓 粗製糖 拾圓

第二章 倉庫ノ業務 貨物ノ保管 保管料及其他ノ費用



ナリトセハ、當時ノ從價率萬分ノ五(二千分ノ一)ヲ採リ

$$\text{(精製糖)} \quad \frac{Y.019}{2000} = \frac{Y.019}{2000} + \frac{Y.010}{2000} = \frac{Y.029}{2000} \quad (\text{貳陸九厘})$$

$$\text{(粗糖)} \quad \frac{Y.020}{2000} = \frac{Y.020}{2000} + \frac{Y.015}{2000} = \frac{Y.035}{2000} \quad (\text{貳陸五厘})$$

ノ如ク改正セハ可ナルヘシ、而シテ此見積價格ハ、過去二、三年又ハ五年ノ平均ヲ採ルモノナルノミナラス、此ノ如キ些少ノ缺點ハ、此方法ヨリ享クル利益ヲ没スヘクモアラサルナリ。斯クテ時價著シク杆格スルニ到ラハ、其時始メテ、此率ヲ改メタル料率表ヲ作ルモ妨ケナカルヘシ。若夫從價率ヲ別計算ト爲スヲ、料率表ノ外觀ヲ低廉ナラシムルノ商略ナリト云ハ、予輩亦何ヲカ云ハン。

予ハ唯各國ニ其例稀有ナル從價率加味主義ヲ全廢シテ簡明ナル從量率ト爲スノ時期ニ到ルノ日ヲ待ツ者ニシテ、斯ノ如ク一理アルカ如クニシテ、不理不便ナル制度ノ存スルハ、我邦現今ノ倉庫業カ未タ發達セサル爲メ、會社モ客モ此不便ヲ感スルノ機會少キヲ信スルト同時ニ、多少斯業ノ利用ヲ妨クルナキヤヲ危ム者ナリ。

人或ハ運賃ノ例ヲ擧ケ、運賃モ亦貨物ノ運送、保管ニ對スル報酬ナレトモ、高價品ニハ從價率ヲ用ヒ、若クハ從價率ヲ加味スルニアラスト云フ者アランモ、運送業ノ主タル目的タル輸送行爲ハ、當業者カ運送手段ヲ選フニ注意スル外、自己ノ直接ノ監視ノ下ニ此行爲ヲ爲サシムル能ハサルノ不便アリ、隨テ減失毀損ノ機會モ少カラサレトモ、倉庫業者ハ親シク使用人ヲ管理シ、保管

ニ注意スルコトヲ得ルノ利アルヲ以テ、之ヲ同日ニ論スヘカラス、且ツ運賃ノ中純然タル從價率ヲ用ユルモノハ金銀有價證券ノ如キ貴重品ナルヲ常トシ、是等ハ總輸送貨物中ノ一小部分ニ過キス、鐵道ノ高級品ノ如キハ、單ニ從價率ヲ併用スルニ過キサルモノトス。

從量率ヲ可トスルモ、何故ニ内外共、重量ヲ用ユルモノ之アリヤト云フニ、荷造ノ内容區々ナルカ、散荷ナルモノ多キカ、若クハ重量ヲ以テ稱ヘル習慣アルモノカノ如キハ、便宜上之ニ依ルヲ利トスヘキ點アリ、國ニ依リテハ、多ク一噸若干ト爲スモノモ之レアレト、之トテモ貨物ノ種類ニ依リテ料率ヲ區別シ置クヲ以テ、同一貨物ナルトキハ、重量ニ倍ノモノハ、容積モ亦ニ倍ナレハ、結局容積ニ依リタルコト、爲ルナリ。

割増ト割引 我邦ニハ、貨物ノ種類ニ依リ、從價率ヲ割増スルノ例ハ之レアルモ、外國ノ如ク、寄託貨物ノ數量多キトキ、期間長キトキ、常得意ナルトキ特ニ割引スル規定アルヲ聞カス、常得意割引ノ如キハ、實際上或ハ實行シ居ル向キモ之アルヤモ計ラレサレトモ、其他ノ割引法ヲ行フモ、想フニ斯業繁榮ノ一策タルヲ疑ハサルナリ。

(五) 荷役賃 倉庫ハ寄託貨物ニ對シ、一定ノ保管料ヲ請求スル外、普通荷役員ト稱シ、入庫貨及出庫貨(即チ出入手數料ニテ、之ヲ各別ニ定ムルモノアレト、兩者同一金額ナルヲ以テ、合算シテ出入貨ト稱スルモノ多シ)竝ニ特種荷役賃ヲ請求スルヲ常トス、特種荷役賃トハ藏引貨、拼直シ貨、仕譯拼付貨、仕譯藏出貨、假置扱貨、臨時出入貨、通過貨及ビ看貨貨ヲ總稱シタルモノ



六〇

ニテ、出入賃ノ二割乃至七割、八割ヲ申受ク。而シテ荷役賃ハ一回ノ入出庫ニ對シ一回宛徴收スルヲ以テ、保管料ノ如ク、期間ヲ單位トシ、其長短ニ比例スルモノニアラスト雖モ、是亦廣義ノ保管料ト稱スルヲ得ヘク、其金額モ少額ナラス、次表ニ示ス荷役賃ノ如キハ、一箇月ノ保管料ト略等シキ金額又ハソレ以上ナルヲ以テ、在庫一箇月ニ滿タスシテ出庫スル貨物ハ、結局保管料ノ二倍以上ト、其從價率ト看貫賃等トヲ支拂ハサルヘカラス。

荷役賃ハ元來取扱手数料ナルヲ以テ、内外共ニ從量率ヲ用ユルハ當然ニテ、出入、積込ノ難易ニ依リテ等差ヲ設ク。而シテ前述ノ如ク、倉庫ハ其會社所屬ノ人夫（之ニ常備ノモノト臨時備入ノモノトアリ、臨時ノモノハ業務ノ繁閑ニ應シ適宜、附近ノ人夫頭ニ命スルモノナリト云フ）ヲシテ專ラ之ニ當ラシメ、唯特ニ承認シタル場合ニ限り、荷主ノ命セル人夫ヲ使用スルコトヲ得セシムルモノトス。然レトモ這ハ蓋シ信用アル常得意ニ限ルモノナルヘシ、何トナレハ倉庫カ荷役賃トシテ申受クル金額ハ、取扱ノ實費ニアラスシテ、實費以上何割カニ當リ、此何割ハ事實上保管料收入ノ一種ト爲ルモノナレハナリ。

今歐米ニ於ケル荷役賃如何ヲ觀ルニ、是亦國ニ依リ地方ニ依リテ同シカラス、或ハ取扱料 (Handling charges) 又ハ引渡料 (Delivery) ナル概括的名稱ノ下ニ若干ト定ムルモノアレハ、又次ノ一例ノ如ク各別ニ示スモノアリテ、一定セサルモノノ如シ。

佛國「マルセイユ」港保管料及荷役賃

品名	單位	積込積卸	検査	入庫	出庫	併替	看貫	再併替
綿棉	〇・九五	〇・七五	一・四〇	二・八五	一・四〇	〇・五〇	〇・七〇	〇・七〇
麥粉	〇・四〇	〇・五〇	一・四〇	二・八五	一・四〇	〇・五〇	〇・七〇	〇・七〇
羊毛(不洗)	一・二〇	一・四〇	一・九〇	三・八五	一・九〇	〇・六〇	〇・九〇	〇・九〇

(右ハ保税貨物ノモノナレト荷役賃ハ大差ナカルヘシ)

(六)保管料割合表 我邦ノ保管料ハ地方ニ依リテ、其割合ヲ異ニスルヲ以テ(同一地方ノ重ナル倉庫ハ略同一、或ハ協約ニ依リ全ク同一ノ割合ヲ採ル)茲ニハ京濱倉庫聯合會ニ屬スル日本、東神、渡邊、橫濱貿易、橫濱船渠、橫濱商品、橫濱倉庫、橫濱新港、帝國運輸、三菱、商業、澁澤及杉村ノ十三社カ協定シタル割合ヲ示スコト、爲スヘシ。

京濱倉庫保管料從量率及荷役賃

保管料從量率(一ヶ月ニ付)			保管料從量率(一ヶ月ニ付)		
品名	單位	率	品名	單位	率
▲米及雜穀	斗	五厘六	▲織物	才	四厘二
▲砂糖及麥粉	噸	八厘六	▲花	箱	拾貳厘
▲糖及麥粉	噸	八厘六	▲各種織物	才	四厘二
▲糖及麥粉	噸	八厘六	▲各種織物	才	四厘二
▲糖及麥粉	噸	八厘六	▲各種織物	才	四厘二
▲糖及麥粉	噸	八厘六	▲各種織物	才	四厘二



名	稱	貨	率	摘	要
棉	▲絲及麻等	才壹錢八厘	拾九	▲金物及金物製品	釘百斤一樽參
毛	▲毛	才壹錢八厘	拾九	鐵力	鐵板八十四斤一樽參
皮	▲皮	才壹錢八厘	拾九	▲藥品染料及油脂蠟類	藥料、染料、蠟類、罐入二十才壹錢八厘百斤拾壹錢以上
和	▲紙	才壹錢五厘	一個七錢五厘以上	▲雜品	油、蠟、類、箱入二十才壹錢七厘百斤拾壹錢以上
洋	▲紙	才壹錢六厘	拾九	▲糖	糖類、箱入二十才壹錢七厘百斤拾壹錢以上
板	▲紙	才壹錢八厘	拾九	▲乳	乳類、箱入二十才壹錢七厘百斤拾壹錢以上
智	▲紙	才壹錢八厘	拾九	▲子	子類、箱入二十才壹錢七厘百斤拾壹錢以上
硫	▲紙	才壹錢八厘	拾九	▲葉	葉類、箱入二十才壹錢七厘百斤拾壹錢以上
安	▲紙	才壹錢八厘	拾九	▲草	草類、箱入二十才壹錢七厘百斤拾壹錢以上
利	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
安	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
母	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
尼	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
亞	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
石	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
亞	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
石	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
四	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
十	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
才	▲紙	才壹錢八厘	拾九		
迄	▲紙	才壹錢八厘	拾九		

一、保管料ハ貨物ノ數量ニ依ル從價率ト、價格ニ依ル從價率トヲ合計シタルモノトス。

二、一ヶ月ヲ曆月ニヨリ、一日ヨリ十日、十一日ヨリ二十日、二十一日ヨリ末日マテノ三期ニ分チ、一ヶ月ヲ單位トシテ保管料ヲ申受クヘシ。

三、從價率ハ一ヶ月ニ付貨物ノ保險價格又ハ申込價格ニ對スル萬分ノ若干トス、即チ次ノ如シ。

普通品 萬分ノ十五 危險品A級萬分ノ十八 B級萬分ノ二十一 消費稅未納品 萬分ノ十九

四、貨主ノ都合ニ依リ、保管期間滿了前ニ、證券ノ分割又ハ書替ヲナストキハ、新證券一通ニ付金貳拾錢ノ手數料ヲ申受クヘシ。

危險品目

(A級) 棉花、ガンニロバツク、大麻、黃麻、(以上鐵帶締ノモノ)酒類、經木、麥稈、眞出、蔗、繩及蠟製品。

(B級) 棉花、ガンニロバツク、大麻、黃麻、(以上鐵帶締ニアラサルモノ)人造絹糸、アスファルト、硫黃、樟腦、セルロイド玩具及細工品、木炭、油煙其他炭素末、石灰、液化セラレタル瓦斯、マツチ、アキ板張附入ノモノニ限ル)礦物性蠟類、ナフタリン、植物性又ハ礦物性油類、ヘント、油紙又ハニス引紙類及其製品、瀝青、赤燐、樹脂、智利硝石、硫化染料、タロー、其他脂肪及グリース、タール、ワニス(但スビロツトワニスを除ク)各種植物纖維、各種屑物、電機、マンゴ、シヨツテイ、飽屑。

〔註〕表中内國米ノ出入貨ニ拼方(ハイカタ)トアルハ、藏入シ排列スル(ナラマ、ツム)ノ意ニテ又「配」字ヲ用ヒ、配替(ナラベカ)ナド、稱ス。

(期間單位ノ主義) 期間ヲ十日單位トスル右ノ如キ主義ト、阪神地方ノ如ク十五日單位トスル主義ト孰レカ可ナルヤト云フニ、最モ理論ニ適スル方法ハ、嘗テ京濱ニ於テ日步計算ノ行ハレタ

第二章 倉庫ノ業務 貨物ノ保管 保管料及其他ノ費用



ル場合ニ用ヒタル如ク、實際ノ在庫日數ニ依ルモノ、即チ一日ヲ單位トスルモノニテ、十日單位、其他ハ孰レモ便宜主義ニ依ルモノナリ、換言スレハ倉庫ノ利益ヲ増加シ、且ツ計算モ幾分簡單ナラシメントスルカ爲メナリ、何故ニ倉庫ノ利益ト爲ルヤト云フニ、假ニ十日ヲ單位トスルモ、例ヘハ、九日ニ入庫シ、二十一日ニ出庫スルモ、三期間、即チ一箇月分ノ保管料ヲ徴收シ得ヘク、出入頻繁ナルトキハ此利益少カラサルヘケレハナリ。此點ヨリ觀ルトキハ英國、印度、濠洲ノ如ク一週間主義ヲ最良トシ、京濱ノ十日主義之ニ次キ、阪神ノ十五日主義ハ最モ不條理ナレトモ、是尙ホ米、獨ノ二十日又ハ三十日主義ニ比シテハ稍佳ナリト謂フヘシ、但シ料率ニシテ此不條理ヲ補フ程度ニ低カラシカ、強チ不當ト稱スヘキニアラサルナリ。

**(料率ノ協定)** 右ノ表ハ既述ノ如ク京濱十三倉庫カ料率ニ關シテ協約ヲ結ヒ、依テ以テ、保管料ノ異ルヨリ生スル不利益、就中競争ノ結果相互ニ難下クルノ弊ヲ除クニ在リ、宛モ汽船會社カ運賃ヲ、運送取扱業者カ其手數料ヲ、火災保險會社カ保險料ヲ協約スルト趣旨ヲ同フシ、一種ノ「カルテル」(聯合)ニ屬スルモノナレハ、加盟會社就中新設會社カ德義ヲ重シシ、多少ノ不利益ヲ忍フト同時ニ、相互ノ監督、破約ノ制裁ニシテ充分ニ行ハレサレハ、甲社先ツ手心ヲ加ヘ、乙社之ニ倣ヒ、遂ニ有名無實ノ協約ニ終ルコトナキヲ保セス、是レ往々火災保險料ノ協約、賣價ノ協約等ニ見ル所ニシテ、新設會社ニシテ得意關係少キモノハ、舊會社ニシテ信用アリ、得意多キモノニ比シ幾分低率ト爲シ、此點ニ於テ舊會社ニ對抗スルニアラサレハ、事業發展ハ扨措キ、經營

スラモ困難ニ陥ルヘケレハナリ、嘗テ京濱一、二ノ倉庫カ此協約ニ加ハラサシリ其消息ハ、顧フニ此邊ニアリタルモノナルヘシ。

**(料率ノ制限)** 我邦始メ歐米各國、保税倉庫ノ保管料ニ就テハ、當局ノ認可ヲ經ヘキ制限アリ、又米穀物倉庫ノ如キモ、州法ニ依リ最高限度ヲ定メ、之ヲ公告シタル上、一定ノ期間内變更スルコトヲ得サルモノアレトモ、是等ハ特別ノ性質ヲ有スルモノナルカ爲メニテ、一般倉庫ノ保險料ニ關シテハ、各國總テ當業者ノ自由ニ放任スルモノ、如シ、蓋シ普通ノ保管料ハ尙普通銀行ノ利子ノ如キモノニシテ、汽車電車ノ運賃、若クハ瓦斯、電氣ノ燈火料ノ如ク、獨占的性質ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ、放任主義ニ依ルヲ可トスヘシト雖、我邦米券倉庫ノ如キモノカ漸次發達シ、其證券カ取引所ニ於テ賣買サル、カ如キ時代ト爲ルカ、重要倉庫カ合同スルニ至ラハ、其料率ニ對シ多少ノ制限ヲ加フルノ必要ヲ生スルヤモ圖ラレサルヘシ。

**(七)保管料ノ計算例** 次ニ前記ノ割合及計算法ニ依ル計算例ヲ示スヘシ。

**例一、某米穀輸入商アリ二月二十五日ニ、蘭貢米千五百袋(一袋百七十斤、此保險價格金拾貳圓)ヲ入庫シ、三月九日ニ七百袋ヲ出庫シ、更ニ同月十四日ニ五百袋ヲ出庫シ、同月二十九日ニ貳百五拾袋ヲ入庫シ、四月十六日ニ參百五拾袋ヲ出庫シ、更ニ四月三十日ニ至リテ、殘部ヲ悉ク出庫セリ、保管料及荷役賃及看買賃ヲ問フ。**



保管料勘定帳

寄託主 山田金造

年月日	摘要	入庫高	出庫高	差引残高		期数	積数		保管料	
				数量	金額		数量	金額	従量	従價
11年 2月25日	新入庫(本人)	1,500		1,500	8,000	2	3,000	6,000		
3月9日	内出( )		700	500	9,600	1	800	9,500		
3月14日	内出( )		200	300	3,600	0	0	0		
3月20日	入庫( )	950		55	7,500	3	1,650	19,800		
4月16日	内出( )		350	200	2,400	1	200	2,400		
4月30日	内出( )		200	0	0	0	0	0		
		450	1,750				5,450	67,800	②	2
									¥ 548.5	①1.5
										¥ 389.90
										54.92
										¥ 88.52

△ ¥12 × 5,650 = ¥67,800

期数	2期 { 2月25日 ~ 3月10日 }	1期 { 3月11日 ~ 3月20日 }	0 { 3月21日 ~ }
3期 { 3月21日 ~ 4月20日 }			
2.0 錢 × 0.650 =		¥ 14.02 …… 従量保管料	
¥ 67,800 × 15 / 3 = 22,600 × 0.015 = ¥ 83.52 …… 保管料		¥ 38.90 …… 従價保管料	
出入賃 …… 10 錢 × 1750 = ¥1750 -		¥ 210.00 …… 荷役賃及看賃	
看賃 …… ¥175 × 2 = ¥350 -		¥ 28.52	

(八) 保管料ノ算出法 倉庫會社ヲ經營スル目的ハ、固ヨリ利益ヲ獲ントスルニ在ルヲ以テ、先ツ幾何ノ支出アリテ、大凡幾何ノ收入アルヤヲ豫測セサルヘカラス、今某倉庫ノ收入及ヒ支出ノ項目ヲ見ルニ次ノ如シ。

- 利益勘定
  - (1) 保管料 倉敷料、敷地料、保険料其他保管ニ關スル手数料
  - (2) 入出庫賃 米穀、雜貨、庫出入費ノ類
  - (3) 受渡料
  - (4) 貸庫料 倉庫賃貸料、及借庫者ノ賠償金、寄託主、證券所持人ノ倉庫ニ對スル賠償金ヲ含ム
- 第二章 倉庫ノ業務 貨物ノ保管 保管料及其他ノ費用



- (5) 手數料其他營業收入  
引替手數料、其他營業上ノ雜收入
- (6) 利息  
立替金、銀行預金等ノ利子
- (7) 株券書換及再渡手數料
- (8) 雜益  
貸地料、不用品賣却代其他  
臨時豫算外ノ收入
- (9) 所有物增價益  
損失勘定
- (1) 税金  
地租、所得稅、營業稅、登錄其他收入印紙費、及地方稅  
所有物火災保險料
- (2) 保險料
- (3) 貨物入出庫受渡人足賃  
他ノ倉庫ヲ借入レタル賃借料
- (4) 借庫料  
建物修繕、及什器修繕  
建物修繕、什器修繕
- (5) 營業所修繕費
- (6) 倉庫修繕費
- (7) 人員費  
重役、事務員、入夫、給仕、小使
- (8) 通信運搬費  
郵便、電信、電話、車馬、船舶
- (9) 旅費
- (10) 消耗品費  
薪炭油、瓦薪、電燈、茶、水道、官報、新聞紙、被服、諸物品(之ハ會社ノ財產ニ屬セサルモノ)

- (11) 文具、印刷及廣告費
- (12) 雜費
- (13) 雜損

筆墨、其他文具、諸印刷、帳簿用紙、廣告費等  
 辨電費、祭禮費、組合入費、輿信所費用、進物、接待、其他雜費、臨時費、小雜費  
 賠償金其他諸損

右ノ如ク收入、支出ノ項目少カラサルモ、收入中重ナルモノハ(1)(2)(3)(4)(5)ノ五種、即チ保管料、貸庫料、出入庫賃、受渡料、及ヒ手數料等ニシテ、就中保管料カ全收入ノ大部分ヲ占ムルハ勿論ナリ、而シテ此等總收入ヨリ總支出ヲ差引キタルモノハ、即チ純益ト爲リ、之ヲ配當金(資本ノ利息ニ當ル)賞與金、諸積立金(所有物原價償還積立金、配當平均準備金、準備積立金即普通ノ積立金等ヲ含ム)等ニ分配セサル可ラス、故ニ歸スル所ハ、大體上保管料ヲ以テ、資本ノ利息、諸積立金、修繕費、其他一般營業費、損害賠償金等ヲ蔽フニ足ルヘク算出セサルヘカラス、約言スレハ、諸費用及ヒ相當歩合ノ配當金、必須積立金等ヲ合計シタルモノハ、略保管料其他ノ總收入ニ一致セシメ、之ヲ以テ保管料率ノ最低限度トセサルヘカラス、然レト一般經濟界不相當ノ建築及ヒ設備ヲ爲シ、過當ノ最低限度ヲ作ルモ、需要者ニシテ、入庫ノ利益、其料率ヲ支拂フノ價値ナシトセハ、入庫貨物モ之ナカルヘキカユエニ、猥リニ莫大ノ經費ヲ投スルハ、顧フニ策ノ得タルモノニアラス、之ニ反シテ、倉庫ノ地位、設備等、需要者ノ希望ニ適合センカ、入庫貨物ハ迎ヘスシテ、自カラ其倉庫ニ充滿スヘキヲ以テ、此場合ニハ、任意其貸率ヲ高メテ、意外ノ利得ヲ獲ルナルヘシ、此邊ノ呼吸ハ猶ホ一般ノ營業ニ異ナラサルナリ。



一般ノ標準ハ上述ノ如クニシテ、サテ實際ノ料金ヲ決スルニ當ツテハ、保管貨物ノ容積、重量、品質、形狀、荷造、取扱ノ難易、保管期間ノ長短等ヲ斟酌セサルヘカラス、今假リニ總坪數四千坪(但シ平均四分ノ一ハ空シキモノト假定ス)ヲ有スル某倉庫會社ノ半期ノ總收入拾貳萬圓(内ニ割ヲ雜收入トス)アレハ、營業費ヲ支拂セ、相當ノ積立金ヲ設ケ、且ツ相當ノ配當ヲ爲スコトヲ得トセハ、即チ營業トシテ成リ立チ得ルモノトセハ、一坪ノ收入半期參拾貳圓、一坪一ヶ月ニ付キ五圓參錢參厘ヲ獲サルヘカラス、即チ

$$\frac{¥120,000 \times (1-2)}{4,000 \times \frac{1}{2}} = ¥32.00 = \frac{¥6,083}{100}$$

然レトモ、前述ノ如ク、物品ニ依リ、保管料ノ眞ノ割合ヲ異ニセサルヘカラス、例ヘハ、同シク一坪ノ場所ヲ占領スルモ、砂糖ハ米ヨリ高ク、米ノ中ニテモ、袋入ハ小ナルユエ、其割合幾分カ高キカ如シ、又價格ノ高キモノハ、安キモノヨリ、比較的料金率モ高クスルモノナルヲ以テ、物品ニ依リテ差等ヲ設ケ、會社ノ實收入ヲ平均シテ、坪五圓參錢參厘ト爲ラシムレハ可ナリ、且ツ此他保管貨物ノ火災保險料ナルモノアリテ、是亦貨物ニ依リテ同シカラサルカユエニ、此點ニ於テモ、亦率ニ多少ヲ生スルモノトス。

例ヘハ米ハ一坪二十俵ツ、(之ヲ一坪ノ臺敷ト云フ)十六層ニ積ミ得ルモノトセハ、一坪全體ノ收容量百六拾俵ト爲リ、此火災保險金額一俵拾五圓保險料一ヶ年千分ノ一、二トセハ、一俵ニ付キ

一月壹厘五毛ト爲ルカユエニ、純收入坪五圓參錢參厘ナラシメンニハ、一俵ノ保管料ヲ參錢參厘トセサルヘカラサルカ如シ。

$$¥15.00 \times \frac{1.5}{100} \times \frac{1}{12} = 1厘5毛 \dots 1俵1ヶ月ノ火災保險料$$

$$\frac{¥5,083}{100} = ¥0.0316$$

$$\frac{¥0.0316}{15} = ¥0.0021$$

サレト、從價率、荷役賃ヲ酌シ、從來ノ慣習、他ノ倉庫ノ振合、入庫者ノ多少(即チ一般經濟界ノ振、不振)等ニ依リ、更ニ之ヲ手加減セサルヘカラス、例ヘハ從價率ヲ萬分ノ五トシ荷役賃ノ純收入、(保管料ノ一割ニ當ルモノトセ)

$$33 錢 \times (1-1) = 2.97 錢$$

$$2.97 錢 - \left( ¥15 \times \frac{5}{10000} \right) = 2.92 錢 (1俵1ヶ月ノ從價率)$$

$$2.92 錢 \times \frac{15}{10000} = 增加セリ$$

右ハ一ヶ月一俵ニ付何程トスル從量保管料ナレドモ、純然タル從價保管料例ヘバ賦力板ノ萬分ノ二十一、若クハ舊制度ノ日歩ノ如キモ、大體右ノ方法ニ準ジテ算出シ得ルモノトス、例ヘバ日歩



保管料ノ一例ヲ示サンニ、「アンペラ」包白砂糖ハ一坪(九俵(一俵百斤入))ツ、十五層積ミ得ルモノトシ、此俵數百三十五俵ニテ、一俵三拾圓トセバ、此價格四千五拾圓、火災保險料一ヶ年千分ノ一二トシテ、一坪ノ純收入五圓參錢參厘ヲ獲ンニハ、日歩保管料ヲ四厘四毛トスベキガ如シ。

$$¥ 5.033 \times \frac{100}{4050} \times \frac{1}{30} = ¥ 0.00414 \dots 100 \text{圓} = \text{付} 1 \text{日ノ收入}$$

$$¥ 100 \times \frac{1.2}{1000} \times \frac{1}{12} \times \frac{1}{30} = ¥ 0.00030 \dots 100 \text{圓} = \text{付} 1 \text{日ノ保險料}$$

$$¥ 100 \times 0.044 \dots \text{日歩}$$

荷役賃ヲ一割トセバ、約四厘トシテ可ナルノ理ナリ。

### 第五款 保管期間

(一)期間 保管期間トハ貨物入庫ノ時ヨリ其出庫ノ時マテノ時日ニシテ、即チ倉庫業者カ保管

ノ責任ヲ負フヘキ期間ニ从ナラス、而シテ此期間ヲ定ムルト否ト、及ヒ其長短ハ、一ニ當事者ノ任意ニ定ムル所ニシテ、實際ニ於テハ物品ニ依リテ同シカラサレトモ、寧ロ之ヲ定メサル方多ク、若シ定メタルトキハ六箇月以内ニテ、大抵三四箇月位ナルカ如シ、保管ノ期間ヲ定メタルトキハ、其期日ニ至リテ出庫スヘキモノニテ、若シ都合ニヨリテ出庫セサルトキハ、更ニ預ケ繼キノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス、若シ之ヲ怠ルトキハ、二倍ノ料金を課セラル、コト前述ノ如シ。尤モ出庫ハ貨物所有者ノ隨意ニテ、假令期間ヲ定メタルトキト雖モ、満期前何時ニテモ出庫スルコトヲ得ルモノトス。

(二)返還 右ハ豫メ一定ノ期間ヲ定メタル場合ナレトモ、其期間ヲ定メサル場合ニハ倉庫ハ何時ニテモ之ヲ返還シ得ヘキヤ、又預證券所持ハカ荏苒時日ヲ經過シ、何時迄モ出庫セサルトキハ如何ニスヘキ乎、若シ民法ノ原則ニ從ヒ、何時ニテモ返還スルコトヲ得ルモノトセハ、貨物所有者ノ迷惑ヤ多大ナルヘク、又出庫迄無期限ニ保管スヘキモノトセハ、倉庫ノ不都合少カラサルヘシ、是ニ於テカ商法ハ其第三百七十八條ヲ以テ之カ調和ヲ圖リ「當事者カ保管ノ期間ヲ定メサルシトキハ、倉庫業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタル後ニ非ラサレハ其返還ヲ爲スコトヲ得ス、但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニアラス」ト規定シ、假令期間ノ定メナキトキト雖モ、少クモ六箇月ハ保管セサルヘカラスト爲スカ故ニ、倉庫ハ六箇月ヲ經過シテ尙ホ出庫セサル貨物ハ、豫定期間經過後ノ貨物ト同様ノ取扱ヲ爲スヲ得ヘシ、尤モ如何ナル理由アルモ、



六箇月ヲ經サレハ返還スルヲ得スト爲サハ、倉庫ハ勿論預主ノ利益ニアラサルヘキカ故ニ、但書ヲ設ケテ萬一ニ備ヘタリ、今我邦ノ實際ヲ見ルニ、其營業規則及倉庫證券中ニ、左ノ如キ條款ヲ設ケテ、其保管義務ヲ免ル、モノ多キカ如シ。

受寄物保管中變質損傷等ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ、書狀又ハ新聞紙ニ依リ、寄託主又ハ預證券所持人ニ寄託ノ處分ヲ催告スヘシ、但シ其猶豫シ難キ場合ニ於テハ、寄託主又ハ預證券所持人ノ處分ヲ待タズ、當會社ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ、寄託主又ハ預證券所持人ニ於テ前項ノ催告ヲ拒ミ、又ハ等閑ニ附シタル爲メ、倉庫又ハ他ノ積合セ貨物ニ損害ヲ生シタルトキハ、受寄物ヲ競賣ニ附シ、其代金ヲ以テ賠償ニ充テ、尙ホ不足アルトキハ、寄託主又ハ預證券所持人ニ對シ、其償還ヲ求ムルモノトス。

前述商法ノ規定ハ期間ノ定メナキ時ニ限リタルモ、右ノ條款ハ期間ヲ定メタル場合ニモ適用セントスルノ意思ニシテ法律モ亦之ヲ認ムルモノトス。(註一)

(三) 供託及競賣 契約若クハ六箇月ノ法定期間ヲ經過シタル後、又ハ右條款ノ如キ損敗ノ場合ニハ、倉庫ハ貨物ヲ返還シ得ルコト、前述ノ如クナルモ、若シ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ、又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ、倉庫ハ寄託物ヲ供託シ、又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告シタル後、之ヲ競賣スルコトヲ得ルノミナラス、損敗シ易キモノハ何等ノ催告ヲモ爲サスシテ、直チニ之ヲ競賣ニ附スルコトヲ得ヘシ(商法第三百八十一條及第二百八十六條)(註二)而シテ供託トハ法令若クハ裁判所ノ指定スル場所ニ債務(註三)ノ目的物ヲ委託シ、債務者ヲシテ義務ヲ免レシムルト同時ニ、債權者ヲシテ他日其目的物ヲ受取ラシムルノ方法ニシテ、之

ニ金錢又ハ有價證券ヲ以テスル場合ト、有價證券ニアラサル物品ヲ以テスル場合トノ二種アリ、第一ノ場合ハ倉庫(註四)之ヲ保管シ、第二ノ場合ハ司法大臣ノ指定セル倉庫業者之ヲ保管ス、寄託物ヲ受取ラサル爲メ之ヲ競賣ニ附シタル場合ニハ、直ニ其代價ヲ供託スベキ定メナルガ故ニ、右供託、競賣何レノ方法ニ依ルモ結局、供託ノ一ニ歸シ、斯ク供託シタルトキハ、倉庫ハ保管ノ責任ヲ免レ、貨物ノ權利者ハ他日供託所ニ至リ、保管料其他ノ費用ヲ支拂ヒテ現物ヲ受取リ(貨物供託ノ場合)、若クハ競賣代金ノ殘額ヲ請求スヘシ(明治三十二年二月法律第十號供託法及明治三十一年六月法律第十六號競賣法參照)。

(註一) 期間ヲ定メタルトキ、例ヘハ豫メ三ヶ月ト期間ヲ定メ、此期間内ニ損敗等已ムテ得サル事由ヲ生シタルトキハ、如何ニスヘキカニ就テハ、商法ニ明文ナキカ故ニ、特別ノ商慣習ナキトキハ(事實上之ナキヲ當トス)民法ニ據ラサルヘカラス然ルニ民法第六百六十三條第二項ハ「當事者カ寄託物返還ノ期間ヲ定メタルトキハ、受託者ハ已ムテ得サル事由アルニアラサレバ、其期間前ニ返還スルコトヲ得ズ」ト規定セルヲ以テ、豫メ期間ヲ定ムルモ已ムテ得サル事由アルトキハ、期間前ニ返還スルコトヲ得ルモノトス、即チ已ムテ得サル事由アルトキハ豫メ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス、又證券面ニ記載ノ如何ヲ問ハス、倉庫ノ欲スル時期ニ返還スルコトヲ得ルノ理也。

(註二) 商法第三百八十一條…第二百八十六條第一項及第二項ノ規定ハ、寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ、又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ適用ス、此場合ニ於テ買入證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存ス。商法第二百八十六條…商人ノ賣買ニ於テ、買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ、又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ、賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後、之ヲ競賣スルコトヲ得、此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ、其通知ヲ爲スルコトヲ要ス。損敗シ易キモノハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ、之ヲ競賣スルコトヲ得。



前二項ノ規定ニ依リ、賣主カ賣買ノ目的物ヲ賣買シタルトキハ、其代價ヲ供託スルコトヲ要ス、但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス。

(註三) 債務ハ借金ニ限ラス、倉庫會社ガ寄託主又ハ證券所持人ノ請求ニ依リ、受寄物ヲ返還スルノ義務ヲ負フモ、亦債務ノ一種ナリ、故ニコトニ債務ノ目的物トハ「預リタル物品」ヲ意味スルモノトス。

(註四) 本文ノ金庫トハ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フモノニテ、特ニ指定セラレタル銀行ナリ、中央金庫ハ日本銀行之ニ當リ、本金庫ハ各府縣ニアリ

### 第六款 損害賠償

寄託者ハ相當ノ保管料ヲ支拂ヒ、自己ノ貴重ナル財産ヲ預ケ置クモノナルカ故ニ、倉庫ハ其保存管理ニ關シテ充分ノ注意ヲ與ヘ、商人ヲシテ恰モ自己ノ倉庫ニ貯藏シ置クト同様ノ安心ヲ得セシメ、且ツ倉庫證券ノ所持人ヲシテ意ヲ安ンシテ其證券ヲ轉讓セシメサルヘカラス、是レ前述ノ如ク、法律カ倉庫ニ命スルニ「善良ナル管理者ノ注意」ヲ以テ保管スヘキコトヲ以テシタル所以ニシテ、若シ此程度ノ注意ヲ缺キタル爲メ、寄託物ニ損害ヲ生セシメタルトキハ、倉庫ハ其金額ヲ賠償セサルヘカラス、例ヘハ米商米百俵ヲ預ケ入レタルニ、出庫ノ際五俵不足セルトカ、又ハ雨漏等ノ爲メニ品質損傷セルトカ云ヘルカ如キ場合ニハ、豫テ申込書ニ記載セル評價金額(若クハ火災保險ノ金額)ニ應シテ直ニ其賠償ヲ求ムルコトヲ得テ、法律上ニ於テハ倉庫業者ハ自己又ハ使用人カ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニアラサレハ、其責ヲ免ル、コト能ハサルモノトス。

(舉證ノ責任) 商法第三百七十六條ハ「倉庫業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非ラサレハ、其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス」ト定メ、舉證ノ責任ヲ倉庫業者ニ負擔セシムルコト、爲セリ、畢竟運送人ヲシテ舉證ノ責ヲ負ハシメタルト同一ノ趣旨ニ基クモノ(運送人ノ責任ハ運送取扱人又ハ其使用人ニモ關スル點ヲ異レリトス、商法第三百三十七條)ナレトモ、後ニ挿入セル倉庫證券ノ約條第三ニ示セル如ク、倉庫ハ近年此責ヲ移シテ以テ證券所持人ニ負ハシムルコト、爲セリ、其理由トスル所ハ本條ノ如キハ公益規定ニアラサルヲ以テ、特約ニ依リ之ヲ變更スルモ妨ケナシ(四十四年函館控訴院民事部判決)ト云フニ在ルモ、若シ斯ノ如クハ倉庫ニシテ德義ヲ重ンセサル限り、倉庫ニ對シ損害ヲ賠償セシムルコト殆ント不可能ト爲ルノ虞アリ、延テ斯業ノ發展、證券ノ流通等モ阻碍スルノ恐ナキヲ保セサルヘシ。

(尙ホ注意ノ程度ニ付テモ、經過、失ノ損害ヲ免ルベク約シ得ルコト既報ノ如シ)

此種ノ賠償責任ハ、倉庫ニ對シ重大ナル負擔ヲ負ハシムルモノニシテ、隨テ其請求權ノ時効(有效期限)ヲ普通ノ如ク長カラシムルハ、却テ倉庫業ノ發達ヲ阻害スルノ虞レアルヲ以テ、寄託主カ一旦貨物ヲ受取リ、且ツ保管料其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ、爾後賠償ノ責ナキモノト爲セリ(商法第三百四十八條及第三百八十二條)、但シ左ノ三種ノ場合ニ限り、例外トシテ出庫ノ後ト雖モ、尙ホ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得セシム。

(第一) 出庫ノ際引取主カ損害ノ疑ヒアル爲メ、豫メ、後日倉庫ニ對シ賠償ヲ求ムルコトアルヘ



キ旨ヲ述ヘ置キタルトキ、即チ所謂請求權ノ留保ヲ爲シ置キタルトキ。

(第二) 右ノ如ク豫メ留保ヲ爲シ置カサルモ、出庫ノ際直チニ發見スルコト能ハサル毀損(又ハ一部ノ滅失)アリテ、二週間以内ニ引取主ヨリ通知ヲ發シタルトキ。

(第三) ハ倉庫業者ニ惡意アリテ損害ヲ生シタルトキニテ、此場合ニハ出庫ノ際留保ヲ爲サ、ルモ、又二週間内ニ通知セサルモ、倉庫ハ必ラス賠償ノ責任ヲ負フヘキモノト定ム。

右三種ノ場合ハ出庫後ト雖モ請求權ヲ有シ、倉庫ヲシテ責任ヲ負ハシムルモノナレト、此請求權ハ倉庫カ善意ナルトキ、即チ前掲第一及第二ノ場合ニハ一箇年タケ有效ナルモノトシ(普通ハ五箇年)、其期間ノ起算點ハ、一部滅失又ハ毀損ノトキハ出庫ノ際、全部滅失ノ場合ハ倉庫カ預證券ノ所持人又ハ寄託主ニ對シテ通知ヲ發シタルノ日ナリトス。

此問題ニ關シ現今我邦倉庫業者ノ定ムル所ヲ見ルニ、或ハ責ヲ負フヘキ場合ヲ定メテ雨漏、竊盜及紛失ノ場合ニ限リテ責任ヲ負フヘシト爲シ、或ハ責ヲ負ハサル損害ノ種類ヲ擧ケテ直接間接ヲ問ハス、天災、事變、強盜、其他抗拒スヘカラサル災厄ニヨリテ生シタル損害、及ヒ鼠喰、蟲火、其他受寄物ノ性質、荷造ノ不良、氣候ノ變遷等ニ因リ生シタル損害ニ對シテハ、賠償ノ責任ニ任セスト定メ、或ハ更ニ無責任ノ範圍ヲ擴張シテ、會社ノ慣習トシテ一般ニ火災保險ヲ附スル定メナルニ、寄託主ノ申込ニヨリ之ヲ附セサリシトキ、火災ニ因リテ生シタル損害ハ、其會社ノ過失ニ出テタル場合ト雖モ、責任ヲ負フコトナシト約シ、或ハ前兩種ノ方法ヲ併用シ、一方ニ於テ責任

ナキ場合ヲ列記スルト同時ニ、一方ニ於テハ責任ヲ負フヘキ損害ヲ掲ケタルモノナトアリ、區々ニシテ一定セサルモ、實際ニ於テハ斯ル約款ヲ云爲シテ、法律問題ヲ惹スカ如キ事件ハ極メテ稀ニシテ、些少ノ損害ハ荷主ノ負擔ニ歸シ、其他ハ多ク示談ニテ折合フモノナリト聞ク。(倉庫業者ノ應ル失ニ因ル損害ハ倉庫證券上ノ約款ニ記載スルモ、責任ヲ免ルモノニアラス(大審院判決例))  
右ハ保管貨物ノ在庫中ニ生シタル損害ニ關スルモノナレト、其他倉庫業者ノ過失ニ因リテ、數量、品質等ニ關シ、實際ト相違セル事項ヲ倉庫證券ニ記載シタル場合ニモ亦賠償責任ノ問題起ルヘシ然レトモ此種ノ研究ハ、寧ロ倉庫證券ニ關スル點多キヲ以テ、之ヲ次節ニ讓ルコトト爲セリ。

### 第三節 倉庫證券ノ發行

#### 第一款 倉庫證券ノ性質及要件

(一) 概念 貨物ノ寄託者カ倉庫ニ對シ、單ニ其保管ヲ依頼スルノミヲ以テ満足シ、別ニ讓渡上ノ便利、及ヒ金融上ノ方便ヲ得ントスルノ希望ナキトキハ、唯倉庫會社ノ帳簿ニ記録シ置クカ、又ハ單純ナル普通ノ保管證書ヲ受取り置クニテ足ルヘシト雖モ、進歩シタル倉庫ノ目的トスル所ハ、單ニ貨物ヲ安全ニ保管シテ、個人倉庫ノ代用ヲ爲スノミニ止マラス、更ニ進ンテ其賣買、質入等貨物處分上ノ便益ヲ供セントスルニ在リ、一般商人ノ倉庫ニ期待スル所モ亦蓋シ此點ニ存ス



ヘキカ故ニ、歐米各國ハ勿論、我邦ニテモ皆貨物ニ代ルヘキ證券ヲ發行シテ以テ、此目的ニ應スルコト、爲セリ、茲ニ倉庫證券(又ハ一枚ノ倉庫證券ニテ英語ハ Warehouse Receipt 也)トハ即チ此種ノ證券ノ謂ニシテ、我邦ニテハ預證券及ヒ質入證券ノ二者ヨリ成リ、前者ハ以テ賣買讓渡ニ供シ、後者ハ以テ質入擔保ニ用ヒシム、是レ思フニ佛、白諸國ノ制度ニ則リタルモノニシテ、英國其他多クノ國ハ、概ネ預證券一枚ノミヲ發行シ、賣買、質入、兩種ノ目的ニ併用ス(註)二枚主義(併行主義)一枚主義(單行主義)各一長一短アリテ、一概ニハ斷定シ難キモ、一枚主義ハ使用上簡便ナルノ利アルモ、二枚主義ハ一見其運用巧妙ナルカ如クニシテ少シク法律ツクメノ不便ナル缺點アリ(第四節參照)。我國ニテハ最初ハ一枚主義ヲ採リテ、預證券ノミヲ發行スルコト、爲セシモ、商法ハ二枚主義ヲ便ナリトシ、其法律關係比較的複雜ナルノ缺點アルニモ拘ラス、斷然二枚主義ヲ採用シタリ、然レトモ現今我邦ノ商人ハ一般ニ之ヲ不便ナリトシ、一枚主義ニ改メンコトヲ主張セシヲ以テ、四十四年ノ改正商法ハ二枚又ハ一枚(即チ倉庫證券)孰レニテモ寄託者ノ請求ニ應ジテ發行スヘシト改正シタリ。而シテ倉庫證券ハ寄託主ノ請求ニヨリテ發行スヘキモノナレトモ、倉庫ハ預證券及ヒ質入證券ヲ各別ニ發行スルヲ得ス、必ラス同一寄託物ニ對シ、同時ニ二葉宛交附スヘキコト、爲リ居ルヲ以テ、例ヘハ若シ單ニ二枚中ノ預證券ノミヲ發行シタルトキハ、唯單純ナル貨物預證券爲リ倉庫證券ノ有スルカ如キ物權の效力、其他特別ノ便益ヲ享有スルコト能ハサルニ至ル。(以下倉庫證券ト云フトキハ多ク二枚ノモノナリト知ルヘシ)

(註) 但シ英國ニテハ「ウエート、ノート」ヲ發行スルカ故ニ、事實上二枚ノ證券ハ使用スルモノニテ、唯我質入證券ノ如キモノト、其性質ヲ異ニスルノモ。(後ニ說明スル英國倉庫業ノ部參照)

(二)物權の效力 倉庫カ發行シタル預證券ヲ裏書ニ依リテ讓渡スルトキハ、貨物其物ヲ讓渡シタルト同様ノ效力ヲ生シ、又其質入證券ヲ質入シタル時ハ、貨物其物ヲ質入シタルト同一ノ結果ヲ生ス、是レ所謂倉庫證券ノ物權の效力ナルモノニシテ、商法カ

「倉庫證券ニ依リ寄託物ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ倉庫證券ヲ引渡シタルトキハ寄託物ノ上ニ行使スル權利ノ取得(所有權、又ハ質權)ニ付キ寄託物ノ引渡ト同一ノ效力ヲ生ス」預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託物ニ關スル處分ハ其證券ヲ以テスルニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(第三百六十五條及第三百三十五條及第三百三十四條ノ二)預證券ヲ作リタル場合ニ於テハ之ヲ引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス(第三百七十九條)

ト規定セルヲ見テモ明カナリ畢竟證券ノ效力ヲ重大ニシ、其運用ヲ迅速且ツ確實ナラシメ、以テ貨物ノ所有主ト證券ノ權利者トヲ異ニスルカ如キ不便ナカラシメンカ爲メニ外ナラス、恰モ船荷證券若クハ貨物引換證ニ此種ノ特別ノ效力ヲ附與セルト、同一ノ趣旨ニ基クモノナリ。

右ノ如ク法律ハ倉庫證券ニ附與スルニ物權の效力ヲ以テスルカ故ニ、裏書ニ依リ適法ニ證券上ニ物權ヲ得タル者ハ、貨物ノ上ニモ亦同種類ノ物權ヲ取得スト雖モ、單ニ裏書ニ依ル證券ノ引渡ハ貨物ノ引渡ニ同シ、然ルニ貨物ノ引渡ハ唯事實上ノ所持ヲ與フルニ過キササルヲ以テ、倉庫證券ヲ引渡シテ物權の效果ヲ生セシメント欲セハ、之カ引渡ト同時ニ、所有權其他物權移轉ノ特別ナル意思表示アルヲ要ス、例ヘハ賣渡トシテ裏書ヲ爲シ、其所有權ヲ移轉スルノ契約ヲ爲ストキハ、證券



引渡ト共ニ貨物ノ所有權移轉スヘク、又買入ノ目的ヲ以テ裏書スルトキハ、證券ノ引渡ト共ニ貨物ノ上ニ質權設定セラル。而シテ質權ノ設定即チ買入ハ買入證券ノ裏書ニ依ルノ外、之ヲ爲スコトヲ得ストスルハ大ナル誤解ニシテ、質入證券ト連續セル預證券ニ裏書ヲ爲シ、質入ノ目的ニテ之ヲ爲スモ、亦質入ノ一方法タルヲ妨ケス、從テ質入證券ニ依リ既ニ買入ヲ爲シタル後、更ニ預證券ヲ裏書シ、質入ノ目的ヲ以テ引渡ストキハ、第二ノ質權設定セラル、コト、爲ルヘシ、(註)若又占有權ヲ移轉スル目的ニテ裏書シタルトキ、例ハ、荷造ノ變更其他保存等ノ行爲ヲ第三者ニ委任スル爲メニ裏書シタルトキハ、單ニ貨物ノ占有權ヲ與ヘ、貨物出庫ノ裏書ハ唯出庫ノ權利ヲ附與スルニ過キサルカ如シ。

(註) 其買入證券使用前ハ預證券ノミヲ使用スルヲ得ス、又買入證券ニ依リテ借入レタルトキハ、其金額ヲ預證券ニ記載スル答ナルヲ以テ、買入證券ヲ切取りテ使用シタル後、預證券ヲ讓渡シ、又ハ買入スルモ、二重ト爲ルノ恐レナシ、尙ホ此點ニ關シテハ第三款買入ノ部ヲ參照スヘシ。

(三) 債權の効力 倉庫證券ハ其貨物代表ノ點ヨリ觀ルトキハ、物權證券ナリト雖モ、其發行ニ依リ、新ニ寄託物返還ニ對スル證券上ノ債權ヲ發生スル點ヨリ觀察スル時ハ、亦一種ノ債權證券(註)ナリ、而シテ此證券ニ依ル、倉庫ニ對シ貨物ノ返還ヲ請求シ得ルノ權利ハ、其根源タル預輸入ノ行爲(倉庫行爲)ト分離シ、全ク證券記載ノ條件ニ從フヘキモノナルヲ以テ、倉庫ハ預ケ主ニ對スル抗辯ヲ以テ、證券所持人ニ臨ムコト能ハス、又證券ノ發行ナキト雖モ、寄託者ハ固ヨ

リ倉庫ニ對シ貨物ノ返還ヲ請求シ得ヘク、且此債權ヲ讓渡スルコトモ爲シ得ヘシト雖モ、斯クスルトキハ、民法上面倒ナル手續ヲ要スルノミナラス、此證券ニ依ラサル債權ノ讓渡ハ、必スシモ物權ノ讓渡ト爲ラサルカ故ニ、到底不確實ナルヲ免レス、然ルニ證券ニ依ル債權ハ裏書ナル簡單ノ方法ニ依リテ、自由ニ移轉シ、此債權ノ讓渡ハ同時ニ確實ナル物權ノ讓渡ト爲ルノ便アルナリ。

(註) 凡ソ他人ニ或品物ヲ預ケレハ、之ヲ返シテ買フ權利チ、其人ニ對シテ有ス、此權利ハ即チ債權ニシテ、普通ノ保管證書(即チ預證書)ハ此權利ヲ證明スルモノナリ、然レトモ此證書ハ、物品ヲ代表スルモノニアラサルカユエニ、賣却、買入等ノ目的ニ供スルコトヲ得ス、(權利買ハ別倉庫證券ハ此ノ如キ權利證明書ト爲ルト同時ニ、前述ノ如ク物品其モノト同様ノ効力ヲ有スルナリ。

(四) 法定要件 既ニ倉庫證券ニ附與スルニ、右ノ如キ重大ナル効力ヲ以テシタル以上ハ、法律ヲ以テ之ニ記載スヘキ要件ヲ一定シ置カサルヘカラス、是レ即チ商法第三百五十九條ノ規定アル所ニシテ、即チ左ノ如シ。

預證券及ヒ質入證券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルヲ要ス。

- 一 寄託物ノ種類、品質、數量及ヒ其荷造ノ種類、簡數並ニ記號
- 二 寄託者ノ氏名、又ハ商號
- 三 保管ノ場所
- 四 保管料
- 五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間



六 受寄物ヲ保險ニ附シタルトキハ、保險金額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號  
七 證券ノ作成地、及ヒ作成ノ年月日

右ノ如ク倉庫證券ニ記載スヘキ事項ヲ一定スルハ、一ハ證券ノ流通ヲ確實且ツ容易ナラシムルニ在レト、一ハ此證券カ特ニ物權的效力ヲ有シ、其記載事項ノミニ依リ、倉庫證券所持人等關係者ノ權利義務ヲ決スルカ爲メナリ、而シテ一旦斯クト定メタルトキハ、右要件ノ一ヲ缺クモ(五、六ハ任意)其證券ハ既ニ倉庫證券トシテハ效力ナキモノトス、但シ署名ハ明治三十三年法律第十七號ヲ以テ記名捺印ニテ足ルコト、爲レリ、參考ノ爲メ我邦某倉庫ノ用フル倉庫證券ノ雛形ヲ次ニ示スヘシ。(署名トハ自筆ノ名ニテ記名ハ他人ニ書カシムルモ可ナルノ意ナリ)

證券雛形ハ三菱倉庫株式會社東京本店ノ分ニテ、次ノ如キ取引ニ用ヒタルモノトス。(卷末參照)  
大正十年ノ六月十日ニ、西江商店カ越後米百五拾俵ヲ深川小松町ノ三菱倉庫株式會社ニ預ケ入レ、預證券及質入證券ヲ乞ヒ受ケ、其日ニ質入證券ヲ第一銀行ニ入レテ金壹千貳百圓(期限七月五日、日歩貳錢五厘)ヲ借用シ、同月十五日ニ至リ、高橋商店ニ全部ヲ賣却セリ(借入元利金及ヒ十五日マテノ保管料ハ總代金ヨリ差引キ、殘金ヲ西江商店ヘ支拂フモノトス)高橋商店ハ六月二十日ニ證券ノ契約通り、壹俵ニ付キ八圓ノ割合ニテ、金四百圓及ヒ此利息、期限迄貳圓六拾錢ヲ倉庫ニ供託シ、五、七俵ヲ出庫シ、七月五日ハ質金ノ期限ナルヲ以テ殘金ノ元利ヲ倉庫會社ニ於テ銀行員ニ支拂ヒ、質入證券ヲ受取り、七月十日保管料ヲ支拂ヒ、倉庫ヨリ殘部百俵ヲ出庫シ、證券ヘ

受取ノ旨ヲ記入シテ返附セリ。(此手續ハ漸次説明ノ邊ニ從テ明カナラン)

(五)證券面記載ノ約款 法律ハ必要アリテ倉庫證券ニ記載スヘキ事項ハ、斯ク斯クタルヘシト定メ置キタルニ、後掲雛形其他諸倉庫ノ發行セル倉庫證券ヲ見ルニ、一トシテ損害賠償、貨物ノ返還、内出費用、證券ノ滅失等ニ關シ、法定事項以外ノ事項數條ヲ掲ケサルハナシ、是レ一見奇ナルカ如キモ、凡ソ證券ノ法定事項ナルモノハ是レタケハ必ラス掲ケサルヘカラス、其一ヲ缺クモ原則トシテ效力ナシト云ヘル性質ノモノニテ、其ノ以外ニテモ苟モ公益公安ニ害ナキ事項ハ、遠慮ナク掲ケテ契約スルヲ得ルカ故ナリ。(手形ノ如キ所謂絕對的要式證券ハ別ナリ)

而シテ倉庫證券ノ裏書讓渡ヲ許シタル以上ハ、其所持人ヲ以テ完全ナル權利者ト認ムルコトハ當然ナルヲ以テ、商法ハ寄託ニ關スル事項ハ、倉庫ト證券所持人トノ間ニ於テハ、凡テ其證券ノ定ムル所ニ依ルヘキ旨ヲ定メテ(第三百六十二條)、縱令最初ノ預ク主カ證券記載面ノ約款以外如何ナル事項ヲ倉庫ト約スルモ、倉庫ハ證券所持人ニ對シテ、之ヲ云爲スルコトヲ得サルコト、爲セリ、此點ノ必要ヲ見レハ、貨物ニ就テハ多ク其性質數量及品位ニ關スル事項ニシテ、例ヘハ倉庫ハ完全ナル證券ノ所持人カ之ヲ呈示シテ貨物ノ引渡ヲ求メタルニ、或ハ「實際貨物ヲ預リタルニアラス、後ニ受取ル約束ニテ現實ニ貨物ハナシ」トカ、マタハ「既ニ何月何日何某ニ引渡ヲ了セリ」トカ、或ハ「實際ハ證券面ニ記載セルヨリモ少量ノ貨物ヲ預レリ」トカ「入庫ノ當時ヨリ毀損シ居レリ」トカノ事由ヲ云爲シテ所持人ノ請求ニ應セサラントスルモ、此等ノ事項カ、證券面ニ



券

六 之カ引渡ヲ受クヘシ  
 七 寄託物ノ保管料其出入運搬廣告検査並ニ  
 八 寄託物ノ運搬料其出入運搬廣告検査並ニ  
 九 此約條ニ記載セサル事項ハ總テ商法及ヒ當會社ノ營  
 業規則ニ據ル

前記ノ貨物券面ノ約條ニ從ヒ正ニ預リ候寄託主又ハ其指圖人へ此證券及  
 ヒ此證券ト共ニ發行シタル質入證券引換ニ可相渡候也  
 大正十年六月十日當會社東京本店ニ於テ本券ヲ作成發行ス  
 東京市深川區小松町壹番地  
 支配人 木村林次郎

株式會社

要 摘	火 災 保 險		保 管 料
	保 險 者	保 險 期	
	明治火災保險株式會社	自入庫日時至出庫日時	壹俵一ヶ月ニ付貳錢五厘 從價率百分ノ十五 壹千五百圓也 壹俵ニ付金拾圓

證 預

ノ八參 號二〇二第

參 錢

一米

穀

寄託主

西江三郎殿

越後米壹百五拾俵

一 此證券所持人ハ左ノ條項ヲ約諾セルモノトス  
 二 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ  
 三 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ  
 四 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ  
 五 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ  
 六 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ  
 七 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ  
 八 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ  
 九 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ  
 十 寄託主ノ申込ニ依リ當會社ニ於テ火災保險ニ付セサ

場 所	保 管 期 限	入 庫 日	數 量		記 號
			平均	總 量	
深川小松町	大正十年七月十日	大正十年六月十日	拾六貫	貳千四百貫	荷 俵 入



質 權 記 入 一金壹千貳百圓也 一部出庫ニ關スル約定 辨濟期限大正十年七月五日 辨濟場所 大正十年六月十日 第一質權者 株式第一銀行印 利息 上記ノ元利金額正ニ受取候也 大正十年七月五日 株式第一銀行印		讓 渡 日 附 讓渡人氏名印 讓受人氏名 大正十年六月十五日 西 江 三 郎 高 橋 練 吉 大正 年 月 日 大正 年 月 日 大正 年 月 日		日 附 受取個數 受取人氏名印 供託金 大正十年六月二十日 五拾俵 高橋練吉印 四百貳圓六拾錢 當會社 認會社印	
---	--	--	--	--	--

內 受 取 此證券記載ノ貨物悉皆正ニ受取候也 大正十年七月十日 高橋練吉印										
大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正
月正	月正	月正	月正	月正	月正	月正	月正	月正	月正	月正
日年	日年	日年	日年	日年	日年	日年	日年	日年	日年	日年

第二章 倉庫ノ業務 倉庫證券ノ發行 倉庫證券ノ性質及要件



西江三郎殿  
寄託主  
越後米 壹百五拾俵

### 入質

此項所貯人ハ左ノ條項ヲ約諾モルモノトス  
 一 受寄物カ天災ノ事起ルニシテ其ノ損傷ハ本倉庫ノ責任ニ付サズ  
 二 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 三 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 四 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 五 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 六 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 七 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 八 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 九 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス

記号	数量	入庫日	保管期限	平均	
				一箇	平均
貳千四百貫	拾六貫	大正十年六月十日	大正十年七月十日	深川區小松町	入

### 券證

六 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 七 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 八 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 九 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十一 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十二 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十三 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十四 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十五 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十六 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十七 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十八 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 十九 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス  
 二十 寄託主ハ本倉庫ノ責任ニ付テハ其ノ損傷ハ其ノ責任ニ付ス

要 摘	火 災 保 險		保 管 料
	保 險 者	保 險 期	
	明治火災保險株式會社	自入庫日時至出庫日時	壹俵一ヶ月ニ付貳錢五厘 從價率百分ノ十五 壹俵ニ付金拾圓

株式會社

支配人 木村林次郎

東京市深川區小松町壹番地  
東京倉庫株式會社



質		質		質	
除解	轉移	除解	轉移	除解	轉移
前記ノ元利金額正ニ請取候也 大正 年 月 日	前記ノ債務ハ指圖人へ御支拂可被成候也 大正 年 月 日	前記ノ元利金額正ニ請取候也 大正 年 月 日	前記ノ債務ハ指圖人へ御支拂可被成候也 大正 年 月 日	前記ノ元利金額正ニ請取候也 大正 年 月 日	前記ノ債務ハ指圖人へ御支拂可被成候也 大正 年 月 日
此證券引換ニ支拂可申候也 大正 年 月 日	右債務期大正 年 月 日 辨濟場所 殿又ハ其指圖人へ	此證券引換ニ支拂可申候也 大正 年 月 日	右債務期大正 年 月 日 辨濟場所 殿又ハ其指圖人へ	此證券引換ニ支拂可申候也 大正 年 月 日	右債務期大正 年 月 日 辨濟場所 殿又ハ其指圖人へ
一金部出庫ニ關スル約定 大正 年 月 日	辨濟場所 殿又ハ其指圖人へ 利息	一金部出庫ニ關スル約定 大正 年 月 日	辨濟場所 殿又ハ其指圖人へ 利息	一金部出庫ニ關スル約定 大正 年 月 日	辨濟場所 殿又ハ其指圖人へ 利息
		株式第一銀行印			

質 入							讓 渡			
合 場							(ニ共ト券證預)			
取 受 内							日			
大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日
附 受 取 個 數							日			
受 取 人 氏 名 印							讓 渡 人 氏 名 印			
當 會 社 認 印							讓 受 人 氏 名			



顯ハレ居ラサル以上ハ、即チ證券面ニ記載ナキ限リハ、決シテ其責ヲ免ル、コト能ハサルナリ。然レトモ右ハ一般ノ原則ニシテ、亦多少ノ例外ナキニアラス。例ヘハ倉庫證券ニハ種類、數量、品質ヲ記載スヘキモノナルモ、場合ニ依リテハ荷造ヲ解キ、是等ヲ確ムル能ハサルコトアリ、此ノ如キ場合ニハ、已ムヲ得ス大凡ノ見込ニ依リテ之ヲ記載セサル可カラサルヲ以テ、其旨ヲ附記スルトキハ、實際確ムルコト能ハサルニアラサリシ事、又ハ事實相違ノ旨ヲ、所持人ヨリ證明スルニアラサレハ、倉庫ハ責任ヲ負フコトナク、又タ前節第六款損害賠償ノ部ニテ述ヘタル理由ニ因リ、倉庫カ假令不實(實際ト異ナル)ノ事項ヲ記載スルモ、其記載ノ不實ナル點ニ關シ、何等過失ノ咎ムヘキモノナキトキ、換言スレハ如何ニ慎重ナル商人カ爲シ得可キ注意ヲ爲スモ、到底其不實ナルコトヲ知ル能ハサリシ場合ノ如キハ、全ク責任ナキモノトス、此他貨物カ債、函、瓶、包等ニ入レアリテ、實際之ヲ開クニアラサレハ、其性質、數量等ヲ審ニスル能ハサルカ如キ場合ハ、如何ト云フニ、此場合ニ於テモ、不實ノ記載カ倉庫ノ過失ニアラサルコト、證券面ニ現ハレ居ルトキハ責任ナシ、例ヘハ證券ニハ葡萄酒百本トアルニ、中ニ同色ノ他ノ液體ヲ入レタルモノアレモ、倉庫カ其内容ヲ検査スルニ、注意ヲ怠リタル事ヲ證明セサルトキハ、責任ナキカ如シ。以上ハ商法三百六十二條(註)ニ關シ主トシテ貨物ニ及ホス效果ヲ説キタルモ、此他寄託ニ關スル條件ノ如キモ、亦固ヨリ證券面ノ約款ニ從フヘキモノニシテ、隨テ貨物ノ損害、保管期間、保管料ノ計算等ニ關シ、寄託者ト爲セシ特約、又ハ營業規則ノ如キハ、之ヲ證券面ニ記載スルカ、又

ハ前掲雛形ノ如ク、之ニ關聯セシムルノ文言(約條九號)ナキトキハ、證券上ノ效力ナキモノト知ルヘシ。

(註) 商法三百六十二條...預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ、寄託ニ關スル事項ハ、倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ、其證券ノ定ムル所ニ依ル。

上述ノ外、證券面約條九項其他ノ説明ハ、遂次各節ノ中ニ説キタルヲ以テ、特ニ其註釋之ナキモノ、ミヲ舉ケテ、少シク説明ヲ試ムヘシ。

一、倉庫證券ハ手形ノ如ク無記名式ト爲スコトヲ得ルヤ

凡ソ商業證券ノ流通ヲ便ニセントセハ、無記式ト爲スニ如カサルモ、我邦ノ程度ハ未タ之ヲ認ムルノ必要ナシト見タルカ、法律ハ無記名式ト爲スコトヲ許サ、ルノ精神ナルカ如シ、何トナレハ商法ハ小切手及ヒ手形(金額參拾圓以上)ニ對シテハ、特ニ明文(第五百三十條及四百四十九條)ヲ以テ無記名式ト爲スコトヲ認メタルモ、倉庫證券ニ就テハ何等ノ明文ナク且ツ寄託者ノ氏名又ハ商號ヲ表ハスコトヲ要求シ居レハナリ。(第二百五十九條)但シ「何某殿又ハ持參人」ト云ヘル選擇持參人式ニハ爲スモ可ナリト云ヘル説アリ。(此説ハ商法第二百八十二條及第四百四十九條ノ二ヲ根據トスルモノナレドモ、法律ノ精神ハ、物權證券ニ此式ヲ許サザルニ在ルベシ)

二、倉庫證券ニ寄託貨物ノ見積價格ヲ記載シタルトキハ其效力如何

倉庫ノ責任ハ、貨物ヲ安全ニ保管スルニ止マルヲ以テ、貨物ノ價格ノ如キ法定事項以外ノコト



ヲ附記スルモ、價格證明ノ如キ責任之ナカルヘシト云フ者アリ、價格證明トハ少シク漠然ナレトモ、倉庫カ自ラ保管ノ責ニ任スル貨物ヲ評價シテ特ニ證券ニ記入スル以上ハ、反對ノ文句ナキ限りハ、損害賠償金額ノ標準ヲ之ニ採ルコトヲ明示シタルモノト見做スヲ、當然ナリト信ス。

三、摘要欄ヲ設クルノ必要

手形ノ如キモノハ、手形法ニ規定ナキ事項ヲ記載スルモ、手形上ノ效力ナキカユエニ、別ニ摘要欄ヲ設クルノ必要ナキモ、倉庫證券ニハ、入庫前ノ立替金、運賃トカ、讓渡以外ノ裏書、例ヘハ取立委任ノ裏書預證券ヲ質入スル場合ノ裏書（讓渡ノ裏書、質入證券ノ質入裏書等ニハ、特ニ別欄ヲ設クルヲ常トス）等ヲ認ムル必要アルヲ以テ、豫備的ニ摘要欄ヲ設クルヲ便トス、會社ノ通則トシテ火災保險ヲ附スル場合ニ之ヲ要セサルトキ亦同シ。

四、火災保險ハ倉庫カ寄託主ノ爲メニセル旨ヲ證券上ニ明ニスルコト

倉庫ノ營業規則中、火災保險ニ關スルコトハ、一切倉庫ト保險會社トノ契約ニ任スヘキ旨ヲ定メ、事實上倉庫ハ自ラ被保險者ト爲リテ、恰モ自己ノ貨物ナルカ如ク保險ニ附スルモノ多シ、是ニテモ著シキ不都合多クハ之ナカルヘキモ、更ニ證券ノ信用ヲ確實ナラシメンニハ、倉庫ハ寄託者ノ委任ニ依リテ保險ニ附シ、萬一損害ノ填補ヲ得ルトキハ、寄託者若クハ證券所持人ヨリ直接ニ、保險會社ニ請求シ得ルカ如ク爲シ置クヲ可トス、是亦摘要欄ヲ設クル所以ノ一ナリ。

五、寄託主又ハ證券所持人カ同一質入證券ヲ二回以上使用スルトキ

第一質權者タル最初ノ銀行カ、更ニ第二ノ銀行ヘ質入スルニアラス、質入證券ニテ借金シタル者カ、一旦其銀行ヘ返金シテ質入證券ヲ受ケ戻シ、更ニ他ノ銀行ニ質入スルトキハ、前ノ質入事項ヲ抹消シタル後、初ノ如ク質入手續ヲ行フヲ可トス。

第二款 倉庫證券ノ分割及滅失

(一) 證券分割ノ場合 倉庫證券ノ所持人ハ即チ貨物ノ所有者ナルカ故ニ、倉庫業者ニ對シ、寄託物ヲ分割シ、且ツ其各部分ニ對スル新證券ノ交附ヲ請求シ得ルハ當然ナルカ如ク、又一方ヨリ觀ルトキハ、倉庫業者ハ最初貨物入庫ノ際交附セル證券ト引換ヘニ、現物ヲ引渡スヘキ義務ヲ負フモノナルカ故ニ、一旦一括シテ預ケ入レタル貨物ヲ分割シテ、更ニ新證券ヲ交附スルノ義務モ亦之ナキカ如シ、然レトモ證券所有者ノ便宜、換言スレハ商業界ノ實際方面ヨリ觀察スルトキハ、當初一括シテ預ケ入レタル貨物ハ決シテ分割スルヲ得ストスルハ、不便蓋シ少カラサルヘキ場合アルカ故ニ、證券所持人ハ前ノ證券ト引換ヘニ、分割シタル各部分ノ新證券ヲ請求シ得ルコト、爲シ、以テ此不便ヲ除ケリ、但シ新證券ノ交附ヲ受クルハ、右ノ如ク本來證券所持人ノ便宜ニ出テタルモノナルカ故ニ、貨物ノ分割及ヒ證券ノ交附ニ關スル費用ハ、凡テ所持人ノ負擔ニ歸セシムルコト、爲セリ（商法第三百六十一條）而シテ茲ニ倉庫證券ノ分割ト云ヒテ、預證券若クハ質入證券ノ分割ト云ハサルハ、倉庫カ分割ヲ許スハ二證券連結シテ流通スル場合ニ限り、單ニ預證券ノ



ミノ所持人、若クハ質入證券ノミノ所持人ハ、決シテ分割ヲ請求シ得サルカ故ナリ。

(二)滅失ノ場合 貨物ヲ寄託シテ預證券及ヒ質入證券ヲ作りタルトキハ、證券ヲ以テスルニアラサレハ、其寄託物ニ關シ賣買、質入、出庫等、何等ノ處分ヲモ爲スコト能ハサルモノナルヲ以テ、其證券カ紛失、盜難其他ノ原因ニ因リテ滅失シタルトキハ、所持人ハ是非トモ新證券ノ交付ヲ求メサルヲ得ス、然レトモ猥ニ請求者ニ交付スルハ頗ル危険ニシテ、爲メニ後日、前ノ證券發見セラレテ、同一貨物ニ對シテ證券ノ流通ヲ見ルカ如キコト、或ハ虛偽ノ請求者ニ交付シテ、真正ノ所持人ヨリ更ニ請求セラル、コトモアラシ、是ニ於テカ商法ハ證券滅失ノ場合ニ、所持人カ相當ノ擔保ヲ供スルトキハ、更ニ其證券ノ交付ヲ求ムルコトヲ得セシメ、他日此再交付ニ關シテ爭ヲ生シタル場合ノ證據ニ備フル爲メ、其旨ヲ倉庫ノ帳簿ニ記載シ置カシムルコト、爲セリ(第三百六十六條) 某倉庫ノ營業規則モ亦之ニ據リテ一條ヲ設ケ、以テ滅失ノ場合ニ備ヘタリ、即チ

規則第十六條 倉庫證券、預證券及質入證券、禁流通貨物預證書又ハ保管貨物通關ヲ滅失シタルトキハ、其所持人ハ當會社ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ、更ニ之カ再交付ヲ請求スルコトヲ得、但其擔保物件ハ除權判決確定後ニアラサレハ之ヲ返戻セサルモノトス。

ト、而シテ滅失ノ場合ノ再交付ハ、分割ノ場合ノ再交付ト異ナリ、唯舊證券ノ代リノ證券ヲ交付スルニ過キササルヲ以テ、預證券及ヒ質入證券連結流通ノ場合ニ限ルヲ要セス、預證券ノミ又ハ質入證券ノミ、孰レニテモ獨立ニ再交付ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス、商法第三百六十六條カ「預

證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ」ト云フモノ蓋シ此意ナリ。

倉庫カ擔保物ヲ證券所持人ニ返還スヘキ時期ニ關シテハ、商法ニ別段ノ規定ナシト雖モ、擔保物ヲ預リ置クハ、畢竟正當ナル所持人ナリシヤ否ヤヲ決スルトキマテニシテ、權利者ノ確定ハ除權判決(民事訴訟法又ハ本書ノ後章參照)ノ確定ニ俟タサヘカラサルヲ以テ、某倉庫ノ如キモ亦前頁ニ示スカ如ク、其旨ヲ營業規則中ニ掲ケ置ケリ。

證券滅失ノ場合ハ分割ノ如ク、舊證券記載事項ヲ知ルニ由ナキカ故、倉庫ハ最初證券發行ノ時、其帳簿ニ以下ノ事項ヲ記載シ置クノ義務アリ(商法第三百六十條)。(一)寄託物ノ種類、品質、數量及其荷造ノ種類、個數、並ニ記號 (二)寄託者ノ氏名又ハ商號 (三)保管料 (四)保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間 (五)受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ其金額、保險期間、及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號 (六)證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日 又證券喪失ノ場合ニハ、商行爲ノ總則ニ從ヒ(第二百八十一條)所持人カ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ、倉庫ヲシテ寄託物ヲ供託セシメ、又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ、寄託物ヲ引渡サシムルコトヲ得ヘシ。

### 第三款 倉庫證券ノ裏書讓渡及質入

(一)裏書讓渡 預證券及ヒ質入證券ヲ發行セシムル目的ハ、或ハ賣買讓渡ノ爲メ、或ハ質入擔



保ノ爲メニ之ヲ運用シ、現物ヲ動かサスシテ、金融上ノ便宜ヲ得セシムルニ在ルヲ以テ、假令雖形ノ如ク「寄託主又ハ其指圖人」ト云ヘルカ如ク指圖式ノ證券ニアラスシテ、單ニ「何某殿」ト云ヘル所謂記名式ノモノト雖モ、裏書ニヨリテ之ヲ讓渡シ、又ハ質入スルコトヲ得セシメサルヘカラス、即チ商法第三百六十四條ヲ以テ之ヲ許シタル所以ニシテ、恰モ手形カ記名式ナルモ、裏書讓渡ヲ認ムルト同一ノ趣旨ニ基クモノナリ、然レトモ絶對的ニ此主義ヲ貫キテ證券ノ流通ヲ自由ニスルノ理由モ亦存在セス、却テ當事者ノ自由意思ヲ束縛スルニ過クルモノナルヲ以テ、證券ニ讓書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ、流通スルコトヲ得サルモノト爲セリ、又我商法カ無記名式即チ所持人拂ノ倉庫證券ヲ認メサルハ、證券説明ノ部ニ述ヘタルカ如シ。

(二)裏書ノ性質 倉庫證券ノ裏書モ亦手形ノ裏書ニ同シク、證券上ノ權利者即チ證券所持人カ、相手方ヲシテ證券上ノ權利者タラシムルノ意思表示ニシテ通常證券ノ裏面ニ(雛形ヲ見ヨ)裏書ノ年月日、裏書讓渡人ノ氏名捺印、及ヒ裏書讓受人ノ氏名(氏名ノ代リニ商號ヲ用フルモ固ヨリ可ナリ)ノ三項ヲ記載スルヲ以テ足レリトス、而シテ此ノ如ク記載シタル裏書ハ、所謂記名式ノ裏書ナルモノニシテ、此他指圖式ノモノハアレト、白地式トテ、單ニ讓渡人ノ氏名捺印及ヒ年月日ノミノモノハ認メサル筈ナリ。(年月日ハ之ヲ要セ、  
スト爲ス説アリ)

裏書ハ證券上ノ權利者タル資格ヲ讓渡スノ手段ナレトモ、此資格ヲ讓渡ス方法ハ、必、ス、シ、モ、裏書ニ限リタルニアラス、此他相續、會社ノ合併等ニ依リ、證券ヲ取得セル者モ、亦證券上ノ權利ヲ

取得セル證券ノ所持人ナリ、唯相續等ニ依ル讓受人カ、裏書ニ依リテ讓受ケタル證券上ノ權利者ト異ナル所ハ、前者ハ最後ノ證券上ノ權利者タル者ノ權利ヲ其儘承繼スルニ過キサリニ、後者ハ獨立セル直接ノ權利、即チ讓渡人ニ關係ナク、證券面ニ記載セル文言タケノ權利ヲ取得スルノ點ニ在ルノミ。

又惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ證券ノ占有ヲ得タル者ハ、之ヲ返還スルノ義務ナキカ故ニ、此條件ニ適フ占有ヲ得、且ツ證券上形式のニ權利者トシテ記載セラル、以上ハ、亦證券上ノ權利者ト爲ルナリ。

裏書讓受人(即チ被裏書人)トシテ證券ヲ取得センニハ、被裏書人トシテ記載セラレ、且ツ其裏書カ連續スルコトヲ要ス。

此ノ如ク裏書ニハ種々ノ條件ヲ要スルモ、證券上ノ權利者ハ唯形式的ニ此等ノ條件ノ備ハレルコトヲ證明スレハ其レニテ足り、倉庫モ亦單ニ外形上此等ノ條件ノ備ハレルヤ否ヤヲ調査スルノ義務アルノミニシテ、其所持人及ヒ署名捺印ノ眞僞又ハ裏書ノ眞僞ニ就テハ之ヲ調査スルノ義務アルモノニアラス、唯倉庫カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ、寄託物ノ引渡其他ノ義務ヲ履行シタルトキハ、其履行ハ無効ニテ、決シテ責ヲ免ル、能ハサルモノトス。

(三)讓渡上ノ制限 凡ソ預ケ主カ倉庫證券ニ裏書シテ、以テ貨物ヲ讓渡スハ、其欲スルカマ、ニシテ、既ニ預證券ト質入證券ノ二葉ニ分ツ以上ハ、孰レヲ先ニ運用スルモ毫モ差闕ナキカ如キ



モ、元來兩證券ハ連結シテ一ノ倉庫證券ヲ成シ、同一ノ物品ニ對シテ發行セルモノナルカ故ニ、之ヲ分離運用スルトキハ、其性質ニ戻ラサルカ如ク爲サ、ルヘカラス、質入前預證券ノミヲ讓渡スモ、讓渡人ノ所持スル質入證券ハ何等ノ用ヲナサ、ルヘク、預證券讓受人ハ質入證券之ナキ爲メ、質入ノ便ヲ奪ル、コト、爲リ、又質入證券ノミヲ讓渡スモ、略同一ノ結果ヲ生スヘク、結局二證券發行ノ趣旨ニ反スルニ至ルヘケレハナリ、是レ預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲サ、ル間ハ、預證券及ヒ質入證券ハ、各別ニ讓渡スルコトヲ得サルモノト爲シタル所以ナラン。

商法第三百六十條後段—預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲サ、ル間ハ預證券及質入證券ハ之ヲ各別ニ讓渡スルコトヲ得ス

(四)最初ノ質入 右ノ理由ニ因リ預ケ主先ツ證券ニ依リテ貨物ヲ賣却セントスルトキハ、預證券及ヒ質入證券雙方ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ讓渡人ニ交付セサルヘカラサルモ、若シ一時貨物ヲ質入シテ金融ヲ附ケントスルトキハ、質入證券ノミヲ切り取り、其裏書相當欄ニ質入裏書ヲ爲シテ、質債權者(通常ハ銀行)ニ交付スヘシ。

而シテ此場合ニモ借入金額、利息、及ヒ返済期ノ三者ハ、必ラス之ニ裏書シ置カサルヘカラス(離形ノ裏書ヲ見ヨ)是レ質入證券ハ質受銀行ト、借入主又ハ其後ノ預證券讓受人トノ間ニ於ケル借入金ニ關スル權利義務ヲ明カニスル、根本ノ證券ナレハナリ。

右ハ初メテ質入スル場合ナレトモ、若シ第一ノ質受銀行カ、金融ノ都合上、更ニ他ノ銀行ニ質入スル場合ハ如何ト云フニ、第二以下ハ別ニ借入金額等ヲ記入スルヲ要セサルカ如シ、商法第三百

六十七條ニ曰ク

質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ、債權額、其利息及ヒ返済期ヲ記載スルコトヲ要ス

第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ、預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非ラサレハ、質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前條第一項ハ特ニ第一ノ質入裏書ト云ヒテ、單ニ質入裏書ト云ハサルハ、第二以下ノ質受銀行ハ第一質權ノ金額ノ期限利率等ヲ知ルノ必要アルモ、第二以下ノ質權ニ就テハ、之ヲ知ルヲ要セサルカユエナリ、斯クスレハ後ノ質入銀行ハ第一ノ質金額ヨリ多ク借入レ、期限モ最初ノ期限ヨリ長カラシメ、預證券所持人カ預證券記載ノ期限ニ至リ(即チ最初定メタル期限ニテ、質入證券記載ノモノト同シ)記載ノ金額ヲ支拂フテ質入證券ヲ受ケ戻サントスル場合ニ、質入證券所持銀行、即チ最後質受銀行ハ之ヲ拒ムコトナキヤ、若シ拒ムコトナク右ノ金額ト引換ヘニ質入證券ヲ交付スヘキモノトセハ、此質受銀行ハ損害ヲ蒙ルコトナキヤト云フニ、

第二第三等ノ質受銀行ハ最初ノ質入範圍(金額、期限等)ヲ超過スル質入契約ヲ結フコトハ爲シ得ルモ(註一)此契約ノ有效ナルハ、契約當事者間ニ限り、預證券所持人ニ對シテハ、最初ノ質入範圍、即チ質入證券記載範圍ノ外、云爲スルコト能ハサルヲ以テ、預證券所持人カ證券記載ノ期限ニ、證券記載ノ金額ヲ支拂フテ、質入證券ノ交付ヲ求ムレハ、之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス、是レ質入證券所持銀行ハ質入證券ノ記載ニ依リ、最初ノ質入範圍ヲ知り、法律上自己ノ權利(預



證券所持人ニ對スル)モ亦是レ以上ニ出ツル能ハサルコトヲ豫知シ居ル管ナレハナリ、尤モ自分ニ質入シタル銀行ヘハ請求シ得ルユエ、不足分ハ之ニ對シテ請求スヘシ。(改正法モ亦預證券所持人ノコト、爲セリ(商法第百六十七條ノ二))  
(債務ヲ其記載金額ニ限ル)

但シ是等ハ單ニ法律論ニシテ、實際上第二、第三等ノ質受銀行カ、第一ノ質權範圍ヲ超ヘテ貸出スカ如キコト極メテ稀ナルヘシ(註二)今以上ノ關係ヲ圖解スレハ下ノ如シ。

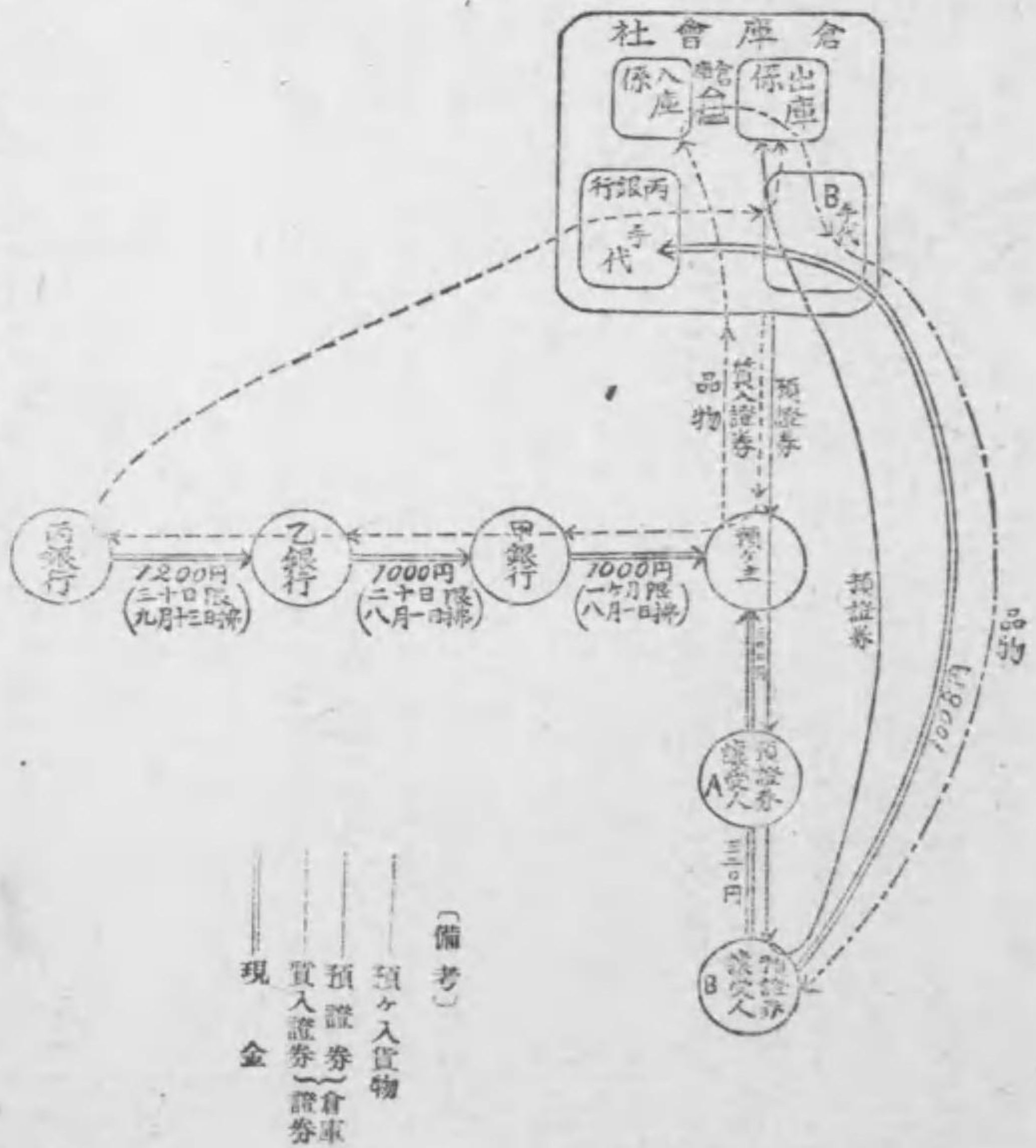
(解) 例ヘハ某商人アリ、七月一日ニ倉庫ニ或貨物ヲ預ケ入レ、之ニ對シテ倉庫證券ヲ受取リ、同日、期限一ヶ月(八月一日限リ)利率日歩貳錢五厘ノ割合ニテ金千圓ヲ借入ル、爲メ、甲銀行ヘ質入證券ヲ裏書シテ差入レタリ、然ルニ甲銀行ハ都合上同月十三日ニ期限二十日間(八月一日限、兩端ノ日ヲ入ル)日歩貳錢貳厘ニテ乙銀行ヘ質入シ、金千圓ヲ借入レタルニ、乙銀行ハ同月十五日更ニ三十日拂九月十三日限リ)同日歩ニテ金千貳百圓ヲ丙銀行ヨリ借入レタリ、最初ノ質入條件ハ證券面ニ記載セルモ、其他ハ之ナキモノトス。

一方預ケ主ハ、七月末ニ於テ、金千三百十圓ニテ、此貨物ヲAニ賣却シ、預證券ニ裏書シテ交付シ、手取金三百圓ヲ受取レリ(千圓ハ質金額、十圓ハ八月一日マデノ利息、及ヒ保管料トシテ差引ク)A更ニBニ千三百二十圓ニテ賣却シ、預證券引換ニ、手取金三百二十圓ヲ受取リタリ。

扨愈々第一質入ノ期限ナル八月一日ニ到レバ、Bナル預證券所持人ノ手代ハ現金千八圓(元

金千圓利息八圓)

ヲ携ヘ、倉庫會社ニ出頭シ丙銀行員(又ハ代理人タル倉庫)ニ預證券ヲ示シ、元利金ヲ差出シテ、質入證券ノ交付ヲ申込ミタ



第二章 倉庫ノ業務 倉庫證券ノ發行 倉庫證券ノ裏書讓渡及質入



リ、丙銀行ハ乙銀行ニ貸シタル金ノ期限ニアラス、又金額モ少ケレト、證券面ニ記載シタルヲ以テ之ヲ拒ムコトヲ得ス、千八圓ヲ受取リテ質入證券ヲ交付セリ、Bノ手代ハ之ニ保管料金二圓ト預證券トヲ添付シテ、出庫係ニ差出シ、貨物ノ引渡ヲ求ムルトモ、證券替ヲ求ムルトモ、其任意ナリトス。

丙銀行ハ元利金ノ不足ヲ乙銀行ニノミ求メ得テ、預ケ主又ハ甲銀行ニ請求スルヲ得ス。

(註一) 學說トシテハ、超過シ得スト爲スモノ又ハ、超過シ得ルモ第一質權ノ範圍ヲ超過スヘカラスト爲スモノナドノ説アリ、是等ノ如ク法律ヲ以テ定ムレハ便ナランモ、我商法ノ解釋トシテ本文ノ如シ、最モ事實上ハ同様ニ歸ス、何トナレハ本文ノ如クスルモ、實際上超過スル質受ケヲ爲スモノ之レナカルヘケレハナリ。(商法改正後ニ於テ殊ニ然リ)

(註二) 若シ超過條件ニテ質受ケシタルトキ、質入銀行カ不足額ヲ支拂フコト能ハサルトキハ、何人ニモ、何物ニ對シテモ支拂ヲ求ムルヲ得ス、ツマリ其銀行ノ損失ニ歸スヘケレハナリ。

若シ又中途ノ質受銀行カ超過金額ヲ貸出シ、質入銀行ナシテ之ヲ證券面ニ記載セシメタルトキハ如何ト云フニ、其限度ニ於テ責任ヲ負フ旨ヲ示スコトハ爲ルカユエニ、其質入銀行ハ後者ニ對シ自己ノ責任ヲ重カラシムルコトハ爲ルノミ。質權ハ物權ノ一種ナルヲ以テ、第三者ニ對抗シ、其質物ニ就テ他人ヨリ「貸金ノ辨濟ニ充ツヘキ」答ナルカ故ニ當方ニ引渡サレタシ「ナト請求セラル、モ、之カ爲メニ權利ニ影響ヲ及ホスコトナキカ如クセサルヘカラス、質入證券ノ如キ一種ノ動産質(次節參照)ハ質權者タル銀行カ、其質權ヲ以テ第三者ニ對抗センニハ、繼續シテ證券ヲ占有スルヲ要スルハ勿論ナルモ、單ニ此條件、及ヒ前掲ノ借入金額等ヲ、質入證券ニ記載スル條件ノミヲ以テ足レリトセハ、一方預證券ノ所持人ハ、唯質入證券ヲ利用セル事實ヲ知ルコトヲ得ルノミニテ、(質入前ニハ預證券ヲ讓渡スコト能

ハサルカ故ニ) 何人カ質債權者ナルヤ、借入金額ハ幾何ナルヤ等ヲ知ルコト能ハサルヲ以テ、自己ノ所持セル預證券ノ價格ハ、果シテ幾何ノ價格アルモノナルヤ、何人ニ就テ質金額ヲ支拂ヘハ可ナルヤ、又何時辨濟シテ可ナルヤ等ノ點ニ關シ、一向要領ヲ得サル場合アルヘク、隨テ預證券所持人ノ迷惑測ル可ラサルモノアルヘキヲ以テ、遂ニ之ヲ讓渡スコトヲ得サルニ至ラン、斯クテハ證券發行ノ趣旨ニモ悖ルコト、爲ルカ故ニ、商法ハ質入證券ニ裏書スルカ如ク、債權額利息及辨濟期ヲ預證券ニ記載シテ、之ニ署名スルニ非サレハ、其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト爲セリ、而シテ茲ニ第三者トハ、主トシテ預證券所持人ヲ指スモノナルヲ以テ、實際質入證券ヲ取リテ貸付ケタル債權者ト雖モ、此等ノ條件ヲ預證券ニ記入セサルトキハ、預證券所持人ニ對シテ此質權ヲ云爲スルコト能ハサルニ至ラン。

### 第四款 貨物ノ出庫

(一) 質入前ノ出庫 預證券ノ所持人カ、未タ質入證券ヲ利用セサル前、即チ質入證券添附メ預證券ヲ所有スル者カ、寄託貨物ノ全部又ハ一部ヲ出庫セントスルトキハ、預證券及質入證券ノ相當欄ニ、所定ノ事項ヲ記載シテ記名調印シ、之ヲ出庫係ニ差出スヘシ、然ルトキハ出庫係ハ、全部又ハ一部出庫ノ割合ニ應スル保管料、立替金其他ノ費用ヲ算出シテ、其支拂ヲ命スルヲ以テ、之ヲ現金係ニ支拂ヒタル後、出庫係ヨリ左ノ如キ出庫差圖書ヲ受取り、之ヲ現場係(即チ貨物方)ニ



出庫指圖書 大正 年 月 日

貨物方御中	寄託主	殿		
	番 號	口 高	記 號	
	番 號	壹個量		
	品名個數			
出庫係	摘要			
	年月日	内 渡	個 數	貨物方印

右貨物此指圖書引換御渡可成候也

示シ貨物ヲ受取ルヘシ、貨物受取ノ際不足毀損等ヲ發見シタル時ハ、直チニ其旨ヲ告ケテ交渉シ、賠償請求權ヲ失フカ如キコトナキ様心掛クヘシ、而シテ寄託貨物ノ全部ヲ出庫シタルトキハ、倉庫證券ノ生命茲ニ全ク終ヲ告クルカ故ニ、倉庫ハ之ヲ返還スルコトナシト雖モ、一部ノ出庫所謂内出ノ場合ニハ、同一證券ヲ更ニ使用セシムルモノナルヲ以テ、倉庫ハ各證券ノ裏面内受取欄ニ、主任者ノ認印ヲ捺シテ所持人ニ返還スルヲ常トス。

之ニ類シタルモノニテ、從來各倉庫ニ於テ盛ンニ使用セラレタル「藏出報告」ナルモノアリ、右雛形ノ如ク

出庫係ヨリ貨物方ニ宛テタルモノニアラスシテ、預ケ、主カ預證券ヲ根抵當トシテ銀行ニ差入レタル後貨物ヲ引出サントスルトキ、倉庫ニ宛テ、出庫ヲ依頼シタルモノナリ、倉庫若シ「藏出報告」ヲ以テ貨物ノ出庫ヲ請求スル者アルトキハ、相當ノ代金ヲ預リ置キテ貨物ヲ渡シ、期日ノ至ルヲ待テ預ケ主ニ代リ銀行ニ返済スルモノトス、然レトモ現今ハ預證券及質入證券ノ二者ヲ發行スルヲ以テ、株流通證券發行ノ場合ノ外、此ノ如キ書類ハ殆ント必要ナシト云フ。(英國ノ Warehouse Order ハ此券ノ場合ノ「出庫指圖書」ニ當ル)

(二)質入後ノ出庫 倉庫カ倉庫證券ヲ發行シタルトキハ、之ト引換ニアサレハ貨物ノ引渡ヲ許サ、ルヲ以テ、證券所持人カ質入證券ヲ利用シ、金員ヲ借入レタルトキ、又ハ質入後ノ預證券ヲ買入レタルトキハ、先ヅ其質權者ニ就キテ借入金ヲ返済シ、質入證券ヲ取戻シ、預證券ト共ニ倉庫ニ提出セサルヘカラス、此場合、借入金ノ期日ナランニハ(質入證券所持銀行ノ何人タルヲ知ルニ由ナシトスルモ)倉庫營業所ニ到リ元利金ヲ支拂ヘハ可ナルモ、債務ハ期限前償リニ返済スルコト能ハサルモノナルヲ以テ、質權者カ承諾セサルトキハ、借金ヲ返済シテ質入證券ヲ得ルニ由ナキコト、爲リテ、必要ノ時貨物ヲ引出スコト能ハサルニ至ラン、斯クテハ證券發行ノ趣旨ニ反スルヲ以テ、右ノ如キ場合ニハ預證券所持人カ、借入金ノ全額及ヒ期限マテノ利息ヲ、倉庫ニ供託スルトキハ、貨物ヲ出庫セシムルコト、定ム、而シテ此供託金ハ倉庫カ質入證券ノ所持人(多クハ銀行、以下然リ)ニ代リテ預リ置クモノナルヲ以テ、質入證券所持人カ質入證券ニ依リテ、



此金員ノ引渡ヲ求ムルトキハ、必ラズ之ヲ支拂フ可キモノトス、尤モ現今我邦ノ實際ニ於テハ、質入證券ノ運用盛ンナラス、之ヲ擔保ニ取リタル銀行カ、更ニ又質トスルカ如キハ、寧ロ例外ナルノミナラス、倉庫ハ銀行ト特約ヲ結ビ、其發行シタル證券ヲ質入スル者アリタルトキハ、其旨ヲ通知セシムルノ習ヒナルカ故ニ、倉庫ニ供託セスシテ、直チニ質債權者タル銀行ニ就キテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルノ便アリ。

右ハ質入貨物ヲ全部出庫スル手續ナレトモ、質入貨物ノ一部ヲ出庫セントスルトキハ如何ニスヘキヤ、此點ハ嘗テ商法ニ明文ナカリシカ故ニ、學者間ニハ議論アリテ、或ハ全部出庫ノ場合ノ如ク、其割合ニ應スル金額ヲ供託スルトキハ、出庫ヲ許サ、ル可ラスト云ヒ、或ハ供託ハ法律上特ニ之ヲ許スノ明文アリテ、始メテ爲スコトヲ得ルモノニテ、如何ニ實際上便利ナレハトテ、法律ニ規定ナキ一部ノ供託ヲ認ムヘキニアラス、宜シク質權者ニ就キ、其承諾ヲ得テ相當ノ金額ヲ辨濟スヘキモノナリト爲スモノアリ、實際ニ於テモ、倉庫ニ依リ區々ニシテ、イツレモ倉庫證券及營業規則ニ之ニ關スル條款ヲ挿入シ、或ハ辨濟ニ限リ、或ハ一部ノ供託ヲ許スコト、爲セシカ、商法改正後ニ於テハ、多ク一部ノ供託ヲ許スヲ原則ト爲スモノ、如シ(從來モ多數ノ倉庫ハ斯ク取扱ヒ居タリ)今三菱倉庫株式會社ノ營業規則ニ見ルニ、

第二十五條 質權設定後預證所持人ニ於テ、其寄託物ノ全部又ハ一部ヲ受取ラントスルトキハ、其債權ノ全部又ハ一部及之ニ對スル辨濟期マテノ利息ヲ當會社ニ供託シテ之カ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 質入證券ニ質權ヲ設定スルニ當リ、質權者及質權設定者ハ、寄託物ノ一部出庫ヲ禁スル旨、又ハ其一部出庫ニ當リテ供託スヘキ金額ノ割合ヲ協定シテ、之ヲ預證券及質入證券ニ記載スヘシ、當會社ハ其預證券ノ記載ニ依リテ、之ヲ取扱フヘシ

預證券ニ前項ノ記載ナキトキハ、當會社ハ債權者ニ於テ一部出庫ヲ認メタルモノト看做シ、之ヲ取扱フヘシ、此場合ニ於ケル供託金ハ質權設定當時ノ受寄物ノ總個數ヲ以テ、債權金額ヲ除シ得タル金額ヲ、受寄物一個ノ供託金割合ト定メ、之ヲ算出スヘシ

第二十七條 質權設定後ニ於ケル寄託者ノ一部出庫ニ關シ、質權者ト當會社トノ間ニ特約アル場合ニ於テハ、預證券所持人ハ質權者ニ債務ノ一部ヲ支拂ヒ、之ニ對スル貨物内渡請求ヲ求メ、之ヲ當會社ニ提出スヘシ

今一部出庫ニ關シ此三箇條ヲ通觀スルニ、(一)供託ニ依リ一部出庫ヲ求ムルヲ得ルコト、(二)質受銀行及質入人ハ一部出庫ヲ禁スル者ヲ約シ、之ヲ預證券及質入證券ニ記載シ得ルコト、(三)供託金ノ割合ヲ約シテ之ヲ兩證券ニ記載セハ、之ニ依リテ取扱フコト、(四)禁止モ供託金ノ割合モ記載ナキトキハ、寄託物ノ個數ニテ質金額ヲ除シ(利息モ亦之ニ伴フ)之ヲ出庫數ニ乘シタル金額ヲ供託セシメテ、出庫ヲ許スコト、(五)貸出銀行ト倉庫トノ間ニ特約アルトキハ、一部辨濟ヲ爲サシムルコト、爲ルヘシ、而シテ商法ノ之ニ關スル規定ヲ觀ルニ

第三十八條ノ二 受寄物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ、且ツ分割スルコトヲ得ヘキ物ナルトキハ、預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ヒ其辨濟期マテノ利息ヲ供託シ、其割合ニ應ジテ、寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得、此場合ニ於テ、倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタル金額及ヒ返還シタル寄託物ノ數量ヲ、預證券ニ記載シ、且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル一部出庫ニ關スル費用ハ、預證券ノ所持人之ヲ負擔ス



第三百八十條ノ三(第一項) 前二條ノ場合ニ於テ買入證券所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存ス

此規定ニ依レハ、一部出庫ヲ請求シ得ル條件ハ(一)寄託貨物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有スルコト、(二)貨物カ差支ナク分割シ得ルコト、(三)出庫數量ニ比例スル債權額及其利息ヲ倉庫ニ供託スルコトノ三者ニシテ、例ヘハ小麥粉(米利堅粉)ノ中、米國製(ゴールド)ナル同種類ノ物百袋ヲ寄託シ、其買入證券ニ依リテ貳百五拾圓ヲ日歩貳錢ニテ六十日間、某銀行ヨリ借入レタルトキ、三十俵ヲ出庫セントスルトキハ、

$$\frac{2500}{100} \times 80 = ¥75 \text{ (借入金)} \quad \frac{25 \times 75}{100} \times 60 = 90 \text{ (全期間ノ利息)} \quad ¥75 + ¥90 = ¥165$$

即チ七拾五圓九拾錢ヲ供託シテ、其出庫ヲ求ムルコトヲ得ルカ如シ、此場合ニハ別ニ出庫部分ニ對スル保管料、立替金(之アラハ)ヲ倉庫ニ支拂フヘキヤ言フ俟タス、而シテ預證券ニ出庫ノ數量ヲ記入セシムルノ義務ヲ、倉庫ニ負ハシメタルハ、證券ノ代表貨物カ減少シタル當然ノ結果ニシテ、之ヲ帳簿ニ記入セシメタルハ、證券發行ノ當時記入セシメタル理由ニ等シク、此記載事項ニ變更ヲ來シタルカ爲メナリ、又一部出庫ハ預證券所持人ノ便宜ニ出テタルモノナルヲ以テ、其費用ヲ負擔セシムルコト、當ニ然ルヘキ所ナリトス。

又第三百八十條ノ三ハ供託金ニ依リテ全部又ハ一部ノ出庫ヲ許ス場合ノ當然ノ規定ニシテ、斯クテ質權者ヲシテ、出庫セル寄託物ノ對價タル供託金ノ上ニ權利ヲ有セシメ、以テ其損害ヲ防キタルナリ。

明治四十四年商法改正前ニ於テハ、一部出庫ニ關スル供託ノ規定ナカリシモ、實際上不便ナリシヲ以テ、多數ノ倉庫ハ、證券及營業規則ニ於テ之ヲ許ス旨ヲ掲ケテ、實行シ居タル如シ、然レトモ法ニ規定ナキ一部出庫ノ供託ヲ認ムルハ元來違法ノ處置ニシテ、倉庫ハ之カ爲メニ質入證券所持人ニ蒙ラシメタル損害ニ對シ、責任ヲ負フヘキ理ナリシナリ、改正商法カ前記ノ條文ヲ挿入シタルハ、畢竟此不便ヲ除カンカ爲メニシテ、極メテ適當ノ處置ナリト信ス、蓋シ之カ爲メニ便益ヲ受クルハ預證券所持人ニシテ、倉庫ハ固ヨリ、質權者タル銀行ト雖モ、始ント損害ヲ蒙ルノ虞之ナケレハナリ。

然レトモ、單ニ貸方タル銀行ノ側ヨリ考フルトキハ、倉庫ト特約ヲ結ヒ、出庫數ニ應スル金額ヲ辨濟セシメ、出庫指圖書(貨物内渡請求書)ニ依リテ出庫セシムルヲ便トスヘク、或ハ一步ヲ進メテ次ニ述フルカ如ク現物ヲ質受シ、之ヲ自己ノ名ニ於テ倉庫ニ寄託シ、禁流通貨物預證書ヲ收メ亦指圖書ニ依リテ出庫セシムルコト最モ安全ナルヘキナリ、但シ後ノ方法ヲ採ルトキハ、一旦質入シタル貨物ヲ賣渡スニ由ナク、貨物所有者ノ不便甚シキカ如ク見ルモ、質入後賣却ノ目的ナキ者ニハ(是レ實際ニ多キヲ占ム)何等不便ヲ生セサルヘシ。

是レ契約ニ依ル辨濟ヲ主トシ、共託ヲ從トセルモノナリ。  
(貨物受取證) 以上述ヘタル出庫ノ方法ハ、預證券及質入證券ヲ發行シタルトキノモノナレト、禁流通貨物預證書(後ニ詳説ス)又ハ保管貨物通帳ヲ發行シタルトキモ、亦右ノ方法ニ準シテ出庫



貨物受取證

一	藏番	番號
口高	記號	
壹個ノ量		

右之貨物正ニ受取候也

寄託主

大正 年 月 日

三菱倉庫株式會社御中

セシムルノ習ヒニテ、但タ此場合ニハ上ノ如キ貨物受取書ヲ以テ、之ニ代用セシムルコトアルノ差異アリ。

(貨物引渡請求書) 倉庫ニ依リテハ、質權者タル銀行カ動産質トシテ現品ヲ預リ、其貨物ノ代理占有ヲ依頼シタルトキハ、之ニ對シテ禁流通貨物預證書ヲ交付シ置キ、斯クシテ質入主カ借入金ノ全部又ハ一部ヲ辨濟シタルトキハ、銀行ヨリ貨物引渡請求書(從來ノ藏出報告ニ當ル)ヲ乞ヒ受ケ、之ニ依リテ貨物ノ全部又ハ一部ヲ出庫セシムルモノト爲セルモノアリ。

(三)質入貨物ノ競賣 質入證券ノ所持人カ其債務ノ辨濟期ニ至リ、支拂ヲ受ケサルトキハ、寄託貨物ニ對シ競賣權ヲ行フコトヲ得ルヤ勿論ナルモ、質權者ヲシテ輕々シク貨物ヲ

賣却セシムルハ、預證券所持人及ヒ質入證券ノ裏書人ヲ保護スルノ方面ニ於テ、聊カ遺憾ナキ能ハサルヲ以テ、此ノ如キ場合ニハ、先ツ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシメ、其日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニアラサレハ、寄託物ノ競賣ヲ爲スコトヲ得スト定ム(商法第三百六十八條及第三百六十九條)是レ此間ニ預證券所持人ヲシテ此事實ヲ知ラシメ、以テ辨濟ノ機會ヲ得セシメンカ爲ニ外ナラサルナリ、然レトモ此ノ如ク、債務者等ヲ保護スルニ過キタル、面倒ナル規定ヲ設ケタル爲メ、却テ證券ノ流通ヲ阻碍スルニ至リタルハ、後ニ述フル所ノ如シ。

茲ニ注意スヘキハ質入證券所持人ニ對スル當面ノ債務者ハ何人ナルヤノ點ニテ、舊商法ノ解釋トシテハ、或ハ第一質入裏書人ナリト云ヒ、或ハ預證券所持人ナリト云ヒ、議論ノ岐ル、所ナリシカ、改正法ハ明文ヲ以テ預證券所持人カ物の有限ノ責任ヲ負フヘキモノト爲セリ。

第三百六十七條ノ二 預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ以テ預證券ニ記載シタル債權額及利息ヲ辨濟スル義務ヲ負フ。

即チ質入證券ノ所持人ハ、質權實行前ニ於テ、預證券所持人ニ對シ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルノ理ニテ、實際上ニ於テモ質權者タル銀行カ、預證券所持人ヲ知り得ル場合ニ於テハ、一應之ヲ請求シ、故ラニ競賣等ノ煩ヲ爲サ、ルヘキモ、預證券ハ質入後轉轉シ、其現有者ヲ知ルコト能ハサル場合ナキヲ保セス(但シ日本ノ現狀ニテハ此ノ如キコト稀ナリト云フ)隨テ預證券所持人ヲシテ、倉庫ノ營業所ニ就キ、辨濟ヲ爲サシムルコトヲ規定シタルモ、此場合、期日ニ倉庫ニ元利金ヲ持參セサルトキハ、質權實行ニ依ルノ外ナク、此際ハ拒絕證書ヲ要スルモノト爲セリ(商



## 法第三百六十七條ノ三及第三百六十八條

右ノ規定ニ從ヒテ貨物ヲ競賣(註)シタルトキハ、其代金ヲ如何ニスヘキヤ、又競賣ノ收得金ニテ債務ヲ完済シ能ハサルトキハ如何ト云フニ。

倉庫ハ競賣代金ノ中ヨリ、先ツ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租税、保管料、其他保管ニ關スル費用、及立替金ヲ控除シタル後、其殘額ヲ質入證券ト引替ニ質權者ニ支拂フ可キ定メニシテ、質權者更ニ此中ヨリ債權額、利息、拒絶證書作成ノ費用ヲ控除シ、尙ホ剩餘アルトキハ之ヲ倉庫ニ返シ、倉庫ハ又之ヲ預證券所持人ニ證券引換ヘニ拂渡スヘキモノトス。(商法第三百七十條)凡ソ質權者ハ貨物ニ重キヲ置キテ金員ヲ貸與スルモノニテ、寄託物ノ價格多少下落スルモ、債權額其他ノ辨濟ニ不足ヲ生スルカ如キ患ヒナカラシムルモノナレト、相場著シク下落スルカ、又ハ品質意外ニ損敗セル等ノ爲メニ、競賣代金ヲ以テ債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハサル場合ナキヲ保セス、此ノ如キ場合ニハ質入證券ノ所持人ハ、其裏書人ニ對シテ、其不足額ヲ請求スルコトヲ得ルモ、質入證券ハ競賣代金ヲ倉庫ヨリ受取ルトキ、之ヲ引換ヘニ返還スヘキモノナルヲ以テ、請求上ノ不便少カラス、商法ハ此不便ヲ除クカ爲メニ、倉庫ヲシテ證券所持人即質權者ノ支拂ヒタル金額ヲ、質入證券ニ記入シタル後之ヲ返還シ、且其旨ヲ帳簿ニ記載セシムルコト、爲セリ。(商法第三百七十一條)

商法第三百七十二條ハ「質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ、尙ホ不足アルトキハ

其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得」セシム、此場合ニ於テハ手形法中償還請求ノ規定ニ從ヒ、期日後二日以内ニ拒絶證書ヲ作ラシメテ、其直接ノ前者ニ對シ、拒絶證書作成ノ日又ハ其後二日以内ニ償還請求ノ通知ヲ發シ、斯ク通知ヲ受タル者モ亦、自己ノ讓受ケタル裏書人ニ對シ、通知ヲ受ケタル日又ハ其後二日以内ニ償還請求ノ通知ヲ發セサルヘカラス、其金額ハ債權金額ノ元利金、期日以後ノ法定利子(年六分ノ割合)拒絶證書作成ノ手数料其他ノ費用ニシテ、自己ノ後者ヨリ請求ヲ受タル裏書人ハ、其支出金額及支拂日以後ノ法定利子、並ニ支出諸費用ナリ、是等ヲ請求スルトキハ質入證券ニ拒絶證書及ヒ償還計算書ヲ添ヘサルヘカラサルコト等、亦手形ノ場合ニ等シ。(商法第三百七十二條第二項)

前記條文ニ依レハ裏書人ハ不足額ニ對シテ責任ヲ負フヲ以テ、寄託物カ滅失シタルトキハ責任ナシト云フ者アレト、是レ徒ニ文字ニ拘泥スル辭論ニシテ、滅失ノ場合ハ不足ノ最モ著シキ場合ナレハ、之カ全部ヲ裏書人ニ請求スルモ、法文ノ解釋上何等不條理アルコトナシ、但斯ノ如ク解ストキハ、當面ノ債務者タル預證券所持人ハ毫モ責任ヲ負ハサルカ如キコト、爲レトモ、物的有限ノ責任ヲ負ヒタルモノナレハ、是亦己ムヲ得サルノ結果ト云フヘク、又一面ヨリ觀レハ、第一質入裏書人ハ、此不測ノ損失ヲ避ケンカ爲ニハ、寄託貨物ニ保險ヲ附スルコトヲ得ヘキヲ以テ(實際上入庫貨物ハ保險ニ附シタルモノ多キヲ以テ、保險會社ノ支拂ハサル損害ノ場合ノ外前記ノ如キ憂ナシ)、若シ之ヲ附セスシテ損害ヲ蒙ルコト、ナルモ、悔ユルコトナカルヘキノ理ナリ。



質入證券ノ流通ヲ獎勵センニハ、質入證券所持人ノ便宜ヲ圖ルト同時ニ、所持人カ其權利ヲ行使スル上ニ於テ怠慢アリタルトキハ、裏書讓渡人(質入證券ノ)ヲシテ其義務ヲ免レシメ、成ルベク早ク其關係ヲ消滅セシムルコト必要ナルヲ以テ、質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ、支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ、拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ、又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ、二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ、裏書人ニ對スル請求權ヲ失ヒ、裏書人ハ全ク償還ノ義務ヲ免ル、モノト爲セリ。(商法第三百七十三條)

此ノ如ク我商法ハ拒絕證書ノ作成ニ關シ專ラ手形ニ關スル規定ヲ準用シ、二日以内ニ拒絕證書作成、二週間内ニ競賣、公證人、執達吏等ノ面倒ナル手續ヲ爲サシムルモ、倉庫證券ノ記載事項ハ手形ノ如ク簡單ナラス、且ツ倉庫證券ハ各品各品質ニ付キ各通ヲ作ルノ習ヒニテ、一時ニ數十枚拒絕證書ヲ作成スルノ必要ナキニアラス、活ナル商取引ニ適セサルハ勿論、競賣法ニ依リテ競賣セシムルトキハ、其代價モ大ニ減少スヘキカユエニ、銀行モ質入者モ共ニ損失ヲ蒙ルニ至ル、是レ此規定ノ我當業者ニ悅ハレサル所以ナリ。

而シテ預證券所持人及ヒ質入證券裏書人カ、質入證券ノ所持人ニ對シテ負フ責任ハ頗ル重大ナルノミナラス、一方ニ於テハ普通ノ債權ト異リ、質物ヲ以テ擔保セラル、ノ利益アルヲ以テ、亦證券ノ流通獎勵上其權利請求ノ有効期間ヲ次ノ如ク一箇年又ハ六ヶ月ト爲シ、辨濟期日ヨリ此期間ヲ過キテ請求セサルトキハ、時効ニ因リテ消滅スルモノト爲セリ。(商法三百七十四條)

(甲)質入證券所持人ノ請求權

- 一、預證券所持人ニ對スル請求權ノ時効
- 二、質入證券裏書人ニ對スル請求權ノ時効

- 一 年(辨濟期ヨリ)
- 六 月(寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ)

(乙)質入證券裏書人ノ請求權

- 一、其前者(讓渡人)ニ對スル請求權ノ時効

- 六 月(償還ノ日ヨリ)

舊商法ニハ、質入證券所持人カ、債務者其他ノ裏書人ニ對スル請求權ノ時効ヲ一ケ年ト爲セルニ、手形償還義務ノ時効ハ六ヶ月ナリシヲ以テ政府ノ商法改正案ニテハ、手形ノ時効ト權衡ヲ得セシメンカ爲メ、之ヲ六ヶ月ト爲シタルトコロ、質入證券ノ時効ハ其マ、通過シタルモ、手形ノ時効ハ衆議院ノ修正案ニ從ヒ一ケ年ト爲リタル爲メ、全然舊法ト相反スルノ結果ヲ見ルニ至リタルモノナリ(商法第四百四十三條)立法ノ經路ハ兎ニ角、斯ク改メタル結果如何ト云フニ、質入證券裏書人ノ責任ヲ輕減スルモ、其所持人ノ權利ヲ薄カラシメ、幾分質受ヲ躊躇セシムルノ憾ミ之ナキヲ保セサルヘシ。

(註) 競賣 動産ノ競賣ハ留置權者、先取持權者、質權者、其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ、其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任(書面上ノ)ニ依リ、競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所屬ノ執達吏之ヲ爲シ、委任ヲ受ケタル執達吏ハ競賣ノ場所及日時ヲ豫メ公告シ、少クモ五日ヲ經テ之ヲ行フヘシ。(競賣法參照)

(三)出庫ノ實際方面 商法ハ泰西ノ發達セル制度ニ倣ヒ、證券ノ運用盛ンニ行ハルヘキ將來ヲ



豫想シテ、寄託編中倉庫業ノ一節ヲ設ケ、殊ニ複雜ナル二枚證券制度ヲ採用シテ、讓渡金融ノ便ヲ圖リタリト雖モ、我邦ノ商人ト斯業ノ實際トハ、未タ立法者ノ理想トシタルカ如ク發達スルニ至ラス、之ヲ倉庫營業者ノ實驗ニ質シテ、頗ル意外ノ感ニ打タル、場合尠少ナラス、今茲ニ出庫ノ實際方面ヲ説クニ當リ、更ニ前節ニ溯リテ證券ノ慣習ヲ述ブルハ、一ハ出庫手續カ證券運用法ノ異ナルニ依リテ同シカラサルト、一ハ現今法律ト實際トカ如何ニ適合セサルヤノ例證ヲ示サンカ爲ナリ。(以下ノ習慣ハ商法改正前ノモノナレハ、其後多少ノ變化ハ之ルヘシ。)

(甲) 證券運用 預證券及質入證券ノ發行ハ、寄託主ノ請求ニ依リテ、發行スヘキモノニシテ、貨物ノ寄託アレハ、即チ證券ノ發行アリト云ヘルカ如ク、當然隨伴スルモノニアラス、之ヲ私人倉庫ノ代庖若クハ物置代用ト見做シ、通帳又ハ單純ナル預證書ノ交付ヲ受クルヲ以テ足レリト爲スモ、亦儘ニ倉庫ノ一利用法タルヲ失ハスト雖モ、前屢々述ヘタルカ如ク、文明的倉庫ノ目的トスル所ハ主トシテ金融ト讓渡上ノ便宜トニアリ、一葉ノ紙片ヲ以テ數萬圓ノ現品ヲ代表セシメ、能ク質人、賣渡ノ好方便ヲ供セシムルニ在ルヤ疑フヘカラス、然ルニ我邦ノ商人ハ未タ其利用法ニ慣熟セサルニ因ルカ、倉庫證券ノ交付ヲ求ムル者サヘ尙多キニ至ラス、商法ノ趣旨ニ從テ之ヲ利用セントスル者ノ如キハ遺憾ナカラ甚稀少ナルカ如シ、例ヘハ質入證券作成ノ旨ニ基キ、預證券ヨリ分離シテ質入セス、二證券連結ノ儘、株券公債等ノ如ク、別ニ委任狀ヲ附シ、約束手形割引ノ擔保トシテ差入レ、其割引貸ヲ求ムルノ形式ニ依リテ借入ル、トカ、或ハ二證券添附ノ儘質

權ヲ設定セシメ、(但シ此方法ハ或一派ノ論者ノ主張スルカ如ク商法違反ニアラス)、更ニ他方ニ於テ約束手形ヲ振出サシメ、一債務ニ對シ二重ノ義務ヲ負ハシムルトカ、又ハ銀行ト倉庫トカ親縁ヲ有スル爲メ、銀行カ現物ヲ擔保トシテ貸付ケ、更ニ其銀行ノ名ヲ以テ倉庫ニ寄託スルカ如キハ、珍シカラサル慣例ニシテ、顧フニ立法者ノ豫想セザリシ所ナラン。

最モ横濱神戸ノ如ク、貨物ノ轉輸頻繁ナル地方ニ於テハ、證券ノ利用比較的多ク、分離運用ノ場合モ亦稀ナラサルヘシト雖モ、一般ヨリ通觀スルトキハ、證券運用ノ實際ハ、遙カニ立法者ノ理想以下ニ在ルモノ、如シ、就中奇異ナルハ、裏書ニ關スル某種ノ商人ノ慣習ニシテ、商法ハ特ニ倉庫證券ヲ以テ指圖債券ト爲シ、手形ノ規定ニ依リ、裏書ナル簡易ノ手續ニ依リテ讓渡スルコトヲ得セシメタルニ、一派ノ商人ハ其證券記載ノ商品カ、何人ヨリ何人ノ手ニ渡リテ自己ノ手ニ入リタルカ、其轉轉ノ行路ヲ知ラシムルヲ好マサルカ爲メ、特ニ新證券ノ交付ヲ求ムル者サヘ之レアリト云フ。

(乙) 出庫手續 法律ノ規定ニ基ク出庫手續ノ大要ハ、既ニ述ヘタル所ノ如クナルモ、更ニ參考ノ爲メ、左ニ最モ發達セル二三ノ倉庫ノ出庫手續ヲ述ヘン。

一穀物ノ出庫 寄託貨物ノ種類ハ地方ニ依リテ同シカラサレド、各倉庫平均、米穀ノ如キハ、從來出入最モ多カリシ爲メカ、其出庫手續ノ如キモ亦比較的發達セルカ如シ、今某倉庫ノ之ニ關スル手續ヲ見ルニ、先ツ廻米市場ニ在リテ問屋ノ代理人ト爲リ、其賣買ヲ媒介スル仲買ノ如キ者、



荷主ニ代リテ左ノ如キ「米穀藏出通知書」ヲ作り、之ヲ渡先(買受主)ニ渡セハ、渡先ナル某ハ、右通知書ノ俵數ト割合(出來値段ノ)ニ依リテ算出セル代金ヲ添へ、之ヲ倉庫ニ差出スヘシ。

合割	數依	銘品	高口	渡先	藏出 月 日
號番	番秘		印荷	荷主	
號船				藏所	件 要

大正 年 月 日

合割	數依	銘品	口高	藏帶	番號
渡先	荷主			荷印	番號
				件要	

右代金引換ニ現品御渡相成度候也

東京廻米同屋市場 代

米穀藏出通知書

藏御中

大正 年 月 日

然ルトキハ倉庫ノ出庫係ハ、次ニ掲ケタル「米穀代金計算書」ト、「米穀出庫指圖書」ノ連結セルモノヲ、他ノ部分ヨリ割キ取リテ渡ス故ニ、之ヲ貨物方ニ示シ、双方立會ノ上實際ノ榷廻ヲ定メ、精算代金ヲ算出シテ過不足金額ヲ記入シ、現品ヲ受取ルヘシ、而シテ「米穀取立代金計算書」ハ倉庫内部ノ係カ計算ニ用フル紙片、又「米穀出庫傳票」ハ證券臺帳記入ノ材料ニ供スル傳票ナリ。

一、預證券及質入證券連結擔保差入ノ場合ノ内出 預證券及質入證券附着ノ擔保トシテ差入レタル場合ノ内出方法ハ、既ニ述ヘタルカ如ク、其出庫ノ割合ニ應スル金額ヲ倉庫ニ供託セハ可ナリト爲ス(質入證券ノミヲ差入レタル場合ノ如ク)モノアレト、相當金額ヲ辨濟シタル後出庫セシムルヲ至當トシ、豫メ債權銀行ヨリ次ノ如キ契約書及ヒ内受割合表ヲ取リ置キ、寄託主ヨリ出庫ヲ請求シタルトキハ、右ノ割合表ニ依リ、其數量ニ應スル金額ヲ銀行ニ代リテ取立テ、現物ヲ引渡シ、取立テタル金額ハ直ニ其銀行ヘ送達スルコト、爲シタルモノアリ、斯クテ銀行カ此内入金額ヲ受取リタル時ハ、之ニ依リ寄託主ヲシテ、倉庫證券ニ内受取ノ旨ヲ裏書セシメ、且ツ最初ノ受渡ノ時ハ、證券ヲ倉庫會社ニ送リテ、流通禁止ノ旨ノ記入ヲ求メ、銀行若シ此義務ヲ怠リタルトキハ(質權解除ノ時モ亦同シ)、損害賠償ノ責ニ任スルモノト定ム、書類ノ雛形ヲ左ニ示スヘシ。(此手續モ亦商法改正前ノ慣習ナリト知ルベシ)



米穀取立代金計算書

イ 受付 號 100 大正 年 月 日

寄託主	榊 廻	項目	收入日	金額	仕拂日
買主		見積代金			
仲次人		精算代金			
藏番		供託金			
證券番號		差引殘高			
口高		金高			
號		釣錢			
品名個數		不足金			
相場		延滞日歩			
數量					
摘要					

米穀代金計算書

イ 受付 番號 100 大正 年 月 日

買主 殿 年月日 項目 金額	榊 廻	總量	相場	個數	品名	見積代金
		不足金	釣錢	精算代金		
右藏出榊廻濟次第此計算書御持參勘定 可被下候也 但殘金ハ毎日二時限御仕拂可申候 帝國倉庫株式會社						

米穀出庫傳票

イ 受付 番號 100 大正 年 月 日

寄託主	
藏番	
證券番號	
品名	
個數	
摘要	

藏出通知書日附 月 日

米穀出庫指圖書

イ 受付 番號 100 大正 年 月 日

貨物方御中 出庫係	寄託主	殿
	買主	殿
右貨物此指圖書ハ御換渡可被候也	藏番	
	證券番號	
口高	口記	
	品名個數	
榊		
廻		

月 日 渡 濟

此指圖ノ效力ハ當日限



三錢印  
紙貼用

委託契約證

貴會社發行預證券及買入證券別紙明細表ノ通り債券ノ擔保トシテ當行ニ受取候ニ付テハ寄託主ヨリ該證券記載ノ貨物受取方申出候節ハ其受取貨物ノ數量ニ應シ別紙明細表記載ノ割合ニヨリ債權金額御取立ノ上貨物御渡相成度且其金額ハ速カニ當行へ御交附可被下就テハ左ノ事項御契約致候

一、證券ニ對スル貨物受取裏書ノ儀ハ御交附ノ金額ニ應シ當行ニ於テ寄託主ナシテ之ヲ爲サシムヘシ但第一回ノ内受渡ニ當リテハ其證券ヲ貴會社ニ送リテ爾後其流通ヲ禁スル旨ノ記入ヲ求ムルモノトス

二、證券ニ對シテ質權ヲ解除セルトキハ直チニ其證券ヲ貴會社ニ同附シ質權解除ノ旨ヲ通知スヘシ

三、前二項ノ履行ヲ怠レル爲メ貴會社ニ損害ヲ及ホシタルトキハ當行カ賠償ノ責ニ任スヘシ

右荷主ト協議ノ上契約致候依而如件

大正十年 月 日

帝國倉庫株式會社御中

擔保品内受渡割合表

質權設定ノ日附	證券番號	寄託主	品名	券面個數	貨物壹箇ノ内渡ニ對シ債權ノ辨濟ニ充ツヘキ金額	辨濟期日
月 日	號	殿				月 日
月 日	號	殿				月 日
月 日	號	殿				月 日
月 日	號	殿				月 日
月 日	號	殿				月 日
月 日	號	殿				月 日
月 日	號	殿				月 日

右之通質權設定相成候

大正 年 月 日

帝國倉庫株式會社御中

二、質入證券ニ依リテ銀行ヨリ借入レタル場合ノ内出 辨濟說ヲ可ナリトシテ債權銀行ト契約ヲ締結シ置キ、以テ内出ニ便スル倉庫アリ、今其契約ニ依レハ、銀行カ其倉庫ノ質入證券ニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキハ、債權通知書トテ質入證券ノ番號、寄託ノ記號、品目、個數及寄託者ノ氏名ヲ記入シ、其末文ニ「右當行へ質入相成候ニ付キ及御通知候、貨主ノ請求ニ依リ前記貨物内

第二章 倉庫ノ業務 倉庫證券ノ發行 貨物ノ出庫



出ノ節ハ本證券(質入證券)貴社へ差出申候間自今裏書ヲ禁スル旨御記入被下度候尤モ内渡請求ノ都府貨物内渡請求書ハ貴社へ交付可致候也」ト附記セル書面ヲ倉庫ニ送り、倉庫ハ之ヲ原簿ニ記入スルト同時ニ「債權記入通知書」トテ、右同様證券番號ノ欄ヲ設ケ且ツ「右當會社原簿ニ記入致候但前記貨物内渡ノ節ハ該質入證券ニ對スル預證券ニモ自今裏書讓渡ヲ禁スル旨記入可致候也」ト云ヘル文句ヲ附記シタル書類ヲ銀行ニ送附スヘシ、斯クテ貨物ノ内渡ヲ請求セントスル預證券所持人カ、銀行へ内入金ヲ辨濟シタルトキハ、銀行ハ左ノ如キ「貨物内渡請求書」ヲ請求者ニ渡スヲ以テ、請求者ハ之ヲ倉庫ニ呈示シシ貨物ノ引渡ヲ求ムベシ。

(現今モ一部出庫ノ場合ニ特約ヲ以テ辨濟スルトキハ之ニ類スル方法ヲ採ルモノアリ)

寄託者姓名
預證券番號
質入證券番號
倉庫番號
記號
品種
第何回内出庫數

右内出貨物ニ對スル辨濟金額收済ニ付前記貨物内出數量 何號預證券所持へ御渡相成度質入證券貴社へ持参迄ノ間本證券差出申置候也

但第一回内出ノ場合ニ於テハ質入證券及預證券へ裏書讓渡ヲ禁スル旨御記入濟ノ上御渡相成度候

年 月 日

何々倉庫株式會社御中

第一回内出ノ場合ニ於テハ、銀行ハ右ノ質入證券ヲ倉庫ニ送りテ、讓渡禁止ノ記入ヲ求メ、倉庫ハ又出庫主ヲシテ其持參セル預證券ノ裏面受取欄内ニ、相當事項ヲ記入セシメ、自己ハ之ニ讓渡禁止ノ旨ヲ記入シテ、出庫主ニ返還スヘク、債權全部ノ辨濟アリタルトキハ、銀行ハ「質權解除通知書」ナルモノヲ倉庫ニ回附シ、質權關係茲ニ全ク消滅スルモノトス。

(四) 日本ノ抽出及ヒ寄託物ノ點檢 寄託者若クハ預證券所持人ハ、其寄託物ヲ讓渡ス爲メ、時々之ヲ點檢シ、若クハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲シ、又ハ見本トシテ一部分ヲ引出ス必要アリ、又質入證券ノ所持人即チ質權者ハ、寄託物ニ依リ自己ノ債權ヲ擔保セラシ、モノナレハ、同シク現品ノ状態ヲ檢査スル必要アルヲ以テ、倉庫營業者ノ迷惑ト爲ラサル限り、即チ營業時間内ハ何時ニテモ右ノ行爲ヲ爲スコトヲ得トハ、商法第三百七十五條ノ規定スル所ニシテ、見本ノ抽出カ受託物ノ全部ノ價格ニ著シキ影響ヲ及ホスノ恐アリト認ムルトキハ、預證券及ヒ質入證券ニ其旨ヲ記入スルカ、又ハ相當ノ金額ヲ倉庫ニ供託セシムヘシトハ、某倉庫ノ定ムル所ナリ、孰レモ當然ノ定メニシテ、商法カ質入證券所持人(銀行)ニ保存處分、及見本抽出ヲ許サ、ルハ、質入證券所持人ハ他人ノ貨物ヲ處分スヘキモノニ非ラサルヲ以テ、見本抽出ノ必要ハ素ヨリ之ナク、假令保



存處分ヲ必要ナリトスルモ、這ハ預證券ノ所持人ヲシテ、之ヲ爲サシムルコトヲ得ルカユエナリ。

#### 第四節 倉荷證券

(一)倉庫證券發行ノ主義 嘗テ述ヘタルカ如ク、倉庫證券ヲ發行スル主義ニ、二枚主義(複券主義、一枚主義(單券主義)及ヒ折衷主義(混用又ハ併用主義)ノ三種アリ。

(二枚主義) トハ佛、白、埃、伊、並ニ我邦從來ノ制度ノ如ク、預證券及質入證券ノ二者ヲ同時ニ發行スルモノニテ、其長所ハ一旦質入シタル貨物ヲ、其マ、賣却シ得ルニ在レト、單ニ質入ノミ、若クハ讓渡ノミノ場合ニモ、必ス二證券ヲ發行スルノ煩アルコト、質入後賣却ノ場合ニハ法律關係複雜ナルコト等ノ短所アリ、此主義ヲ制定シタルハ佛國ニシテ、佛國モ初メハ一枚主義ナリシヲ、千八百五十八年ノ法律ニ依リ、二枚主義ニ改メテ今日ニ至リ、埃地利モ初メ一枚主義ナリシヲ千八百八十九年ニ改メテ二枚主義ト爲シ、伊太利モ亦此主義ニ依レリ。獨逸ニ於テモ一枚ヲ二枚ニ改ムルノ說ナキニアラサリシモ、其新高法ハ一枚主義ヲ固守シ、唯州ニ依リ二枚主義ヲ採ルモノ之アルノミ。而シテ此制度ヲ提出シタル佛國ハ、モト英國、和蘭等ノ制度ヲ觀察シ、更ニ一層巧妙ナラシメンカ爲メニ二枚制度ヲ作りタルモノナルカ、實際ニ於テハ、我邦ノ如ク或ハ二枚連結ノマ、銀行ヘ擔保トシ、或ハ荷爲替附貨物ヲ銀行名義ニテ倉庫ニ保管セシメ、顧客内出ヲ欲スルトキハ、之ニ應スル金額ヲ銀行ニ支拂ヒ、其「出庫指圖書」ヲ求メテ之ヲ倉庫ニ差出サ

シムルモノ少カラス、質入證券ノミヲ使用スル場合ハ却テ少ク、伊太利ノ如キモ亦此ノ方法ヲ採レルモノ多シト云フ。其他埃地利、白耳義等ニ於テモ、亦質入證券ノミニ依ル割引若クハ貸出ヲ行フコト極メテ少ク、我邦モ亦然リ、由是觀之ニ枚證券カ實際ニ適セサルハ世界共通ノ現象ニシテ、獨リ我邦ニ限りタルニアラス、隨テ我商人カ證券ノ法規ニ通セサル爲メノミニアラサルヲ知ルヘク、要スルニ法律關係ノ複雜ナルト、質權者ニ不便不安アルト、質權者カ幾分專橫ナルト、一枚ノ簡便ナルニ及ハサルトノ爲メナラスンハアラス。

(一枚主義) ハ獨、米、蘭、英諸國ノ採用スル所ニシテ、一枚ノ預證券ノミヲ發行シ、賣買質入執レニモ使用セシムルモノナルカ故ニ、二枚ニ比シ簡便ニシテ、之ヲ質受スル銀行ハ質入證券ヲ質受シタルカ如キ不安、不便ナク、倉庫モ亦一通ニテ手數ヲ要セサルノ利アリ。唯此證券ノ缺點トスル所ハ、一旦質入シタル貨物ヲ賣却スル場合ノ不便ニ在ルモ、斯ノ如キハ、少クモ我邦ノ實際ニ於テハ、之ヲ行フ者稀ニシテ、若シ之ヲ行ハントスル場合ニハ、質受銀行ノ承諾ヲ得(相當ノ元利金ヲ辨濟スルコト當然ナルヘシ)貨物ヲ出庫スルコトヲ得ルヲ以テ、單ニ證券ニ依リ賣却シ得スト云フニ止リ、全然賣却ノ便ヲ奪ハル、モノニアラス。而シテ英國ニ於テハ、此缺點ヲ補フ爲メ、質入ノ場合又ハ手附賣買ノ場合ニハ一旦預證券(Warrant)ヲ倉庫ニ返付シ、之ニ代ユルニ賣買證券(Sale Warrant)及「ウヘイト、ノート」(Weight Note)ノ二證券ヲ以テシ、質入ノ場合ニハ賣買證券ヲ銀行ニ差入レテ、貸出ヲ求メ、又手附賣買ノトキハ之ヲ賣主ノ手元ニ留メ置キ



「ウエイト、ノート」ニ依リテ入庫貨物ヲ讓渡スコトヲ得セシムルヲ以テ、結局折衷主義（又ハ二枚主義）ニ類スルモノト謂フヘシ。

（折衷主義） 茲ニ折衷主義トハ（一）千八百八十八年露國法及ヒ我邦ノ改正商法ノ如ク、寄託者ノ請求ニ依リ、或ハ預證券及ヒ質入證券ノ二枚ヲ發行シ、或ハ預證券一枚（我邦ニテハ之ヲ倉荷證券ト云フ）ノミヲ發行スルモノト（二）獨逸「ブレーメン」ノ如ク、原則トシテハ預證券一枚ノミヲ發行シ、其後質入ノ必要ヲ生シタルトキ、舊證券ヲ持參シテ質入證券ノ交付ヲ求ムルモノヲ含ム、前述英國ノ制度ノ如キモ亦寧ロ此主義ノ第二ニ屬スルモノト見ルヲ可トス。而シテ此主義ノ（第一）ハ所謂混同主義併用主義ト稱スルモノニテ、法律關係二枚主義ノ場合ヨリ更ニ複雜ヲ來スノ弊アリトシテ非難セラル、所ナルカ、我邦ニテハ商法改正ノ原案カ二枚主義ナリシヲ、當業者ノ反對熾ナリシ爲メ、貴族院ニ於テ一枚主義ヲ加へ、遂ニ露國法ト類スルニ至リシモノトス。

露國商法 千八百八十八年ノ商法ハ、當事者チシテ二枚及ヒ一枚ノ中孰レカ一ヲ撰フコトヲ得セシメ（第七百八十五條）若シ二枚ヲ撰ヒタルムキハ、預證券ニテ寄託物ヲ讓渡シ、質入證券ニテ質入セシム。又一枚ヲ乞ヒ受ケタルトキハ、其證券ニテ寄託物ヲ讓渡シ、又ハ質入セシム、之ニ質權ヲ設定スルニ當リテハ、證券讓渡ノ旨及ヒ債權者ノ氏名、住所、債權額、及其辨濟期等ヲ裏書シテ、之ヲ質權者ニ交付シ、此氏名、金額等ハ公證セシムルカ、又ハ倉庫ノ帳簿ニ記入スルコトヲ要ス、質入セラレタル證券ハ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘキモ、裏書人ハ償還義務ヲ負ハスト爲セリ（第八百八條乃至第八百十條）

（二）倉庫證券ノ性質 商法第二百八十三條ノ二ニ曰ク、

倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及質入證券ニ代ヘテ、倉荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス。

倉荷證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス。

ト、即チ其第一項ニ依リ、寄託者ハ寄託貨物ニ對シ、預證券及ヒ質入證券ヲ請求スルモ、又ハ倉荷證券ヲ請求スルモ任意ナルコトヲ示スト同時ニ、始メ預證券及質入證券ノ發行ヲ求メ置キ、後ニ至リ之ヲ倉荷證券ニ引換フルコトヲ得ヘキモ、先ツ倉荷證券ヲ求メ置キ、後ニ預證券及質入證券ニ引換フルコトヲ得サル旨ヲ明カニシ（但シ一旦倉荷證券ヲ返付シテ出庫ノ形式ヲ採リ、更ニ二證券ヲ求ムルハ妨ケナシ、隨テ後ノ意味ハ重要視スルニ足ラサルヘシ）其第二項ニ於テ倉荷證券ノ性質ヲ預證券ト同一視シ、其規定ヲ之ニ準用スヘキモノト爲セリ、隨テ之ニ記載スヘキ事項ハ預證券ニ記載スヘキ要件ニ等シク（商法第二百五十九條）倉庫ハ發行ノ際、重ナル事項ヲ其帳簿ニ記入スルノ義務アリ（第三百六十條）證券所持人ハ寄託物ヲ分割シ、各部分ニ對スル倉荷證券ヲ求ムルコトヲ得（第三百六十一條）倉庫ト所持人トノ間ニ於テハ、寄託ニ關スル事項ハ證券ノ定ムル所ニ依リ（第三百六十二條）倉荷證券モ亦當然ノ指圖證券ナルヲ以テ、裏書禁止ノ記載アル場合ノ外、記名式ノ場合ニ於テモ尙ホ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘク（第三百六十四條）又物權證券ナルヲ以テ、之ヲ發行シタル以上ハ、之ニ依ラサレハ寄託貨物ヲ處分スルコトモ、又倉庫ニ對シ出庫ヲ求ムルコトモ爲シ得ス（第三百六十五條、及第三百七十九條）引渡證券ナルヲ以テ、寄託貨物ヲ受取



ルコトヲ得ヘキ者ニ、證券ヲ引渡シタルトキハ、其引渡ハ貨物ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付キ  
(毛戸博士ハ、「權利ノ取得ニ付キ」ハ「權利ヲ以テ第三者ニ對抗スルニ付キ云々」トスヘキモノナリ  
ト云ヘリ) 寄託貨物ノ引渡ト同一ノ效力ヲ生スルカ故ニ(第三百六十五條)例ヘハ質權設定ノ目的  
ヲ以テ、質權者ニ倉庫證券ヲ引渡シタルトキハ、質權者ハ斯クテ設定サレタル質權ニ關シ、第三  
者ニ對抗スルコトヲ得ルナリ。

其他證券滅失ノ場合(第三百六十六條)證券所持人カ寄託物點檢、見本摘出、保存行爲ヲ爲スコト  
ヲ得ルコト(第二百七十五條第一項)證券所持人カ寄託物ヲ受取ラサル場合ノ處分(第三百八十一  
條)倉庫カ證券所持人ニ對シ、貨物ノ滅失又ハ毀損ノ場合ニ負フ責任ノ時効(第三百八十三條)等  
ハ孰レモ預證券ノ規定ヲ適用セラルルモノトス。隨テ二枚證券ノ場合ト同様、記名或ハ指圖式ニ  
限ルモ、所謂選擇持參人式(何某殿又ハ持參人ヘト云ヘル)ニハ爲シ得ルガ如シ。

(三)倉荷證券ノ運用 寄託主カ倉荷證券ヲ求メ置キタル後、全部又ハ一部ヲ出庫セントスルト  
キハ、其割合ニ應スル保管料、立替金其他ノ費用ヲ支拂ヒ、證券ニ指定ノ事項ヲ記入シテ記名調  
印ノ上會社ニ差出スヘク、内出ナルトキハ、會社ハ證券裏面ノ受取欄ニ認印ヲ押捺シテ之ヲ返付  
スルコト、總テ二枚證券ノ場合ニ等シク、又倉荷證券ニ依リテ寄託物ヲ賣却セントスルトキハ、證  
券ノ裏面ノ讓渡欄ニ讓渡ノ年月日、讓渡人ノ記名捺印、及ヒ讓受人ノ記名ヲ爲シ、之ヲ讓受人ニ  
渡セハ可ナリ、即チ此簡單ナル手續ニ依リテ、寄託物ノ所有權ハ、讓受人ニ移リ、寄託物引渡請

三四

求ノ債權モ亦固ヨリ移轉セララル、モノトス。

然レトモ之ヲ質入スルニ當テハ少シク趣ヲ異ニスルモノアリ、普通當業者ノ行フ所ヲ見ルニ、之  
ヲ以テ手形割引ノ擔保物ト爲スニ在リテ、所定ノ約束手形(又ハ爲替手形等ヲ振出シ、之ヲ借主  
ニ引受ケシメタルモノヲ用ユ、印紙少キカユヘナリ)ヲ受取ルト同時ニ、倉荷證券ニ讓渡ノ裏書  
ヲ爲サシメテ之ヲ預リ、別ニ「若シ辨濟セルトキハ、銀行ニ於テ任意ニ貨物ヲ處分スルモ異議ナ  
キ」旨ノ差入證ヲ受取リ置クヲ常トス、即チ從來二枚證券連結ノマ、擔保ニ供セシメタルト同一  
方法ニ依ラシムルモノニシテ、唯異ル所ハ從來ニ比シ記入ノ手數少キト、印紙カ合計拾貳錢ヲ要セ  
シモノ(爲替手形ヲ用ヒタルモノト假定ス)九錢ニテ足ル、コト、爲リタルノ差アルニ過キスト云  
フ。願フニ此ノ方法ハ質受銀行ニ依リテハ最モ安全ノ策ナリト雖モ、質入ノ場合ニ讓渡ノ證書ヲ  
爲サルムルカ如キハ違法ナラサルナキカ、之ヲ違法ナラストスルモ他ニ適當ノ方法之ナキカ、倉  
荷證券ノ裏書ノミニヨリテ質權ヲ設スルコト能サルカ。

此問題ハ從來議論ノ岐ルル所ニシテ嘗テ銀行ハ讓渡ノ裏書ヲ爲セル二枚證券ヲ擔保トシテ差出サ  
シメタルモ、擔保ノ目的ヲ以テ讓渡ノ裏書ヲ爲サシムルカ如キハ虛偽ノ行爲ナリト云フ說アリ、  
判決例(大審院、及大阪控訴院(三十七年六月)モ亦之ヲ認メタルヲ以テ、當業者ハ不安ヲ感シ、更ニ流質ヲ  
約セル前記ノ如キ差入證ヲ添付セシメタルニ至リタルモノトス、然ルニ其後之ヲ有效ナリト爲ス  
說現ハレ、内部ニ於テ擔保ヲ目的トシナカラ、表面所有權移轉ノ意思表示ヲ爲スコト、即チ眞ノ



目的ニ超過スル行為ヲ爲スハ、法律上信託行為ノ一種ニシテ虚偽行為ニアラス、裏書人ハ全ク所有權移轉ノ意思ナキニアラス、若シ「辨濟スルコト能ハサル場合」ニ於テハ、之ヲ移轉スルノ意思アルモノナルヲ以テ、當事者間ニハ質權設定ノ效力ヲ生シ、唯第三者ニ對シテハ所有權移轉ノ效力ヲ生スモノト爲シ、現ニ大審院判決例ノ如キモ、亦此法理ヲ認ムルモノノ如シ。

大審院判決例(大正三年五月一日判決、約束手形金請求ノ件)……手形ノ所持人カ取立委任ノ裏書ヲ爲シタル場合ニ於テ、手形ニ其目的ヲ附記セス、所謂信託的讓渡裏書ヲ爲シタルトキハ、當事者ノ意思ハ被裏書人ノ名ニ於テ、裏書人ノ爲メニ、手形上ノ權利ヲ行使セシムルニ在ルヲ以テ、當事者間ニ於テ取立委任ノ效力ヲ生スルト同時ニ、第三者ニ對スル關係ニ於テハ手形權利移轉ノ效力ヲ生シ、被裏書人カ手形上ノ權利者ト爲リ、裏書人ハ第三者ニ對シテ、其權利ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス。

此法理ヲ正當ナリトシ、扱其結果ヲ考フルニ、讓渡證書ヲ爲セル倉荷證券(又ハ預質證券)ヲ擔保トシ、其引渡ヲ受ケタル銀行ハ、直ニ質權ヲ取得シ、前述ノ如ク之ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ルト同時ニ、辨濟期ニ元利金ノ支拂ヲ受ケサルトキハ、寄託物ノ所有權ヲ取得スルコトト爲ルカユエニ、流質ヲ約セル場合ト異ナラサルニ至ル。銀行カ最初ヨリ讓渡證書ヲ爲サシムル其目的ハ、畢竟此點ニ在リテ、豫メ證書セシムルハ其期限ニ臨ミ、特ニ裏書ヲ爲サシムルノ煩ヲ避ケンカ爲ナリ。唯流質ヲ約セル場合ト異ル點ハ、流質ノ場合ニハ、期限ニ至リ辨濟セサルマテハ、銀行單ニ質權者タルニ止ルモ、前記ノ如ク讓渡證書ヲ爲シ置クトキハ、期限前何時ニテモ、第三者ニ對シテ有效ニ之ヲ讓渡シ、質入人ハ斯ク讓受ケタル第三者ニ對シテハ、其權利ヲ主張スルコトヲ得

ス、又銀行ハ讓受ヲ爲ササルモ、第三者ニ對シテハ常ニ所有權ヲ以テ對抗スルコトヲ得ルノ差アリ、是レ銀行者ニ取リテハ最モ安全ナル方法ニシテ、法理上ニ於テハ手形ト此證券ノ外、別ニ差入證ヲ要求シ置クノ必要之ナキモノトス。

此方法ヲ難スル者アリ、曰ク、「質權ヲ設定セントシテ所有權ヲ交付スルハ、謂レナキ權利ノ拋棄ニシテ、若シ債權者ニ惡意アランカ、裏書交付ヲ受ケタル證券ヲ他ニ運用シテ、其所有權ヲ行使スルモ、以テ如何トモスヘカラス、強テ是等ノ不利益ヲ豫防セント欲セハ、一々債權者ヨリ證書ヲ取り置クノ必要アルヘキモ、債權者若シ之ヲ出スヲ肯ンセサルトキハ、其不便少カラサルヘシ……此ノ如キハ一ニ債權者萬能ノ餘波ト云フノ外ナク、縱令其結果ニ於テ、日常サシタル支障ヲ生セストスルモ、債務者一般ノ權利、延テハ日本商人ノ人格ヲ尊重スル上ニ於テ、餘リニ屈辱的態度ニ非ラサルカヲ疑フモノナリ。又曰ク「倉荷證券ノ質入裏書ニ就テハ商法ニ何等ノ規定ナキヲ以テ、民法上ノ一般指圖債權質入ノ規定ニ從ヒ、證券面ニ質入ノ裏書ヲ爲スヘシ、斯クスルトキハ質權者ハ有效ニ貨物上ノ質權ヲ取得シ、債務者ハ質權ヲ設定スルノミニテ、目的以上ノ負擔ヲ免ルヘシ云々」ト。

吉田氏モ亦嘗テ大阪銀行通信錄(第百六十八號、明治四十四年九月)ニ於テ「倉荷證券モ一種ノ指圖證券ナルカ故ニ、民法第三百六十六條ニ依リ、倉荷證券ニ質入裏書ヲ爲シ、質權設定ヲ爲シ得ルモノト解セサルヲ得ス、此裏書ヲ爲シタルトキハ、動産質權ヲ得ルト同時ニ、權利質モ設定セ



ラル、モノト信ス、否倉荷證券ノ質入裏書ハ倉荷證券正面ノ使用ナリ、即チ質權設定方法ニシテ、見返品ト爲スコトハ寧ロ變法ト云ハサルヲ得ス、商法ニ於テ倉荷證券ニ對スル質權設定方法ヲ規定セサリシモノハ、船荷證券又ハ貨物引換證ト同シク、一般ノ原則ニ委ネ、當然質入裏書ヲ以テスルモノト認メラレタルモノナルヘシ、此解釋ヲ誤ナク、質入裏書ヲ爲シ得ルモノトスレハ、約束手形又ハ差入證等授受ノ要ナク、印紙ノ如キモ僅ニ參錢ニテ足り、債務者及銀行共ニ非常ノ便利ヲ得ルコトナラン、知ラス倉庫業者ハ如何ナル確信アリテ、倉庫證券ノ裏面ニ質入裏書ノ欄ヲ設ケサリシヤ云々

是等ノ說ハ一應理由アルコトニテ、現在ノ慣習カ、債權者ニノミ安全ニシテ、債務者ニ薄ク、又手數モ費用モ多キ缺點アルハ事實ナレトモ、斯ル缺點アルカユエニ現行商法ヲ改メテ「倉庫證券ヲ質入シタルトキハ、質入證券ノ規定ヲ準用ス」トスヘシト云ヘル說ノ可否ナレハ兎ニ角、現行法カ多少ノ缺點アルニモセヨ、此マ、ニテ、倉庫證券ノミニ依リ、完全ニ質入スルコトヲ得ルヤ否ヤ、先ツ此問題ヲ解決シテ、然ル後始メテ現在慣習トノ優劣ヲ比較スルコトヲ得ヘキ筈ナリ、乞フ少シク之ヲ論セン。

凡ソ質入證券ヲ質入スルニ當リテハ、之ニ債權額、利子及辨濟期ヲ記入シテ、之ヲ質受銀行ニ交付セハ足レリ(第三者ニ對抗スルニハ預證券ニモ記載スルコト云フマテモナシ)、又此手續ニ依ラサレハ質權ヲ設定スルコト能ハサルハ法ノ明定スル所ナリ。然レトモ倉庫證券ニハ此規定ヲ準用スルノ法文之ナキヲ以テ、宛モ貨物引換證若クハ船荷證券ヲ質入スル場合ノ如ク、單ニ質入ノ目的ヲ以テ銀行ニ引渡セハ足り、何等裏書等ノ手續ヲ要スルコト之ナキ筈ナリ、是レ商法三百六十五條ニ依リ、第三百三十五條ノ規定カ適用セラル、結果ニシテ、即チ寄託貨物其モノヲ質入シタルト同一視スルモノナリ、隨テ質入證券ニ依ル質權、及ヒ之ト分離セル預證券ニ依ル質權ニ關シテハ論議ノ餘地ナキニアラサレトモ(後章法律論參照)、此質權ノ動産質タルヤ疑フヘカラサルナリ。然ルニ銀行カ讓渡ノ裏書ヲ爲サシムル所以ノモノハ、元來流質ヲ約セシメンカ爲メニシテ、其上差入證ヲ徵シ、之ニモ流質ヲ明カニスルハ、嘗テハ擔保差入ノ爲メノ讓渡裏書ハ無効ナリトセラレタルカ爲メニ外ナラス。

倉庫證券ハ物權證券ナリト同時ニ債權證券ナルヲ以テ、前述ノ如ク單ニ證券ノ引渡ノミニ依リテ質權ヲ設定シタル場合ニ於テモ、動産質權ヲ設定スルト同時ニ、債權質(即チ權利質)ヲモ設定スルコト、爲ルヤ、倉庫證券ハ指圖證券ニシテ、貨物ノ引渡ヲ求ムル指圖債權ヲ表ハスモノナルヲ以テ、民法第三百六十六條ニ從ヒ、其ノ證書ニ質權ノ設定ヲ裏書セサレハ、債權ノ質入トハ爲ラサルベシ。

民法第三百六十六條 指圖債權ヲ以テ質權ノ目的トシタルトキハ其證書ニ質權ノ設定ヲ裏書スルニアラサレハ、之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス。

倉庫證券ヲ讓渡ストキハ、貨物ニ伴フ物權及債權ハ、當然讓受人ニ歸屬スルモノナレハ、此趣旨



ヨリ考フルトキハ、商法立法ノ精神ハ、動産質權設定ト同時ニ債權質モ亦設定セラレ、ノ特例ヲ開キタルモノト見做スモ強チ不當ニアラス、然レトモ民法ノ規定ニ從ヒ、證券ニ質入裏書ヲ要スルモノト見做スモ、這ハ指名債權即チ權利質ニ關スル要件、而モ、之ヲ第三者ニ對抗セシムル要件ニ過スシテ、其設定ハ(一)質入契約ヲ結フコト(二)證券ニ讓渡ノ裏書ヲ爲スコト(三)其證券ヲ交付スルコトノ三要件ヲ以テ足レリトス、假ニ第三者ニ對抗シ得サル質權ハ薄弱ナリトシテ、之ヲ第三者ニ對抗セシムル爲メ、質入裏書ヲ要スルモノトスルモ、斯クシタルモノハ權利質ニシテ、銀行ハ主タル債權カ辨濟セラレサル場合ニ、此債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得ルニ過キス、若シ金錢上ノ債權カ質權ノ目的ナルトキハ、取立ノ結果其金錢ハ直ニ銀行ノ所有ニ歸スト雖モ、金錢以外ノ物ヲ目的トスルトキハ、取立ニ依テ得タル物ノ上ニ質權ヲ成立セシムルカユエニ、取立手續ヲ履行シタル後、始メテ動産質ニ變スルモノトス、質受銀行ノ目的トスル所ハ動産質ニ在ルモノナルニ、斯ノ如ク迂廻シテ始メテ動産質ト爲ル權利質ノ如キハ、之ヲ設定スル蓋シ其本意ニアラサルヘシ。

若シ商法及民法ヲ解シ、證券ニ質入裏書ヲ爲シテ差入レタル權利質設定行爲(及第三者對抗條件)カ、當然動産質ヲモ設定スルモノトスルモ(論者或ハ斯ク見タルカ、若クハ權利質ト動産質トヲ混同シタルニハラサルカ)故ラニ權利質ヲ設定スル行爲ニ依リテ動産質ヲ設定スル必要ナク、單ニ證券ヲ交付シテ直ニ動産質權ヲ設定スレハ可ナルノミナラス、倉庫證券ニ依リ權利質ヲ設定ス

ルモ、當然動産質ニ及フモノナルヤ否ヤハ問題ニシテ、讓渡ノ場合ニ讓渡ノ裏書カ債權ノ讓渡ト爲ルハ、法ノ規定ヨリ推論スルヲ得ルモ、質權ノ場合ハ之ト趣ヲ異ニスル所ナキ能ハサル也。要之倉庫證券ニ裏書スル質入ノ直接ノ結果ハ、權利質ヲ生スルニ在リ、一方ニ於テ動産質ハ單ニ證券ノ引渡ノミニ依リテ之ヲ爲スコト得ルヲ以テ、若シ當事者ノ意思カ動産質ト權利質トヲ併セ成立セシムルニ在リテ、證券ニ裏書シ、交付スルトキハ、兩種ノ質權カ成立スルモノナルヤ明カナルモ、既ニ引渡ノミニ依リテ動産質權カ成立スル以上ハ、何ヲ若シテ債權質ヲモ併セ成立セシムルノ必要アルヤ、殊ニ債權質ナルモノハ元來條件附債權ノ讓渡ナルヲ以テ、證券ニ質入ノ旨ヲ裏書スルト同時ニ、債權讓渡ノ裏書ヲモ爲シ置クノ要アリ。サレハコソ第三者ニ對抗セシムル爲メ、特ニ質權ノ設定ヲ裏書セシメ、之ヲ制限スル所以ナレトモ、孰レニセヨ論者ノ快シトセサル讓渡ノ裏書(設定行爲ニハ之ノミテ可ナリ)ヲ要スルモノナルヲ知ラスヤ。然リ而シテ證券ノ引渡ニ依リテ動産質權ヲ設定スルノミナルトキハ、辨濟期ニ至リ辨濟ナキ場合ニハ質人人ハ證券ナキ爲メ、固ヨリ出庫スルコト能ハサルモ、銀行モ亦讓渡ノ裏書ナキ證券ヲ所持スルノミニテ、之ヲ倉庫ニ呈示シ、出庫ヲ求ムルコト能ハサルヘク、擔保ノ利益ヲ減殺スル所以ナルハ、此點ニ於テモ債權質ヲ設定シ置クノ必要アルヘシト云ハンカナレトモ、新ル場合アレハコソ、豫メ讓渡ノ裏書ヲ爲サシメ置クモノニテ、假リニ豫メ讓渡ノ裏書ヲ爲シ置クヲ危險ナリトセハ、其ノ期ニ至リ之ヲ爲サシムルヲ妨ケサルナリ、假リニ債權質ヲモ設定シ置クヲ便ナリトスルモ、主タル債權ノ



辨濟ナキ場合ニ質債權ヲ取立テタル結果ハ、亦寄託物ノ上ニ動産質權ヲ有スルノミニ止リ、更ニ讓渡(所有權)ノ裏書ヲ爲サシムルノ要アルコト、單純ナル動産質ノ場合ト異ナラサルニ至ル、即チ無用ノ質權設定ニ終ルベキナリ。

顧フニ現行法ノ下ニ於テハ、實際慣習ノ如ク、豫メ讓渡裏書ヲ爲シ、之ヲ差入レシムルハ、銀業者ヨリ見テ已ムヲ得サル處置ナルヘク、唯之カ爲メ幾分債務者ニ不安ヲ與フルコト、爲ルヲ以テ、此矛盾ヲ避ケンニハ、現行法ヲ改正シテ質入證券ノ規定ヲモ準用スルカ、何等カノ工夫ヲ爲サ、ルヘカラス、尙ホ論者ハ銀行ヨリ返リ證ヲ受取り置クトキハ債務者ノ不安ヲ除クコトヲ得ルカ如ク考フルモ、這ハ唯當事者、即チ銀行ト債務者トノ關係ノミニ止ルヲ以テ、此ノ如キ證書アレハトテ、銀行ニ惡意アリテ、證券ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ防キ得ルモノニアラス、唯銀行ニ要償スル場合ノ立證ニ幾分便ナルノミナリトス。又論者ハ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ差入ル、ヲ以テ、銀行ハ專横ナリ、債務者ハ卑屈ナリト云フモ、債務者カ多少ノ弱味ヲ有スルハ固ヨリ當然ニテ、從來内外共ニ盛ンニ用ヒ來レル禁流通證券ノ如キモ、之ヲ銀行名義ニテ發行セシメ、當事者間ニハ擔保差入ノ契約アルモ、寄託物ヲ銀行ノ任意ト爲セル點ニ於テハ前述ノ方法ト異ルナク、外國ニテモ、佛、伊、米各國之ニ依リ、次節ニ述フルカ如ク、米國倉庫協會(千九百三年、十二月、華盛頓ニ於ケル)ニ於テ當業者ノ一人ナル「ゴッドレイ」氏ノ如キハ、盛ンニ此方法ヲ鼓吹シツ、アルニアラスヤ、是ヲ以テ余ハ債權銀行カ、幾分勝手ニ過クルヲ認ムルト同時ニ、某氏ノ如ク「日

本商人ノ人格」ナトニ關スル問題ニハアラサルヲ信スルモノ也。

(質入後ノ内出) 倉庫證券ヲ質入シタル場合ニ於テ、寄託物ノ一部ヲ出庫センニハ如何ナル手續ニ依ルヘキヤ、商法第三百八十三條ノ三ハ之ヲ規定シ

商法第三百八十三條ノ三 倉庫證券ヲ以テ質權ノ目的トシタル場合ニ於テ、質權者ノ承諾アルトキハ、寄託者ハ債權ノ辨濟期前ト雖モ、寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得、此場合ニ於テ倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質及ヒ數量ヲ倉庫證券ニ記載シ、且少其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

ト爲セリ、從テ、債權ノ期限前一部ヲ出庫セント欲セハ、質權者即チ銀行ニ其割合ノ金額ヲ辨濟シ其承諾書(倒ヘハ貨物内渡請求書)ヲ求メ、之ヲ倉庫ニ提出セサルヘカラス、辨濟ハ此場合法規上ノ要件ニハアラサレトモ、事實上ノ要件ニシテ、辨濟セサレハ承諾セサル筈ナレハナリ、而シテ預證券ノ場合ノ供託ニ依ル一部出庫ノ如ク、同種類同品質ノモノナルコト、金額カ數量ニ比例スヘキコトナトノ制限ハ、固ヨリ之ナキヲ以テ、寄託貨物ノ如何ニ拘ラス、苟モ銀行ノ容認スルタケノ金額ヲ支拂ヘハ可ナルノ理ナリ、然レトモ實際ニ於テハ亦營業規則等ニ於テ、預證券ノ場合ノ取扱ニ準スルモノ多キカ如シ。

倉庫證券質入後、辨濟ニ依リテ内出ヲ求ムルコトヲ得ルハ、前述ノ如クナレトモ、預證券ノ場合ノ如ク、債權額ノ一部及其辨濟期限マテノ利息ヲ倉庫ニ供託シテ、之ヲ求ムルコトヲ得ルヤ、此點ニ付テハ消極、積極、兩說ニ岐ル、所ナルカ、凡ソ供託ハ辨濟期前、債務ノ一部(又ハ全部)ヲ免レシムル、變則ノ取扱ナルヲ以テ、法ニ明文アリテ始メテ、之ヲ行フヲ得ヘキモノナルニ、法



ハ倉庫證券ニ付テ之ヲ規定セス、又預證券ノ規定ハ之ヲ準用スルモノニ、其一部供説ヲ許スハ、質入證券利用後ノ預證券所持人ニ關スルモノニテ、倉庫證券質入後、何等ノ證券ヲモ有セサル、其所持人ニ適用スヘクモアラサレハナリ。然ラハ銀行カ豫メ倉庫ト特約ヲ結ビ「債務者カ割合ニ應スル元利金ヲ持參セハ、一部出庫ヲ許サレタシ」ト爲シ置カハ如何ト云フニ、此場合ニ於テモ倉庫ハ果シテ何人カ債務者ナルカ之ヲ知ルニ由ナキ筈ナレトモ、假リニ債務者ヲ知ルヲ得タルトスルモ、斯クテ出庫セシムルハ、亦倉庫カ銀行ニ代リ其辨濟ヲ受クルモノニテ、銀行ハ總括的承諾ヲ與ヘタルモノト謂フヘク、決シテ一部ノ供託ニハアラサルナリ。

又法ハ寄託部ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ト爲セトモ、一部ノ返還ヲ請求シ得ルハ、即チ全部ノ返還ヲ請求シ得ル所以ナレハ（其反對ニ全部ヲ許スモ、之ヨリ一部ヲ許ストハ推定シ難シ）徒ニ文字ニ拘泥シテ一部ニ限ルカ如ク考フルハ、大ナル誤解ナリト知ルヘシ。蓋シ百俵ノ中九十九俵ヲ出庫シ得テ、残りノ一俵ヲ出庫シ得サルノ理ナク、又始メ五十俵ヲ出庫シ得ハ、残りノ五十俵ノ出庫モ亦一部出庫ナラサルヘカラサレハナリ。

又債權ノ一部辨濟ニ依リ、倉庫カ一部出庫ヲ行ヒタル場合ニ、其債務者カ支拂停止ヲ爲シ、其辨濟カ舊商法第九百九十條ニ所謂「支拂停止前三十日以内ニ破産者カ爲シタル期限ニ至ラサル債務ノ支拂」ト爲ルモノナルトキハ、其辨濟ハ無効ト爲リ、既ニ渡シタル貨物ハ之ヲ取戻スコト能ハサルニ至ルヘク、斯クテハ倉庫證券ノ流通ニモ影響スヘシト云フ者アレトモ、此場合ハ債權者ニ

モ債務者ノ資力ヲ誤認シタルノ過失アリ、又此ノ如キ例ハ稀ナルヘケレハ、其弊ハ蓋シ些少ナルヘシト信ス。

**(流質ノ契約)** 質入證券ニ依リテハ、流質ヲ契約スルコト能ハサレトモ（後ニ詳ナリ）倉庫證券ニ依リテ流質ヲ契約シ得ルカト云フニ、讓渡ノ讓書ニ依リテ手形割引ノ擔保トシテ質入シタル場合ト、又一派ノ論者ノ如ク此證券ノミニ裏書ニ依リテ質入シタル場合トヲ問ハス、質入證券ニ依ル質入ノ如キ特別ノモノニアラサルヲ以テ、流質ヲ約スルモ亦有效ナラサルヘカラス。然レトモ前者ノ場合ニハ讓渡ノ裏書アルヲ以テ此必要ナカルヘキモ、後者ノ場合ハ債權質ニシテ、辨濟ナキ場合ハ單ニ其債權ヲ取立テ得ルニ過キサレハ、此必要之アルヘキナリ。又後ノ場合ハ債權質カ成立ツト同時ニ動産質カ成立ツ場合ナリトスレハ如何ト云フニ、此場合ニ於テモ亦流質ヲ約束シ置カサレハ、直ニ貨物處分ノ效力ヲ生セシムルニ由ナカルヘシト信ス。

**(四)倉庫證券ノ形式** 明治四十四年四月京都ニ於テ第五回日本倉庫聯合會ノ開催セラレ、ヤ、倉庫證券ノ約款、及ヒ倉庫證券ノ様式ヲ一定スルノ必要アリトシ、調査委員ヲ舉ケ、委員ハ起草委員ニ附託シ、其研究ノ餘決定セラレタルモノアリ、コ、ニ挿入セル倉庫證券ノ雛形ハ、三菱倉庫株式會社カ之レニ依リ、定メタルモノニシテ、其約條ハ嘗テ示セル預質證券ノソレト稍異ル所アルヲ以テ（預質證券ノ分モ其後改正セラレタルヘシ）次ニ改正ノ趣旨ヲ説明スヘシ。（原案ハ東京側ノ委員カ立案シ、各地委員ノ案ヲ綜合シ、高根博士ニ其研究ヲ委囑シ、大阪側ノ修正意見ヲモ



寄託主 松田虎吉殿

子第128號

一 米利堅粉 壹百袋

記號 荷造 袋入

記號	KY
荷造	袋入
數量	五千封度
封度	五拾封度
入庫日	大正十年八月十日
期限	大正十年九月三十日
保管場所	深川區一色町
保管料	壹袋壹ヶ月付壹錢

### 倉 荷

一、本證券所持人ハ左ノ條項ヲ約諾セルモノトス  
 二、若クハ鼠疫、荷造ノ不完全、又ハ抗拒スベ  
 三、カクハ鼠疫、荷造ノ不完全、又ハ抗拒スベ  
 四、本證券所持人ハ左ノ條項ヲ約諾セルモノトス  
 五、若クハ鼠疫、荷造ノ不完全、又ハ抗拒スベ  
 六、カクハ鼠疫、荷造ノ不完全、又ハ抗拒スベ  
 七、本證券所持人ハ左ノ條項ヲ約諾セルモノトス  
 八、若クハ鼠疫、荷造ノ不完全、又ハ抗拒スベ  
 九、カクハ鼠疫、荷造ノ不完全、又ハ抗拒スベ

### 證 券

五、受寄物ニ對シテ火災保險ハ當會社ト保險  
 六、者トシテ特約ニ依ルモノトス  
 七、チ申受ケ向ホトキハ滿期後ハ期間更新ノ手續  
 八、受寄物ノ規定ニ從ヒ處分スルコトアルベシ  
 九、裁會社ニ於テ本證券所持人ノ負擔トス

前記ノ貨物券面ノ約條ニ從ヒ正ニ預リ候寄託主又ハ其指圖人へ本證券引換ニ可相渡候也

東京市深川區小松町七番地

三菱倉庫株式會社

支配人

何 某 印

大正十年八月十日



欄					取				
大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

受			欄 渡 讓				
大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日
年	年	年	年	年	年	年	年

當會社  
認印

讓受人氏名

讓渡人氏名印

受取個數

殘餘個數

受取人氏名印



加へテ決定シタルモノナリ)

第一項 ハ倉庫カ損害賠償ノ責ヲ負ハサル場合ヲ示シタルモノニシテ舊約條(前掲預證券及質入證券ヲ見ヨ)ニ於テハ「天災事變其他抗拒スヘカラサル云々」トアリシヲ「天災地變」ハ當然「抗拒スヘカラサル災厄」中ニ含マルヘキモノトシテ、之ヲ省ケリ。

(「保管上特別ノ注意ヲ要スル貨物ニ付テハ、特ニ其申出ナケレハ、倉庫ハ其特別ノ注意ヲナサ、リシ爲メニ生シタル損害ニ付テハ責任ヲ負ハス」ト云ヘル約條ヲ挿入スヘシトノ說アリシモ、這ハ券面ノ約條ニ挿入スルヲ要セス、營業規則中ニ掲クルヲ以テ足レリト爲セリ。

第二項 モ亦免責約條ノ一ナルモ、這ハ火災ニ因ル損害ニシテ、同約條一ノ二ヲ改メタルモノナリ、即チ火災ニ因リテ受寄物ニ損害ヲ生シタル場合ニ

(イ) 保險者ニ填補ノ責アルトキ

(ロ) 寄託者ノ希望ニ依リ、火災保險ヲ附セサリシトキ

(ハ) 倉庫會社ニ重大ナル過失ナキトキ

ハ損害賠償ノ責ヲ負ハサルノ意ニテ、(イ)ノ場合ニ責ヲ負ハサルコト、重過失又ハ惡意アルトキハ責ヲ負フコトハ當然ナルモ、(ロ)ヲ挿入セルハ、大阪側ノ意見ニ依リ、斯クシテ輕過失ニ因ル損害ヲ負擔セサルヲ示スト同時ニ、其損害ニ對シ責ヲ免ル、モノトス」ヲ原案カ、違法ノ如ク見ユルヲ防カントスルニ在リ

第三項 ハ舉證ノ責任ヲ寄託者ニ移シタルモノニシテ、元來倉庫ハ、損害カ自ラ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシ爲メニアラサルコトヲ證明スヘキモノナレトモ、這ハ特約ヲ以テ、之ヲ寄託者ニ負ハシムルモ妨ケナシト云フニ在リ。

第四項 ハ賠償金額ヲ約束セルモノニテ、損害額ノ算出ハ時價ニ依ルコト、並ニ其限度ヲ明カニシタルモノナリ、即チ民法第四百二十條ニ依リ、賠償金額ヲ豫定セルモノニテ、舊約條ノ二ヲ敷延シタルモノナリ。

民法第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ、損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得、此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得ス。

第五項 ハ保險契約ニ關スルモノニシテ、通常ノ場合、倉庫ハ保險契約者ト爲リ、寄託者ヲ被保險者トシ、受寄物ニ對シテハ總テ保險ニ附スルヲ原則トシ、若シ之ヲ附スルコトヲ欲セサル者アルトキハ、寄託申込書ニ其旨ヲ附記セシメテ、後日ノ證左トシ、尙ホ保險ニ關スル事項ハ倉庫ト保險者ノ間ノ特約ニ依ルコトヲ規定シ、一方保險會社トノ特約書ニハ、特ニ寄託者ノ委任ニ依ラサル旨ヲ記載スルモ、火災保險ノ金額、會社名等ハ別欄ニアルヲ以テ、是等ハ營業規則ニ掲クレハ足り、單ニ第五項ノ如ク定ムレハ可ナリト云フニ在リ。

又舊約條四ニハ「受寄物損敗云々」ノコトアルモ、是亦營業ノ規則ニ記載セハ足レリト爲セリ、又舊約條三ノ如キモ當然ノコトニシテ、貨物一個ノ保險金額モ明カナルコトナレハ、是亦營



業規則ニ記載スヘシトナリ。

第六項 満期後ノ保管料ハ損害賠償ノ性質ヲ有スルヲ以テ「満期後ハ保管料ノ二倍ニ相當スル損害賠償ヲ請求ス」トスル方適當ナランモ、暫ク在來ノ慣例ニ從フ。

第七項 ハ説明スルマテモナシ。

第八項 催告ハ本人ニ對シテ直接ニ爲スヲ原則トシ、且ツ斯クスル方、便ナレトモ、本人ノ知レサル場合ナトニハ、新聞紙ニ廣告シテ之ヲ爲スコトヲ得ト、特約シ置クコト必要ナルヲ以テ、斯ク爲シタルモノトス。

受取人ノ式 原案ハ選擇持參人式ヲ採用シタルモ、這ハ倉庫證券ノ從來ノ慣例ニ反スル急激ノ變化ニシテ、且ツ寄託者ニ於テ紛失、盜難等ノ場合ニ危険ナリトシテ、之ヲ從來ノ如キ指圖式ニ改メタリ。

裏面 挿入雛形ニハ裏面ニ「受取人氏名印」ナル欄アルモ、標準雛形ハ大阪側ノ修正意見ニ依リ之ヲ省ケリ、其理由ハ、貨物出庫ノ場合ニ、一々證券所持人ノ記名捺印ヲ求ムル事ハ、倉庫ノ手數少カラス、且若シ倉庫ニ於テ其記名捺印ナキニ保管貨物ヲ渡シ、又ハ偽造ノ記名捺印ヲ得テ渡スカ如キ事アラハ、損害ヲ蒙ルノ虞アルヲ以テ、之ヲ抹消スルニ如カスト云フニ在リ。

(注意) 挿入雛形カ標準雛形ト異ル所ハ、後者ノ裏面ニハ「受取人氏名印」ノ欄ナキニ、前者ニハ之アルト、後者ニ「出庫欄」又ハ「出庫個數」トアルヲ、前者ニハ「受取欄」又ハ「受取個數」ト

アルノ點ノミニテ、其他ハ全ク同シ。元來此標準ハ大體ヲ示ス趣旨ニテ、細目ハ各會社ノ營業規則ニ掲ケ、又證券約條ノ如キモ、些細ノ點ハ規定約條ニ反セサル限り、任意之ヲ定ムルモ可ナリト云フニ在リ、四十四年十月一日ヨリ發行スルコト、爲シタルモノナリ。

### 第五節 禁流通預證券

(一)性質及運用 倉庫會社ハ貨物ヲ預ケ入レタル場合ニ、倉庫證券即チ預證券及質入證券ノ交付ヲ求メス、單ニ禁流通貨物預證券ヲ受取ルコト少カラスト云ヘリ、此證券ハ果シテ如何ナル目的ト、如何ナル性質トヲ有スルカ。

禁流通貨物預證券ト云フハ、三菱倉庫株式會社及中央倉庫ニシテ、進澤倉庫ハ別設貨物預證券、商業倉庫ハ禁流通物品預證券、三井銀行箱崎倉庫ハ禁流通預證券、大阪住友倉庫ハ禁流通貨物保管證書ト云フ(卷末ノ見本、三菱倉庫ノ分ハ英文ナク、裏面ニ内受取ノ欄ヲ設ケ)

流通ヲ禁セル預證券ハ、單ニ貨物ノ保管ヲ證明セル書類ニ過キス、我商法ノ所謂預證券ニアラサルカユエニ、物權的效力ヲ有スルモノニアラスシテ、預ケ主カ唯倉庫ニ保管ヲ託シアル、證左トシテ受取り置クニ止マルモノトス、然ルニ我商法ノ規定セル二枚證券制度ニハ、嘗テ述ヘタル如ク、拒絕證書、競賣條件ノ如キ、面倒ナル手續アルヲ以テ、從來三井倉庫ト三井銀行、三菱倉庫ト三菱銀行ノ如キ間ニ於テハ、倉庫證券ニ對シテ金融ヲ爲スヨリモ、寧ロ此種ノ證券ニ對シテ貸



付クルヲ好ムノ風アリ、是レ先ツ特約證ニ依リ貨物ヲ銀行ニ差入レ、更ニ銀行ノ名義ヲ以テ倉庫ヨリ此保管證券ヲ受取り置クトキハ、銀行ハ極メテ安全、且ツ取立ニ際シ萬一貨物ヲ處分スルカ如キトキハ、拒絕證書トカ競賣トカ云ヘル如キ面倒ナク、便利少カラサレハナリ、加フルニ質入後ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ、保管證券ハ他人ニ讓渡スコト能ハサルモノナルヲ以テ、直ニ銀行ニ相當ノ差金ヲ爲シ、貨物内渡請求書(出庫指圖書)ヲ乞ヒ受ケ、倉庫ニ持參シテ、貨物ヲ受取り、別ニ問題ヲ生セサルノ利アリ(質入證券ヲ質受シ、預證券ヲ借主ニ渡ストキハ、借主ハ預證券ヲ讓渡スト同時ニ、債務者タル資格ヲ讓受人ニ移スコト、爲ルモ、此場合ニハ銀行ト預ケ主即チ借主トノ間ニハ、單ニ物ノ信用ノミナラス、人ノ信用モアル故)然レトモ、保管證券ヲ預ケ主名義ト爲シ、之ヲ擔保ニ取ルモ、此證券ハ物權的效力ナク、單ニ證明ノ具ニ過キササルヲ以テ、銀行ハ之ニテハ不安全ノ場合ナキヲ保セス、又銀行ノ物トシテ銀行名義ノ預證ト爲スハ、預ケ主ノ不面目、危險少カラサルカユエニ、此便宜手段モ、缺點ナキニアラス、要ハ倉庫證券ノ實質ヲ改ムルニ在ルヘシ。即チ改正法カ倉庫證券ノ規定ヲ加ヘタル所以ナレトモ、之ニ質入證券ノ規定ヲ準用セサルカユエニ、多少ノ不便アルコト、前節ニ述ヘタルカ如シ。

(二)特別ノ便益 禁流通證券ハ前述ノ如ク、貨物所有者即チ借主ニ對シ對人信用ヲ保持スルコト、貨物ヲ處分シテ貸金ニ充當スル手續ノ簡易ナルコト等ノ便益アル外、質入後一部出庫ノ場合ニ於テモ、亦倉荷證券ヲ使用シタル場合ニ比シテハ固ヨリ、二證券ヲ其マ、質入シ、或ハ倉庫證

券ヲ用ユルニ比シテ、稍利益ナル點アリ、何トナレハ(一)質入シタル場合ニハ、一部供託ヲ手續ニ依ルモ尙ホ預證券ヲ倉庫ニ持參シ、其都度之ニ記入セシムルノ便アリ又(二)二證券連結ノマ、若クハ倉荷證券ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ質入シ置クトキハ、前述ノ如ク相當ノ元利金ヲ銀行ニ支拂ヒ、其出庫指圖書(貨物内渡請求書)ヲ求メ、之ニ依リ出庫ヲ求メ得ルコト、禁流通證券ノ場合ノ如クナレトモ、這ハ銀行カ便宜策トシテ取扱フモノニテ、此場合ニ於テモ亦内出ノ數量ヲ證券面ニ記載スヘキ筈ナレハ、其不便ハ(一)ノ場合ト異ルコトナシ、然ルニ禁流通證券ハ銀行名義ノ普通ノ保管證ニテ、倉庫ハ其銀行ノ爲メニ代理占有ヲ爲スモノナレハ(寄託者ハ現物ヲ銀行ニ質入シ、銀行ハ倉庫ニ寄託シテ、之ニ其代理占有ヲ爲サシムルモノナリ)銀行發行ノ内渡請求書ノミニ依リテ、貨物ヲ引渡スモ間然スル所ナク、實際ニ於テハ寄託者ハ此請求書ヲ用ヒテ入庫貨物ヲ賣却シ得ルノ便アリ。

又質入證券ニ質入裏書ヲ爲サシメタル場合ハ固ヨリ、二枚證券若クハ倉庫證券ニ讓渡裏書ヲ爲サシメテ受取り置クモ、倉庫ノ帳簿ハ依然寄託者、即チ借主ノ名義ナルヲ以テ、若シ借主カ強制執行ヲ受クル場合アラハ、倉庫ニ依リテハ其差押ヲ拒ムコト能ハスト考フル者之ナキヲ保セサルヘキモ、禁流通證券ノ場合ニハ、銀行名義ノ寄託物ナルヲ以テ、倉庫ハ之ヲ避クルヲ得ヘシ、是レ米國ナトニテ、禁流通證券及銀行名義ノ倉荷證券ト爲ス方法ヲ勸ムル者アル所以ノ一ナリ。禁流通證券ハ質入ノ場合ニ便アルノミナラス、其他ノ場合ニ於テモ亦便ナルコトアリ、例ヘ



ハ本店ノ名ニ於テ某商品ヲ寄託シ、漸次市内各所ノ支店ノ必要ニ應シテ、入用ノ都度出庫指圖書ヲ用ヒ出庫セシムル場合ノ如シ。

禁流通證券ニハ上述ノ如キ種々ノ便益アルヲ以テ、我國ニテハ舊制度以來廣ク之ヲ用ヒ、倉荷證券ノ創定後ト雖モ之ヲ用ユル者少カラス、外國ニテモ、佛蘭西、伊太利ノ如キハ熾シニ此方法及ニ枚證券連結ノマ、ノ質入法ヲ使用シ、米國ニテモ近年之ヲ歡迎スル傾アルモノ、如シ(禁流通預證券ノ佛語、Récépissé non transmissible「禁流通預證券」又、Récépissé de dépôt「保管證書」又英語、Nonnegotiable receipt「禁流通預證券」ナリ)

千九百三年十二月上旬、米國「ワシントン」ニ於テ開催サレタル、米國倉庫業者協會(The American Warehousemen's Association)ノ例會ニ於テ、會員 Philip Godly 氏カ提出シタル「商業倉庫證券ノ運用及危險」ト題スル論文(始メ銀行員ニ對シ演說セシモノ)中ニハ、禁流通預證券若クハ銀行名義ノ預證券(我邦ノ倉庫證券ニ當ル)ノ便益ヲ説キ、其一ハ銀行名義ナルヲ以テ安全ナルコト、他ハ一部出庫ノ場合ニ出庫指圖書ノミニテ足ルニ在リト爲セリ。

### 第六節 倉庫ノ賃貸及出保管

茲ニ倉庫ノ賃貸トハ、所謂貸庫ノ謂ヒニシテ、倉庫業者ハ貨物ノ保管ニ差岡ナキ限リ、荷主ノ依頼ニ應シ、倉庫ノ一部ヲ區劃シ、相當ノ料金を申受ケテ之ヲ使用セシムルコトアリ、此場合ニハ普通一定ノ賃貸期間ヲ定メ、入庫貨物ノ種類ヲ限定シ、規定ノ賃借證書ヲ差出サシメ、其鎖鑰ヲ借主ニ渡シ、借主ハ營業時間内ハ何時ニテモ約束中ノ貨物ヲ出入スルコトヲ得ルモ、漫ニ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス、借庫證書ノ一例次ノ如シ。

印紙

借庫證書

一 號第 號室 戶前

此借庫料一ヶ月金

但 入庫ノ約

右ハ貴社營業規則確諾之上前記商品入庫ノ約束ヲ以テ借庫致候ニ付テハ借庫料出金方其他借庫人ノ義務ハ總テ貴社御規則之通履行可致候若シ貴社ニ於テ該借室明渡シ御必要ノ場合ニハ御通知ノ日ヨリ三十日以内ニ必ス明渡シ可申候依テ借庫證書如件

第二章 倉庫ノ業務 倉庫ノ賃貸及出保管



大正 年 月 日

株式會社橫濱貿易倉庫

御 中

一五八

而シテ倉庫ノ保管料ヲ收メテ寄託貨物ヲ保管スルハ、一見借庫料ヲ徵收シテ其倉庫ニ借主ノ貨物ヲ入レシムルト大差ナキカ如クナレトモ、既ニ述ヘタルカ如ク、倉庫カ貨物ノ保管者トシテ、荷主ノ貨物ヲ預リタル場合ニ於テハ、善良ナル注意ヲ以テ保管シ、例外ノ場合ノ外、損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラス、又荷主ノ請求アレハ倉庫證券ヲ發行スル等、種々ノ義務ヲ負フモノナルモ、借庫ハ民法ノ所謂貸借ニシテ、借主ノ目的ハ單ニ建物ノ使用權ニ在リ、倉庫ハ貸借者トシテ其使用ニ必要ナル修繕ヲ爲シ、使用シ得ルカ如クニシテ、使用セシムレハ其レニテ足り、倉庫證券發行ノ義務ハ勿論貯藏貨物ニ關シテハ、一切責任ヲ負フコトナキモノトス、然ラハ倉庫ハ貸借倉庫及貯藏貨物ニ就テハ全然無關係ナルヤト云フニ、倉庫ハ其所有ノ倉庫ヲ平穩ニ使用セシムルヲ約シタルマテナルヲ以テ、貸借シタル倉庫又ハ貯藏貨物ニ異常アルコトヲ發見スルトキハ、之ヲ賃借人ニ通知シ、且ツ貸借期間内ト雖モ直チニ其返還ヲ求ムルコトアルヘク、又貯藏貨物ノ損敗又ハ賃借人ノ不注意ニ因リ、倉庫又ハ他ノ貨物ニ損害ヲ及ホシタルトキハ、其賠償ヲ求ムルヲ常トス。

倉庫ノ責任右ノ如ク輕少ナルヨリ、借庫料ハ固ヨリ、保管料ト同視スヘキニアラス、開港場等ノ倉庫中ニハ往々外國人ニ對シ貸庫ト稱スル名稱ノ下ニ保管ノ責ニモ任シ、貸庫料、保管料ヲ併セ徵收スルモノアリトカ(純粹ノ保管料ヲ倉敷保管料ト稱スルモノアレト是ハ別ナリ)ニテ此等ハ素ヨリ例外ナレト、普通ハ一箇月坪若干、(註)又ハ大藏若干、中藏若干、小藏若干等ノ如ク、建坪ノ多少ニ依リテ倉庫ノ大小ヲ分チ、月ノ十五日前後ニ依リテ一箇月分ト半箇月分トヲ分ツモアレハ、又倉庫ノ繁閑ト貨物ノ種類、荷主ノ良否等ニ依リテ、其都度適宜ニ割合ヲ定ムルモアリ、要スルニ貸庫ノ如キハ、双方ノ都合ト稀ニ之アルモノナルヘケレハ、料金ノ如キモ別ニ重キヲ措カサルナラン。

(註) 横濱貿易倉庫ハ、例ヘバ下坪四七拾五錢、二階壹圓五十錢ナド、定ム。

(出保管) 商人カ其商品ヲ自己ノ倉庫ニ入庫シタルマ、倉庫證券ノ發行ヲ求ムルコトヲ得ハ、倉庫モ亦商人モ、共ニ便益ヲ享クルナルヘシ、我邦ニテ出保管ト稱スルハ、即チ此目的ヲ達センカ爲メ、倉庫會社カ商人ノ私有倉庫ニ藏置セル貨物ヲ、其マ、倉庫ノ保管ニ移ス目的ヲ以テ、其建物ヲ商人ヨリ借り受ケテ之ニ保存スト云ヘル形式ヲ採リ、其商品ノ倉庫證券ヲ發行スル場合ノ手設ニ外ナラス、畢竟商品ヲ擔保ニ供スル一策トシテ、證券ノ發行ヲ求ムルモノニテ、米國ノ耕作物保管ノ如キモ亦、此一種ニ屬スルモノトス、唯我邦ノ出保管ニハ、商人ヲ倉庫ノ代理人トシテ保管セシムルカ如キコト之ナキ差アルノミ、(種類 Field Storage 参照)今此方法ノ利害ヲ考フ



ルニ、其利益ハ

- 一、商人ハ、其商品ヲ倉庫ニ運ヒ、入庫スルノ手數ヲ要セス、唯倉庫ノ事務員ヲシテ検査、秤量セシムルニ止ルコト。
  - 二、商人ハ其倉庫ヲ使用セシムルヲ以テ保管料モ安ク、出入庫貨等ヲ省キ得ルコト。
  - 三、倉庫モ亦手數少クシテ保管料ヲ得ルノ利益アルコト。
  - 四、入庫貨物充滿シ寄託ノ申込ヲ拒ムカ如キ場合モアランカ、他人ノ倉庫ヲ賃借シテ、積込ムノ必要アルニ、斯ル場合ニ、此方法ニ依ルトキハ、双方ニ便ナルコト。
  - 五、商人自身ノ所有貨物ナレハ、利害ノ感深ク、其保護上ノ注意厚ク、倉庫カ保管スト云フハ單ニ表面上ニ止ルコト。
- 然レトモ此方法ニハ種々ノ弊害アリ、例ヘハ
- 一、私人ノ倉庫ハ往々ニシテ不完全ナルモノ之アリ、之ニ藏置セル貨物ニ對シ保管及ヒ證券發行ノ責任ヲ有スル倉庫ニハ不安心ノ感アルコト。
  - 二、倉庫ノ鍵ハ普通、倉庫ニ引渡シ置クヲ以テ、見本ノ摘出、保存ノ爲メノ手入等ノ場合ニハ、一々倉庫員ノ立會ヲ求ムルノ不便アルコト。
  - 三、萬一寄託主ニシテ不誠實ノ者ナランニハ、合鍵ナトニテ、貨物ヲ出庫スルノ危險アリ、隨テ證券ノ信用ヲ害スルコト。

四、商人及其倉庫ノ確實ナル者ノミニ許シ、其他ヲ謝絶スルコトハ安全ノ策ナレトモ、情誼上斯クスルコト能ハサル場合アルコト。

五、倉庫證券ハ倉庫會社ヲ信用シテ始メテ流通スヘキモノナルニ、私有倉庫ノ保管貨物ニ對スル證券ハ概ネ信用薄ク、延テ其會社ノ證券全體ノ信用ヲ害スルノ虞アルコト。

六、保管料少ク出入庫貨等ヲ收メ得サルノ不利アルコト。

等ニテ、現今倉庫ニ依リテハ之ヲ歡迎セスト聞ク、其重ナル理由ハ願フニ六、五、四ニ在ルヘシト信ス、何トナレハ信用アル商人ノ堅牢ナル倉庫カ倉庫會社ノ附近ニ在リテ、此者ヨリノ信頼ナレハ、一乃至三ノ短所ハ之ヲ補フニ難シトセサレハナリ。

### 第七節 火災保險

倉庫ノ寄託貨物カ、火災ニ因リテ燒失シタルトキハ、其損害ハ何人ニ歸スヘキヤト云フニ、倉庫ノ過失ニ出テタルトキハ倉庫之ヲ賠償セサル可カラサルモノナルモ、寄託主ノ特別ナル委任ヲ待タス、規則トシテ火災保險ヲ附スルノ習慣アル倉庫ニ於テハ、火災保險ヲ附セサルトキハ、假令倉庫ノ過失ニ出テタル場合ト雖モ、損害賠償ノ責任セスト爲ス者アリ、(註)又過失ニ因ラサル場合ハ當然荷主ノ負擔ニ歸スヘキモノニシテ、火災保險ヲ附セサル貨物ハ、當ニ、寄託者又ハ證券所持人ニ不安ノ念ヲ抱カシムルノミナラス、之ヲ擔保トシテ手形ノ割引ヲ依頼スル場合ニ於テモ



割引料多少高カラサルヲ得ス、サリトテ各寄託者カ一々保險ニ附スルトキハ手數モ多ク、料金モ割高ナルノ不利アルヲ以テ、大抵ノ倉庫業者ハ荷主ノ爲メ或保險會社ト特約ヲ結ビ、低廉ナル保險料ヲ以テ保管貨物ノ火災保險ヲ取扱フヲ常トス、(註)尤モ荷主カ特ニ必要ナリトシテ其旨ヲ明ニシタル場合、及ヒ不燃質物ノ如キハ例外ニテ、又火災保險ニ附シタル貨物ノ一部ヲ引渡シタルトキハ、保險金額モ其割合ニ應シテ減少スルモノト定ム、而シテ保險ニ關スル事項ハ、凡テ倉庫會社トノ特約ニ一任シ、荷主ハ其契約事項ヲ知ラサルノ習ヒナレトモ、倉庫ハ荷主即チ被保險者ノ爲メニ、保險ヲ附シ、自ラ保險契約者ト爲リテ、保險料支拂ノ責ニ任スルモノニシテ、保險會社トノ特約證ニハ、荷主ノ委任ニ依ラサル旨ヲ記載シ置クヲ以テ、荷主ハ商法第四百二條ノ規定ニ依リ、當然保險金受取人ト爲レトモ、倉庫ノ規則ニテハ、必ラス倉庫ノ手ヲ經テ之ヲ受取ルヘキモノト爲セリ、又保險金額ハ申込ノ額ニ依ルモ、之ナキカ又ハ不當ナルトキハ、會社ノ規定ニ依ルト定ム。

因ニ云フ、保險ノ期間ハ普通入庫ヨリ出庫マテニテ、保險金額ハ時價又ハ其八九掛、若クハ荷主ノ申込直段ニ依ル、而シテ時價ニハ引取直段トテ商館ノ賣直段、即チ問屋ノ商館ヨリ買入ル、直段(輸入品)ト、問屋直段トテ問屋ノ直段ト、卸直段及ヒ小賣直段等アルモ、普通ハ問屋直段ニ依ルカ如シ。

(註) 墮地利ニテハ、法律ヲ以テ倉庫ガ受寄貨物ニ火災保險ヲ附スヘキコトヲ強制シ、又佛國ハ我邦ノ如ク會社ノ規則ニテ大抵保險ニ附スルコト、定ム。

(註) 倉荷證券ノ約條ニ於テ、輕過失ニ因ル損害ハ負擔セズト爲ス者多シ。

### 第八節 代金ノ取立

倉庫營業ノ本色ハ貨物ノ保管取扱ニ在リテ、金錢ノ受託取立ノ如キハ、固ヨリ好シテ爲ストコロニアラスト雖モ、前述ノ如ク法律ノ規定ニ依リ、是非トモ供託セラルヘキモノハ勿論、法律ノ規定ハ之ナキモ寄託主ノ便宜ヲ圖ル上ヨリ寄託物賣却代金ノ取立ヲ取扱フヲ常トス、即チ寄託主カ其寄託貨物ヲ賣却シタル場合ニ、其都度買受主ト共ニ倉庫ニ出張シ、現物引渡ニ立會ヒ、代金ノ受渡ヲ了スルカ如キハ、不使少カラサルヲ以テ、其取立ヲ倉庫ニ依頼シ、倉庫ハ寄託主ノ依頼書ニ依リテ、代金引換ニ貨物ヲ引渡シ、代金ニハ相當ノ利子ヲ附シテ、貨物預證ト引換ヘニ荷主ニ返却スルモノトス、此場合ニ手數料トシテ、百圓ニ付キ五錢前後ノ報酬ヲ申受クル向モアレハ、又顧客ニ對スル好意トシテ全ク無手數料ニテ取扱フモアリ、前節米穀出庫指圖書ニ依リテ、現物ト引換ニ代金ヲ受取ルカ如キ、又次節甲地ヨリ乙地ニ輸送スル受託貨物ノ代金取立ヲ依頼スルカ如キ、皆此適例ナリ。

### 第九節 貨物ノ轉送

倉庫ハ又寄託者ノ便宜ヲ圖リテ、保管貨物ノ轉送ヲ取扱フコトアリ、例ヘハ東京ノ倉庫ニ預ケ入レタル貨物ヲ、大阪ノ商人ニ賣渡スカ、又ハ自ラ大阪ニテ受取ラントスルトキハ、其證券ニ大阪



渡シノ裏書ヲ乞ヒ受ケ、賣渡ノ場合ニハ更ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シ、貨物大阪着ノ上、之ヲ大阪ノ倉庫ニ呈示シテ貨物ノ引渡ヲ求ムルカ如シ、是レ頗ル便利ノ方法ニシテ盛ニ行ハルルニ至ラハ、貨物ノ轉賣ハ益盛シニ、證券ノ利用愈々巧妙ナルニ至ルヘシト雖モ、此方法ハ、兩地ノ倉庫カ同一營業者ニ屬スルカ、若クハ豫メ轉送取扱ノ旨ヲ契約セルモノナルカ、兎ニ角相互連絡アル場合ニアラサレハ實行シ難キモノナルニ、我邦ニ於テハ商品ノ轉賣未タ倉庫ニ保管セル貨物ヲ、其儘甲地ヨリ乙地ニ移スカ如ク、進歩スルニ至ラサルヲ以テ、他ノ倉庫ト連絡ヲ通スルモノ、如キハ比較的少ク、唯同一ノ倉庫カ甲地ニ本店ヲ置キ、乙地ニ支店又ハ出張所ヲ設クルカ如キ場合ニ、稀ニ轉地ノ取扱ヲ爲スノミニテ、要スルニ此種ノ業務ハ未タ幼稚ナルカ如シ。

倉庫ニヨリテハ、貨物ノ轉送ト共ニ代金ノ取立ヲモ行フモノアリ、例ヘハ東京ノ甲商人、大阪ノ乙商人へ入庫貨物ヲ賣渡シ、其運送方及ヒ代金ノ取立ヲ依頼セントセハ、倉庫證券ニ讓渡ノ裏書ヲ爲スト同時ニ、代金引換ヘニ貨物ヲ引渡サレ度キ旨ヲ明カニシタル後、倉庫ニ呈示シテ前ノ如ク大阪渡シノ裏書ヲ爲サシメ、之ヲ大阪ノ買受主へ送附シ、貨物到着セバ大阪ノ商人ハ之ニ證券記載ノ金額ヲ添へ、其地ノ倉庫ニ提出シテ貨物ヲ受取ルハ、普通ノ轉送ト異ナルコトナシ、而シテ寄託主カ既ニ質入證券ヲ以テ、銀行等ヨリ金員ヲ借入レタル後、貨物ノ轉送ヲ依頼セントスルトキハ、必ス質權者タル其銀行ノ承諾ヲ求メ置クヘキモノトス。

轉地スヘキ貨物カ甲倉庫ヲ出テ、乙倉庫ニ移ル間、換言スレハ貨物輸送ノ責任ハ、何レノ倉庫

カ負擔スヘキヤト云フニ、普通荷主ヨリ轉送ヲ依頼セラレタル仕向倉庫ノ負擔スル所ナレハ、仕向倉庫カ運送取扱人、運送人(通運會社、郵船會社ノ如キ)ノ撰擇及ヒ運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルトキハ、貨物ノ喪失、毀損又ハ延着ニ付キ責任ヲ負フコトナシ、而シテ火災保險ハ貨物ヲ運送人ニ引渡シタル時ニ解除セラレ、運送保險之ニ代ルノ定メニシテ、其保險金額ハ別ニ約束ヲ以テ定メサルハ、貨物發送ノ地ニ於ケル其時ノ價格、及ヒ到達地マテノ運賃、其他ノ費用ヲ合計シタルモノトシ、貨物到達シタルトキハ、更ニ證券面ノ火災保險ヲ附スルヲ常トス。以上ハ某倉庫ノ行フ所ニ據リテ述ヘタルモノナレトモ、三菱倉庫ノ如キハ前節ノ代金取立、並ニ貨物轉送ニ關スル取扱手續、及ヒ手数料等ハ隨時依頼者ト協議ノ上定ムルコト、シ、別ニ之ニ關スル規則ヲ設ケサルカ如シ。

三菱倉庫株式會社ノ營業規則ニ依レハ、貨物運送中ニ於ケル倉庫ノ賠償責任額ハ、保險會社ヨリ得タル運送保險金額ヲ以テ其限度ト爲スヲ以テ、此倉庫モ亦當然運送保險ヲ附シ、其保險金ノ支拂ヲ受クル限り、責任ヲ負フノ意思ナルカ如シ。

### 第十節 割引ノ周旋

倉庫會社ハ寄託主ニ、其發行ニ係ル倉庫證券ヲ擔保トシテ、手形ノ割引ヲ求メ度キ旨ヲ依頼スルトキハ、特約銀行ニ打合せ置キ、低利ノ日歩ニテ割引ニ應セシメ、其他質入證券ノ利用上ニモ、



銀行ヲシテ特別ノ便宜ヲ供セシメ、以テ證券ノ流行ヲ敏活ニシ、金融ヲ疎通セシム、茲ニ割引ノ周旋トハ即チ此謂ヒナリ。

### 第十一節 荷爲替附貨物ノ取扱

荷爲替附貨物ノ荷受主カ、運送業者ヨリ貨物ヲ引取ラントセハ、先ツ銀行へ爲替金額ヲ支拂ヒテ貨物引換證 船荷證券ノ場合モ亦同シ)ヲ受取リ、之ヲ運送業者ニ呈示セサルヘカラス、然ルニ荷受主ハ往々手元不如意ノ爲メ引換證ヲ受取ル能ハス、爲メニ自ラ商機ヲ失シ損失ヲ招クコトアルハ勿論、運送業者モ亦貨物堆積ノ不便アルヲ免レサルヲ以テ、倉庫ハ運送業者及ヒ荷受主ノ便宜ヲ圖ランカ爲メ、先ツ運送業者ヲシテ其名ヲ以テ貨物ヲ寄託セシメ之ニ對シテ左ノ如キ「引換證付貨物受取證」ヲ交付シ置クコトアリ、斯クテ此間幸ニシテ荷受主カ爲替金額ヲ調達シテ銀行ヨリ、引換證ヲ受取リ、貨物ノ引渡ヲ請求シタルトキハ、保管料、立替金、其他保管ニ關スル費用ハ固ヨリ運送業者ノ依頼アルトキハ、引換證面記載ノ運賃及ヒ諸掛ヲ徴收シタル後、貨物ヲ引渡シ、引換證ニ運賃諸掛ヲ添ヘテ運送業者ニ交付シ、豫テ渡シ置ケル貨物受取證ト引換フヘシ。

倉庫業者「引換證付貨物受取證」ヲ發行シテ、一時荷主ノ爲メニ貨物ヲ保管スルモ、右ノ如ク、幾干モナク荷受主ノ資金調達セラル、トキハ、倉庫ノ周旋モ亦簡單ナリト雖モ、荷受主ハ往々資金融通ノ見込容易ニ立タサルカ、又ハ融通ノ望ハ之アルモ、商機切迫シ、空シク手ヲ拱キテ之ヲ待

### 第 一 號 引換證付貨物受取證

記號	荷送人	引換證號	引換證作成年月日	引換證作成人氏名	要 摘
荷造	荷受人	數量	火災保險金	保管料	

前記貨物裏面之約條ニ從ヒ正ニ受取申候也

東京市 區 番 地  
 帝國倉庫株式會社  
 大正 年 月 日 支配人 姓 名 殿  
 右貨物運送業者

### 約 條

- 一 寄託者ハ左ノ條項ヲ約諾スルモノトス
  - 二 寄託物保管中當會社ニ於テ損失ノ責ニ任スルハ雨漏荷盜紛失ノ場合ニ限ル
  - 三 天災事變強盜其他抗拒スヘカラサル災厄ニ罹リ又ハ鼠喰其他侵入其他寄託物ノ性質相候ノ變遷ヨリ生シタル損害ハ當會社ハ其實ニ任セス
  - 四 保管期間ハ三ヶ月間トス保管滿期ニ至リ寄託物ノ出庫ヲナサレカ又ハ寄託繼續等ノ手續ヲ怠リタルトキハ滿期後ハ二倍ノ保管料ヲ申受クヘシ且商法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ處分スルコトアルヘシ
  - 五 保管料及倉入請入費ハ當會社規定ノ割合ニ依ル
  - 六 荷受人ヨリ當會社ニ對シ貨物ノ引渡シヲ請求シタル時ハ貨物引換證引換ニ之レカ引渡シヲナスヘシ
  - 七 運送人ノ請求ニ依リテハ當會社ハ貨物引渡シノ際荷受人ヨリ貨物引換證面記載ノ運賃及諸掛徴收ノ手續ヲ行フヘシ
  - 八 貨物引渡ノ際ニハ保管料立替金其他寄託ニ關スル費用ヲ貨物受取人ヨリ取立ツヘシ
  - 九 本受取證引換ニ運送人ニ交付スヘシ
- 本受取證ハ賣買讓與又ハ債權ノ擔保トナスコトヲ禁ス



ツ能ハサルコトアリ、倉庫ハ此場合ニ於テモ、荷受主ノ爲メ自ラ爲替金額ヲ銀行ニ支拂ヒ、引換證ヲ乞ヒ受ケ、之ヲ運送業者ニ呈示シテ受取ヲ引戻シ、貨物カ銀行ト運送業者トニ對シテ有シタル關係ヲ絶チテ、恰モ荷受主ヨリ質入シタルカ如キ状態ト爲シ、然ル後荷受主ノ爲メニ、證券發行其他ノ方法ニ依リテ貨物ヲ販賣セシメ、買受主又ハ荷受主カ出庫ヲ求ムルトキハ、前ト同様、保管料、普通立替金等ノ外、爲替金額ヲ支拂ハシメ、之ト引換ニ貨物ヲ出庫セシムヘシ。

右ノ方法ハ未タ廣ク行ハル、ニ至ラスト雖モ、三菱倉庫、若クハ東神倉庫ノ如キハ、屢之ヲ取扱ヒ、荷主ノ便利少カラスト云フ。

以上我邦倉庫業者ノ普通ニ行フ業務ハ、略述ヘ終レルモ、此他倉庫ニヨリテ、荷主ニ代リテ米穀取引所又ハ商品取引所ニ對シ、貨物ノ受渡ヲ爲シ、運送業者ト特約ヲ結ヒテ、貨物引換證ノ未着ニ拘ラス荷揚ヲ爲シ、引換證ノ到着スルマテ之ヲ保管シ、或ハ擔保品トシテ庫入シタル生絲ヲ、外國商館等ヘ賣込マントスル荷主ノ爲メニ、特ニ持込持歸ノ手數ヲ爲ス等、荷主ニ對スル特別ノ便宜ヲ與フルモノアルモ、此等ノ業務ノ有無ハ倉庫ニヨリテ同シカラサルカ故ニ、茲ニ之ヲ列舉シテ詳説スルノ必要ナカルヘク、若夫英國其他斯業ノ發達セル諸國ノ倉庫内ニ行ハル、競賣ノ如キハ、證券ノ流通サヘ尙ホ微々タル如キ我邦ニ於テハ、到底驟ニ其實行ヲ望ム能ハサルヘシ。(註ニトハ取引所若クハ倉庫ニ附屬セル公賣場ニ於テ、定時ニ預證券ヲ競賣シスルノ謂ヒニテ、競賣法ニ依リ執達吏ノ行フカ如キ競賣ニアラス)

### 第三章 米券倉庫

#### 第一節 米券倉庫ノ意義及特色

米券倉庫トハ専ラ農家又ハ米穀商ノ米穀ヲ混合保管ト爲シ、之ニ對シテ米券ト稱スル倉庫證券ヲ發行スルヲ、主タル業務ト爲スモノニテ、現今其所在地ハ山形、熊本、廣島、三重、香川等數縣ニ限ラル、モ、古來我邦ニ於テ、特異ノ發達ヲ爲シタルモノナリ。而シテ其主タル業務カ米穀ノ保管ニ在ル爲メ、其從タル業務モ亦隨テ普通倉庫ト同シカラス、例ヘハ次ノ如シ。

- 一、保管米ニ對スル金融
- 二、米穀ノ俵裝及改造
- 三、米穀賣買ノ受託
- 四、小作米徵收ノ受託
- 五、米穀移送ノ受託
- 六、保險事業ノ代辦
- 七、産米品評會、肥料、農具、良種糧ノ購買、紹介等

(右ハ農商務省カ米券倉庫事業トシテ列舉シタルモノナレトモ、一乃至五ハ多數ノ倉庫ニ依リテ行ハル、モノ、如シ) 更ニ米券倉庫ノ特質ヲ詳説スレバ、次ノ如シ。

**(第一) 米券倉庫ハ専ラ米穀ヲ保管ス**

米券倉庫ノ目的ハ専ラ米穀ヲ保管スルニ在ルヲ以テ、普通倉庫ノ如ク米穀雜穀ノ外砂糖、棉花、



羅紗、紙等諸種ノ商品ヲ保管スルモノトハ同シカラス。其專門ナルハ、信州ノ藪倉庫、福島ノ絹絲倉庫ト相類シ、國民ノ第一食料品ヲ保管スル點ニ於テハ、歐米ノ穀物倉庫ト其目的ヲ等クスルモノト謂フヘシ。然レトモ主トシテ米穀ヲ保管スルコト、新潟(北越倉庫)青森(青森倉庫)函館(金森倉庫)諸地方ノ倉庫ノ如クナルモ、是等ノ倉庫ハ單ニ普通商品ノ一種トシテ保管スルニ止リ、混合保管ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ、所謂米券倉庫ニハアラサルナリ。

(第二)米券倉庫ハ寄託米ノ混合保管ヲ行フ

此倉庫ハ各寄託者ノ預入ル、米穀ニ對シ、精密ノ検査ヲ行ヒテ、其種類等級ヲ區別シ、著シク劣等ナルモノハ之ヲ拒絕シテ、合格米ノミヲ保管スルモノナルカ、之ヲ保管スルヤ、同種同等級ノモノハ、所有者ヲ區別セサルヲ其特色トス。即チ混合保管(Deposit for Exchange)ノ一種ニシテ之ニ次ノ二種アリ。

(甲)俵裝ヲ解キテ、純然タル混合保管ヲ行フモノニテ、酒田、鶴岡地方ノ倉庫カ行フモノハ之ニ屬ス。

(乙)俵裝ノマ、品種等級ヲ區別シ、入庫ノ順序如何ヲ問ハサルモノニテ、熊本、廣島地方ノ倉庫ハ、之ニ屬スルモノ多キカ如シ。

斯ル區別ノ生シタルハ、想フニ倉庫カ俵ノ改裝ヲ行フト否トニモ因ルベキモ、(乙)法ニ依ルトキハ、解俵及俵裝ノ手數ヲ要セサル利益アルト同時ニ、混合ノ程度比較的薄ク、從テ齊シク一等米、

二等米ト稱スルモ、其間多少ノ差異ナキ能ハサル爲メ、證券ニ依リ現米ヲ出庫スル者ニ、幾分カ不公平ヲ來スノ弊アリ、混合保管ノ眞義トシテハ、須ク(甲)方法ヲ採ラサルヘカラス、歐米ノ穀物倉庫ノ如キハ、多ク散ノマ、保管シ、又出入庫ヲ爲サシムルヲ見テモ、其利益アルヲ推知スルニ難カラサルヘク、(外國ニモ乙法ノモノナキニアラス)我邦ニ於テモ、更ニ一步ヲ進メテ此程度ニ至ラハ、保管上ノ便益モ亦蓋シ少カラザルヘシ。(第五節參照)

(第三)米券倉庫ハ單純ナル入庫票ニ對シテ自ラ貸付ヲ爲ス

米券倉庫ニ入庫セントスル者ハ、米ヲ倉庫ニ運搬シ、「入庫米申込依頼書」ニ記名調印シテ、寄託ヲ申込ムトキハ、現米調査係ハ其銘柄、等級、樹量ヲ調査シ、合格シタルモノニ對シテハ、「検査積込票」ナルモノヲ發行スルカユヘニ、之ヲ保管部ニ差出シ、引換ヘニ「入庫票」ヲ受取り、若シ寄託米ニ對シ倉庫ノ金融部ヨリ貸出ヲ求メントスルトキハ、之ヲ交付シテ質權ヲ設定スル場合少カラス、即チ倉庫自ラ現物ヲ占有シテ、質權者ト爲ルモノニテ、此場合ノ「入庫票」ハ固ヨリ倉庫證券ニハアラサルナリ。

右ハ關西地方ノ慣習ナルカ、山形地方ニテハ、入庫ノ手續了レハ、現米調査係ハ「入庫通知票」ヲ交付スルヲ以テ、之ヲ勘定係ニ差出シテ、正式ノ倉庫證券ニ引換フルモノトス。

孰レニセヨ、倉庫カ其内部ノ一課タル融金部ヲシテ、貸付ヲ爲サシムルハ、普通倉庫ト異ナル點ノ一タルヲ失ハサルヘシ。此例ハ藪倉庫等ニモ少カラサルカ如クニテ、便利ナルニハ相違ナキモ



斯クテハ質屋業ト相距ル遠カラサルヘシ。(所謂米券トハ正式ノ倉庫證券ヲ指スモノト知ルヘシ)

(第四)米券倉庫ハ農家ノ金融機關タルコト

米券倉庫ノ目的ハ地方ニ於ケル地主、小作農等ノ保管機關、賣買機關タルト同時ニ、其金融機關タルニ在リテ、證券發行ノ目的モ亦主トシテ此目的ニ供セントスルニ在リ。農家カ此倉庫ヲ利用スル目的モ、多ク此邊ニ在ルモノ、如シ。是レ普通ノ倉庫カ専ラ商工業者ヲ顧客トスルト趣ヲ異ニスル所ニシテ、從テ二俵、三俵ノ如キ小口ノモノモ少カラサルコト、爲ルナリ、但シ熊本縣統計ノ示ス所ニ依レバ、寄託石數ハ農家四分ノ一、米商四分ノ三ト云ヘル割合(四十一年—四十二年)ヲ示シ、又山形地方ニテハ、小作米カ三割乃至四割(酒田)若クハ六割六分(鶴岡)ヲ占ムト云ヘハ、地方ニ依リテ農家ノ利用スル程度ヲ異ニシ、大地主ノ多キ地方ハ、小作米ノ入庫高、從テ農家ノ利用高キヲ示スト同時ニ、概シテ米商カ此倉庫ヲ利用スル割合ノ少カラサルヲモ知ルヲ得ヘシ。

(第五)米券倉庫ハ、米穀ノ保管、賣買、金融等ノ便ヲ與フル外、他ノ目的ヲ有スルコト

米券倉庫ノ目的ハ元來農業機關タルニ在ルヲ以テ、米穀ノ保管所ヲ供シ、其賣買、金融ノ便ヲ與フル外、前記ノ如ク、産業改良及統一ノ目的ヲ有ス、即チ表裝ノ改良ト其統一、小作米ノ取立ニ依リテ品質ノ改良ヲ促スコト(佳良ノ小作者ニハ賞與ヲ與フルカ如シ)、品評會ノ開設、肥料、農具、良種子ノ紹介等ニシテ、此點ヨリ觀ルトキハ、米商ノ利用スルカ如キハ、從タル關係ヲ有シ、農家カ此倉庫ヲ利用シテ、或ハ賣買ニ、或ハ金融ニ、其便益ヲ圖ル結果、自カラ米商ニモ利用セ

シムルカ如キモノナラサルヘカラス。實際ニ於テハ目的ノ主客ヲ顛倒シ、却テ主トシテ米商ヲ顧客トスルカ如キ場合之アルヘク、從テ米商ノ賣買若クハ金融機關ト爲ルカ如キコト之アラシモ、此倉庫ノ理想ハ斯クアラサルヘカラサルモノニテ、扱コソ産業組合ニ依リテ經營セントスル說モ顯ハル、所以ナレ。蓋シ普通ノ營理事業トシテ之ヲ經營スルトキハ、顧客ノ何人タルヲ問フノ違ナク、多量ノ寄託者ハ即チ其好得意タルノ理ナレハ、米商ト雖モ、苟モ寄託ヲ求ムル以上ハ、之ヲ歡迎セサルノ理ナケレハナリ(但シ農民ヲ組合員トスル産業組合ト爲スモ、米商カ組合員ヨリ米券ヲ買入レタルトキハ一應之ヲ保管シ置クモノトスヘキカユヘニ、組合員外ノ米穀ハ絕對ニ保管セスト云ヘルカ如キコトハ爲シ能ハサランモ、主トシテ米商ノ賣買機關若クハ投機機關タルカ如キ弊ハ之ヲ避クルヲ得ヘシ)

(第六)米券倉庫ハ公益的性質ヲ帶フルコト

米券倉庫カ公益的性質ヲ有スト云フハ、此倉庫カ農民ノ賣買若クハ金融機關タルヲ云フニアラス、産米改良其他(第五)ニ述ヘタルカ如キ目的ヲ有スルカユヘナリ。然レトモ斯ク云ヘハトテ、我邦現在ノ總テノ米券倉庫カ、此性質ヲ有スト云フニアラス、我邦米券倉庫ノ多數カ行ヒ、若クハ行ハントシツ、アル事業ノ或モノハ、公益的性質ヲ有スルカユヘニ、米券倉庫ハ公益的性質ヲ有スト云フニ在ルノミ。

而シテ此點ハ米券倉庫ノ經營者カ、會社ノ如キ營利團體ナルヤ、將又産業組合ノ如キ非營利團體



ナルヤニ依リテ異ナルモノニアラス、孰レノ團體ニテモ、上記ノ諸事業ヲ經營スルニ何等妨ケ之ナシト雖モ、公益的性質ヲ有スル事項ハ、非營利團體ニ適シテ營利團體ニ適セス。又保管、證券發行、轉送ノ如キ業務ト雖モ、營利團體ノ行フ所ト、非營利團體ノ行フ所トハ、大ニ趣ヲ異ニセサルヲ得ス、又營利ヲ主トスル者カ、公益的事項ヲ行フハ、之ヲ營利ノ手段ニ供スルニ在ルモ、營利ヲ目的トセサル者カ之ヲ行フハ其主タル目的ノ一ヲ行フコト、爲リ、從テ得意關係ノ如キモ前述ノ如ク差異ヲ生スルニ至ル。

然レトモ一國カ之ヲ公益機關タラシムルヤ、將又營利團體ニ放任スルヤ、或ハ是等兩者ヲ認ムルヤハ自カラ別問題ニシテ、我邦ノ現狀ハ寧ロ前者ヲ採ルヘキニアラスヤ、農商務省ノ目的モ亦此邊ニアラスヤト思ハル、モ、若シ斯クアランニハ、宜シク特別法ヲ設ケテ其保護誘導ヲ圖リ、且ツ之ヲ監督セサルヘカラス、之ヲ現狀ニ委スルトキハ、非營利組織ノモノモ、漸次營利的ト爲リ、遂ニハ或論者ノ説ノ如ク、米商ノ好機關タルノ虞ナキニアラス。

米券倉庫カ、公益的性質ヲ有スト云フヲ非難スル者アリ、曰ク「總テノ倉庫ハ公益的ノモノナレハ、獨リ米券倉庫ノミカ公益機關ナリト云フハ非ナリ」ト、一應尤ニシテ倉庫ハ他人ノ貴重ナル財産ヲ保管シ、其發行スル倉庫證券ハ、物權的性質ヲ有スル重要ナル信用證券ナレハ、此點ニ於テ公益ニ關スルモノト云ヒ得サルニアラス、猶ホ運送業、銀行業、保險業、就中運送業ノ如クナレトモ「公益」ナル語ノ意義ヲ廣ク解シ、通義以外ニ用ユルニアラサレハ、此解釋ハ當ヲ得サルモ

ノト謂ハサルヘカラス、蓋シ倉庫ハ他人ノ貨物ヲ保管シテ、其報酬ヲ收ムル營利事業ニシテ、普通ノ倉庫會社ハ決シテ普通所謂公益ヲ目的トスルモノニアラサレハナリ。唯保稅倉庫、歐米ノ穀物倉庫ノ如キハ、普通ノ倉庫ト同シカラサルカユヘニ、公益的性質ヲ有スルモノニテ、是レ即チ特別法ニ依リ、特別ノ監督ヲ加フル必要アル所以ナリトス。

### 第二節 米券倉庫ノ業務及其利弊

(一)米穀ノ保管 地方ノ農家殊ニ地主ハ米穀ヲ貯藏スル爲メ、各自倉庫ヲ所有セサルヘカラス、其建設費用、保管ノ勞苦モ少カラサルモノナルカ、之ヲ專問ノ倉庫ニ寄託スルトキハ、些少ノ保管料ヲ以テ、是等ノ失費ト手數トヲ避クルヲ得ヘシ。殊ニ米穀ハ貯藏中、蟲鼠害、變質等ノ損害ヲ生シ易ク、一般ニ梅雨期後ニ於テ品質モ低落スルモノナレトモ、之ヲ完全ナル專問ノ倉庫ニ寄託スルトキハ、或程度マテ此損害ヲ避ルヲ得ヘク、又燻蒸法等ヲモ施シ得ルノ便益アリ、全國ニ亘リテ米券倉庫ノ設立ヲ見ルモ、私有ノ穀倉カ全ク不用ニ歸スヘシトモ思ハレサレトモ、山形縣庄内三郡ノ如キハ、地主ハ漸ク其倉庫ノ不用ヲ感シツ、アリト云フ。

(二)俵裝ノ改良 從來米穀ノ俵裝ハ舊式ノ俵又ハ叭入ニテ、其容量モ少キハ三斗五升ヨリ四斗、四斗二升、多キハ五斗ト云ヘルカ如ク、一定セス。加之其造リ方不完全ナル爲メ、貯藏持續期間ハ九ヶ月又ハ十ヶ月ニ過キス、步減リモ四分乃至八分ニ及フヲ常トス、然ルニ米券倉庫ハ其事業



ノ一項目トシテ俵裝部ヲ設ケ、一定ノ料金ヲ求メテ、俵ヲ造リ繩ヲ掛替ヘ、完全、且ツ一定ノ俵裝ト爲スヲ以テ、此等ノ不利益ヲ避クルト同時ニ、賣買取引上ニモ便益ヲ供スルニ至ル。

(三)金融ノ便益 米券倉庫カ農家ニ與フル便益ノ最モ大ナルハ、蓋シ金融上ノ便ヲ供スルニ在リ。即チ寄託米ニ對シテ發行セラル、米券ニ依リテ、容易ニ倉庫自身又ハ、其媒介スル銀行業者ヨリ資金ノ融通ヲ仰クヲ得ヘシ。元來農家就中小農ハ新米ノ出盛リ時代ニ肥料代金、税金、其他家政上ノ費用ヲ支拂ヒ、又ハ借入金ヲ返却スル必要アルモノナレハ、往々相場ノ如何ニ關セス、賣却ヲ餘儀ナクセラル、コトアリ、農家一般ニ資金ヲ要スル時機ニハ、共ニ賣急キテ所謂「賣リ崩ス」コト、ナリ、自然米商ニ左右セラル、コト、爲ルモ、之ヲ倉庫ニ寄託スルトキハ、能ク斯クノ如キ不利益ヲ避クルヲ得ヘシ。農家ノ金融機關トシテハ、農工銀行、產業組合等ノ機關之ナキニアラサルモ、農工銀行ハ地主ノ一部カ利用スルノミニ止リ、產業組合ノ數モ未タ洽カラサル現時ニ於テハ、此種ノ方法ニ依リ、農家ノ金融ヲ圓滿ナラシムルハ、顧フニ喫緊ノ政策タルヲ失ハサルヘシ。

(註) 熊本縣ニ於テハ四十二年十一月以降一箇年間ニ縣内十八倉庫カ自ラ貸付アリタル金額ハ十四萬二千餘圓ニ過キサルモ倉庫以外ニ於テ融通セラルタ金額百七萬五千圓アリ。而シテ借主ノ大部分ハ米商ニシテ、農家カ融通ヲ求メタル金額ハ、倉庫貸付十四萬圓ノ中僅ニ六萬圓ニ過キサルモ、是レハ農家ノ借入金額ハ小口ナルニ因ルモノノ如シ(例ハ七圓、四圓、三圓ト云ヘルカ如キモノアリ)

米券ハ農家ノ金融機關タルト同時ニ、米商ノ金融手段ヲ供シ、後者却テ前者ヲ凌クヲ常トス。是

レ固ヨリ不當ニアラサルノミナラス、米商カ此便益ヲ得ルハ即チ此種倉庫ノ發達ヲ促ス所以ニシテ、之ヲ此倉庫ノ沿革ヨリ考察スルモ、亦自然ノ勢ヒナレトモ、農民ヲシテ、充分利益ニ浴セシメントスルニハ、產業組合ノ經營カ、孰レカノ方法ヲ講セサルヘカラス。蓋シ主タル顧客カ米商ナリトスレハ、其營業振モ、料率モ、總テ米商本位ト爲リ、農民ノ利害ノ如キハ自然閑却セラル、ニ至ルヘケレハナリ。

(註) 酒田、鶴岡ノ倉庫ハ倉庫證券ノ單位ヲ十石トシ、十石未満ノ寄託米ニ對シテハ單ニ「入庫通知書」ヲ發シ、其石數十五ニ達スルヲ待チテ、始メテ證券ヲ發行スルカユヘニ、小農ノ利用セラルル範圍少キ弊アリ、宜シク熊本、廣島ノ例ニ從ヒ、一俵ヲ單位ト爲スヲ可トス。

(四)米穀賣買上ノ利益 從來農家カ其米穀ヲ米商ニ賣却スルヤ、其數量小口ナルモノハ、米商ニ致サル、ノ不利アリ。米商モ亦各農家ニ就キ一々品質、樹目ノ検査ヲ爲シ、見本取引ナルトキトハ、現品ト相違セサルヤ否ヤヲ改ムルノ手數、相違セル場合ノ値押シ等、種々ノ不便アル外、一、二等米ノ如キハ、他地方ヨリ大口ノ注文アルモ之ヲ引受ケ得サルノ不利アリ、從テ從來ハ輸出検査ノ際、假令二等米カ十俵、二十俵出ツルコトアルモ、之ヲ三等米トシテ、三等米買取客ニ提供スルカ如キ事情ナリシモ、米券倉庫ハ、精密ナル検査ヲ施シ、嚴格ナル等級ヲ附シテ混合保管ト爲シ、簡便ナル證券ヲ發行シ、之ニ依リテ賣買セシムルノミナラス、自ラ委託ヲ受ケテ販賣ヲ行フコトアリ。又普通ノ共同販賣(產業組合ノ販賣組合ノ如シ)ヲ行フニ當リテモ、此證券ヲ用ユルト



キハ、萬事簡易ニ行フヲ以テ、能ク如上ノ弊害ヲ避クルヲ得ヘク、米ノ一般消費者モ亦其恩澤ニ浴スルヲ得ヘシ。若シ夫レ米券取引所カ、米券ニ依リテ受渡ヲ行ハシムルカ如キハ、東西ヲ問ハス、古來廣ク行ハル、所ニシテ、其利便アルヤ多言ヲ須ヒサルヘシ。

(五)小作米ノ徴收 小作米ノ徴收ハ從來地主ノ最モ勞苦ト爲セシ所ニシテ、之ヲ取立ツル際、先ツ歩合ヲ定メ、各俵毎ニ一々榷目(又ハ重量)品質、俵裝等ヲ検査スルノ必要アリテ此間ノ交渉、往々圓滑ヲ缺クコトアリ、小作人モ亦之ヲ地主ノ倉庫ニ運搬スル時ト勞力トヲ冗費スルノ習ヒナリシモ、米券倉庫ハ其事業ノ一部トシテ、其取立ヲ請負フヲ以テ、是亦兩者ニ對スル便益少カラス。殊ニ熊本縣ノ一部地方ニ行ハル、カ如ク、地主組合カ共同徴收ヲ行ヒ、之ヲ倉庫ニ寄託シテ、其米券ヲ組合員ニ配布スルトキハ、其利用最モ妙ナルヘシ。

(六)産米検査 米券倉庫ハ混合保管ノ必要上、必ラス精密ナル検査ヲ遂ケテ、等級ヲ區別スヘキモノナルニ、恰モ政府又ハ府縣當局ハ産業ノ改良ヲ促ス爲メ、亦之ヲ行ハシムルノ必要アリテ、現今各縣ニ於テ或ハ縣ノ事業トシ、若クハ組合ノ事業トシテ、之ヲ實行セルカ、熊本縣ノ如キハ、米券倉庫ト聯絡シテ之ヲ行ヒ、秋田縣ノ如キモ、地主等カ共同倉庫ヲ設ケ、小作米納入ノ際、縣検査員ノ検査ヲ受ケシムルコト、爲シタリト云フ。顧フニ此方法ハ一方倉庫ノ信用ヲ博スルト同時ニ、産業改良ノ實ヲ擧グルニ最モ有效ナラサルヘカラス。蓋シ検査ノ結果一、二等ニ格付セラレ、トキハ、自然高價ニ賣放チ得ルノ利益ヲ享クルモ、三等若クハ四等米以下ニ下ケラルトキハ、

其損失少カラサルヲ以テ、自ラ品質ノ改良ヲ促スコト、爲ルカ所以ナリ。

此他各地ノ倉庫間ニ聯絡ヲ圖リテ寄託米轉送、及荷爲替取組ノ便ヲ圖ルコト、低率ヲ以テ保險ヲ附スルコト、肥料、種子ヲ紹介スルコト等、從タル利益モ亦鮮少ナラサルモノトス。

然レトモ利害相伴フハ免レサルノ約束ニシテ、米券倉庫モ亦多少ノ弊害ヲ有ス、例ヘハ次ノ如シ。

- (一)倉庫ノ建築不完全ニ、保管上ノ注意不充分ナルトキハ、第一ノ利益タル保管機關タル能ハサルハ固ヨリ、自然、證券ノ信用モ薄ラキ、此事業ノ利益ハ盡ク減却セラレ、ニ至ラン。
- (二)米穀ノ等級別ハ斯業ノ根底ニシテ、其検査類別粗漏ナルカ、検査員ニシテ手心ヲ加フルカ如キコトアランカ、米券ハ即チ信用ヲ失フテ、何等ノ用ヲモ爲サ、ルニ至ラン。元來米ハ產地ニ依リテ其品質ヲ異ニスルノミナラス、同一地方ニ於テモ其種類少カラス、品等ノ如キモ、米質、色澤、形狀、乾燥等種々ノ標準ニ依リテ區別スルトキハ、十數等ニモ分ツヲ得ヘシ、然ルニ實際ノ便宜上四等又ハ五等(四等多シト云フ)ニ類別スルニ止ルヲ以テ、此點ニ於テ既ニ幾分粗雑ナル弊アルニ、更ニ検査員カ其智識熟練ヲ缺クカ、智識熟練ハ之アルモ、外部若クハ七役ノ壓迫若クハ誘惑ヲ受ケテ、依估ノ検査ヲ行フニ於テハ、其弊害ヤ圖ルヘカラス。山形縣ノ如キハ、輸出米検査ノ吏員ヲ養成スル爲メ、甲種農業學校卒業生ノ志望者二百四十名中ヨリ二十七名ヲ簡拔シ、講習手當ヲ給與シ、十三ヶ月間米穀鑑査ノ技能ヲ養ハシメタルコトアリ。某經驗家ノ說ニ依レハ、検査員ノ養成ニハ少クモ三年ヲ要シ、充分ノ信用ヲ措クニ足ルマテニハ七年



ヲ要スヘシト云フ、以テ其技術ノ如何ニ難キヤヲ知ルニ足ルヘシ。而シテ内外ノ壓迫若クハ誘惑ヲ受クル虞アリト云フハ、其地方ノ地主又ハ米商ハ、寄託米ノ格付如何ニ依リテハ、一等級ノ差ニテ、石三四十錢ノ損失ヲ蒙ルコト、爲ルカユヘニ、検査員ヲ使曠シテ、其検査ヲ二三ニスルナキヲ保セサルハナリ。

要スルニ、普通倉庫ノ場合ノ如ク、此倉庫ノ從業者ハ、總テ誠意事ニ從フ者ナラサルヘカラス。

(三)米券ハ米穀ノ賣買ヲ容易ナラシムルト同時ニ、多少其投機ヲ獎勵スルノ傾キアリ、當ニ取引所カ受渡ノ手續ヲ簡ナラシムルヲ得テ、其投機ニ便スルノミナラス、取引所ナキ地方ニ於テモ、單ニ紙片ニ依リテ、米券ヲ受授シ得ルトキハ投機的ニ賣買ヲ試ムル者ノ増加スルヤ疑ヲ容レス。但此場合ハ空米相場ト異ナリ、紙片ニモセヨ現米ヲ代表スル證券ヲ以テスルカユヘニ、純投機賣買、若クハ賭博的賣買ノ弊ハ之ヲ避クルヲ得ヘキノミ。加之多少投機賣買ヲ増加スト雖モ、是レ亦一面ニ於テハ物價ヲ調和セシムル所以ナルヘキヲ以テ、此點ハ強チ咎ムヘキモノニアラス、株券カ工場、機械、商品、鐵道等ヲ證券化シタルモノトセハ、是ハ米穀ノ證券化シタルモノナルカユヘニ、株式投機的賣買ノ不當ナラサル限り、此投機モ亦不可ナカルヘキノ理ナリ。唯之カ爲メ地方一般ニ浮薄ノ風ヲ養ヒ、農民ノ特色タル堅實ノ美風ヲ失フニ至ラハ、其害毒決シテ少カラサルヘシ。

(四)又米券ヲ投機ニ利用スル結果、倉庫當業者カ之ヲ行フカ、若クハ米國ノ惡例ノ如ク、投機業

者カ米券倉庫ヲ設立シテ、其在庫米、若クハ米券ヲ害用スルカ如キ事アラハ、ソレコソ由々シキ大事ト謂フヘシ。

(五)米券ハ金融ノ便ヲ供シ、而モ此便益ハ斯業ノ要素トモ謂フヘキモノナルカ、之カ爲メ地方農民ノ金囊ヲ肥シ、延ヒテ奢侈ノ惡風ヲ養成セサルコトナキヲ患フル者アリ。至極尤モノ説ニシテ、既ニ農工銀行ノ如キモ、幾分此弊ヲ助長シタル地方アリト云フ。然レトモ是ハ總テノ金融業ニ伴フ弊害ニシテ、苟モ金融アレハ、多少ノ奢侈ヲ誘フハ免ルヘカラス、又資金ノ用途ノ如キハ、法規ヲ以テ制限スルモ、其效薄キモノナレハ、此點ハ經營者、又ハ銀行ノ貸出手心ト、農民自ラノ自覺トニ俟ツ外之ナカルヘシト信ス。

(六)米券倉庫ヲ利用スル者ノ多數ハ米商若クハ地主ニシテ、小作人カ之ヲ利用スル程度比較的少ク、小作米徵收ノ場合ニ於テモ、地主ハ共同シテ勝手ノ規約ヲ設ケ、例ヘハ小作米納入不能ノ制裁トシテ、小作除名ノ處分ヲ行ヒ、其小作人ノ耕作スル總テノ地主ノ地面ヲ取り上ケ、總會ノ決議ヲ經サレハ直接間接ニ小作ヲ許サスト爲スカ如キハ、有效ナル制裁ニハ相違ナカラシモ、餘リニ苛酷ニシテ、其他之ニ類スル態度ヲ以テ小作人ニ臨ムトキハ、却テ小作人ト地主トノ調和ヲ破ルコト、爲ラント云フ者アリ。是亦一理アルノ説ナルヲ以テ、地主組合ハ、大ニ此點ニ留意スルヲ要スルモ、元來小作人中ニハ往々不心得ノ者アリテ、年貢米ノ歩合ニ苦情ヲ設ケ、其楨目ヲ二三ニシ、故ラニ滯納シテ顧ミス、地主ノ隱忍モ遂ニ耐ヘ難キ場合少カラサルヲ以テ、



多少共酷ニ見ユル制裁ヲ加フルモ、亦已ムヲ得サルモノアルヘシ。

又米商カ利用スル結果ハ、獨逸式ノ農民機關ヨリ轉シテ、米國式ノ商人機關ト爲リ、遂ニ米商「トラスト」ノ買占若クハ賣崩機關、約言スレハ獨占的賣買機關タルヘキヲ患フル者アリ。是レ或ハ然ルナキヲ保セサレトモ、岡本氏ノ所言ノ如ク、今日ニ於テハ、未タ之ヲ憂フル時機ニアラスシテ、其設立ヲ德通スルノ時代ニ在リ、唯將來此弊ナキヲ期セハ、今ヨリ之ニ關スル特別法制定ヲ案スルコト、並ニ産業組合ノ經營法等ヲ研究スルコト等ノ策ヲ講スルニ在ルノミ。

### 第三節 米券倉庫ノ組織及經營

(一)局課 米券倉庫ノ事業ハ、地方ニ依リテ差異ナキヲ得スト雖モ、次ノ三分課ハ必ラス之ヲ設ケサルヘカラス。

(一)検査部 ハ寄託米ノ審査ヲ行フヲ目的ト爲スモノニシテ、其地方ニ於テ經驗アリ、信用アル米商ヲ採用シ、若クハ縣ノ検査員ニ委囑スルヲ可トス。検査ノ結果ヲ記入シタル「積込票」ヲ交付スルヲ以テ、之ヲ保管部ニ示シテ之ト引換ヘニ「入庫票」又ハ「米券」ヲ受取ルモノトス。

(二)保管部 ハ保管ニ關スル一切ノ業務ヲ行フモノニシテ、検査部カ寄託者ニ交付シタル「積込票」ニ依リテ「入庫通告票」ヲ交付シ、之ヲ倉庫長ニ差出シテ、倉庫證券(倉荷證券又ハ預證券及質入證券)ヲ受取ラシム。尤モ倉庫ニ依リテハ「検査票」ト引換ヘニ、保管部入庫係ヨリ證

券ヲ交付スルモノ少カラス。就レノ場合ニ於テモ、保管日誌及證券原簿(證券ハ之ト割印ヲ爲ス)ニ記入シ置キ、出庫ヲ求メタルトキハ、證券ト帳簿記載事項トヲ照合シ、相違ナキトキハ帳簿ニ其旨ヲ記入スルト同時ニ、證券引換ヘニ「出庫米通告票」ヲ交付シ、之ニ依リテ出庫セシム。

(三)金融部 産業組合其他金融機關ノ少ナキ地方ニ在リテハ、倉庫自ラ寄託米ニ對シテ貸付ヲ行フモノアリ、即チ此部局ヲ設クル所以ニシテ、此場合ニハ特ニ倉庫證券ヲ發行スルノ必要ナキヲ以テ「入庫票」ニ對シテ貸出シ得ルノ利益アリ。寄託者カ便益ヲ享クルノミナラス、倉庫モ亦貸金ノ利子ヲ得テ收利ノ少キヲ補フノ利アリ。之カ資金ハ出資金ヲ以テ之ニ充ツルヲ常トスルモ、又斯ク質取リシタル米穀ニ對シテ、自ラ證券ヲ發行シ、之ヲ銀行ニ差入レテ借出シ、其資金ニ充ツル者モ少カラスト云フ。荷爲替ノ取組ヲ設フトキハ、是亦此部ノ業務ニ屬スヘキヤ謂フ俟

右ハ最も重要ナル部局ナルカ、此他「販賣部」ヲ設ケテ寄託米ノ委託販賣、若クハ共同販賣ヲ行ヒ、或ハ「移轉部」ヲ設ケテ其輸送ヲ行ヒ、運送保險ヲ代辦セハ、便益少カラサルヘシ。

(二)倉庫ノ位置及構造 倉庫ノ所在地ハ、此倉庫ノ性質上、米產地ノ中心ニ在リ、且ツ海陸交通ノ便アル地區ヲ擇フヘク、又建物ハ創業ノ際已ムヲ得サル場合ニハ、地主ノ舊倉庫ヲ利用スルモ亦不可ナカルヘシ雖モ、成ルヘク完全ナル構造ノモノヲ新築スルヲ可トス。然レトモ是ハ専門的ノ技術ニ屬スルカユヘニ、本書ハ之ヲ省キ、専門ノ技師又ハ實地經驗家ノ研究ニ委スルコト、



スベシ(但シ此點ハ頗ル重要ナル項目ナリト知ルベシ)。

(三)倉庫ノ組織 我邦ニ於ケル米券倉庫ノ組織ヲ觀ルニ、最モ多キハ組合ニシテ、廣島縣ノ大部分(株式會社若干アリ)熊本縣ノ多數ハ皆組合組織ナリ、唯秋田縣ノ酒田、鶴岡二大倉庫ハ株式組織ナレトモ、是等ハ元來其起源ニ於テ米穀取引ノ機關トシテ設立セラレタルモノナルカ爲メナリ。更ニ海外ノ例ヲ觀ルニ、米國ノ穀物倉庫ニハ鐵道會社ニ附屬スルモノト、專門ノ倉庫トアリ、專門ノ倉庫中ニモ「認定」ト「普通」トアリテ、一般ニ規模大ナルカユヘニ、株式會社ノ組織タルハ固ヨリ、其數モ亦全國ニ洽クシテ、相互ノ連絡能ク行ハレ、穀物商人ハ之ヲ利用シテ買占等ヲ行フ場合珍シカラスト云フ。而シテ所謂認定倉庫ナルモノハ、農産取引所又ハ商業會議所カ、之ニ關シテ嚴密ナル監督ヲ加ヘ、検査員ノ任命、其職務執行法、検査料金、保管料率、證券等一々之ニ拘束セラル、モノトス。

獨逸ノ穀物倉庫ハ之ニ反シテ、皆產業組合組織ニシテ、其規模モ小サク、或ハ穀物販賣組合ノ附屬倉庫トシ、或ハ倉庫專門ノ組合トシテ經營シ、從テ營利ヲ目的トセサルモノ、如シ。是レ此國ハ幾分穀物ノ不足ヲ感シ、之ヲ外國(露西亞、米國等)ニ仰クモノナルニ、穀物商人ハ往々低廉ナル外國品ヲ多量ニ輸入シ、內國產品ノ市價ヲ低落セシムルコトアルヲ以テ、農民ハ之ニ對抗スルノ必要上、至ル所ニ穀物倉庫ヲ設ケ(普國政府ハ之カ建築ヲ補助シ、申出組合ノ爲メニ、堅牢ナル倉庫ヲ建設シ、建設費ニ對スル極メテ低率ノ利子ト、收益ノ幾部分(五ケ年ニ八%)トヲ收ムル

コト、爲セリ)政府モ亦其公益的性質ヲ認メテ之ヲ獎勵シタルカ爲メニテ、純然タル農業倉庫ノ特色ヲ發揮スルヲ得タリ。

今我邦ニ於テ米、獨執レノ式ニ依ルヘキ、換言スレハ米國ノ如ク倉庫自然ノ發達ニ任セ、唯取引所ノ如キモノニ其監督ヲ委スルニ止ルヤ(米國ニテモ、穀物倉庫ニハ州法カ干涉シ、料金ノ限度ヲ定ムルカ如キコトアリ)或ハ獨逸ノ如ク、產業組合ニ依ル倉庫設立ヲ獎勵スルヲ可トスルヤト云フニ、此問題ハ國家ノ政策トシテ觀察スル場合ト、農家、商人、倉庫業者、銀行等ヨリ觀タル場合トニ依リテ、自カラ利害ヲ異ニセサルヲ得サルカユヘニ、一概ニ「米券倉庫ハ農業機關ナリ、故ニ產業組合ニ依ルヲ可トス」ト爲ヌヲ得サルモノトス。

扱此事業ヲ營利事業ノ一種トシテ觀察スルトキ、即チ滿倉庫、冷蔵倉庫ノ如キ單ニ特別倉庫ノ一種ト見做スニ止マルトキハ、米穀商人カ之ヲ營ムモ、從來ノ倉庫業者カ附屬的ニ經營スルモ、銀行若クハ鐵道會社カ附屬事業トシテ行フモ、其組織カ合名ナルト、株式ナルト、將又組合ナルトハ問フ所ニアラス、要スルニ其地方ニ適シ經營者ノ自ラ適當ト信スル組織ヲ以テ營マハ、ソレニテ可ナルノ理ニテ、之ヲ利用スル者カ米商ナルト、地主ナルト、將又小作人ナルトニ關セサル所ナリ。我邦ノ山形縣ノ倉庫、其他會社組織ノモノハ、顧フニ此方針ニ出テタルモノナルヘク、營利倉庫ノ一種トシテ觀ルトキハ、之ニテモ支障ナカルヘク、之ヲ自然ノ發達ニ委スル方、却テ妙ナル邊ナキニアラスト雖モ、米穀ハ特別ノ性質ヲ有スルヲ以テ、之ニ對シテ特別法ヲ設ケ、其設立